

はじめに

(1) 調査の目的

都市における緑は、ヒートアイランド現象の緩和や二酸化炭素の吸収・固定など、生活環境を向上させる機能を有しているほか、なごやらしい季節の移ろいや景観を形成し、人々の憩いの場として、また、多様な生物の生息・生育地として、さらには自然災害が発生した際の避難地・避難路にもなり得る。このように緑は、都市の生活を様々な面で支える重要なインフラである。

緑の現況調査（本頁では以下、「本調査」という。）は、名古屋市（以下、「本市」という。）における緑の現況と推移を把握し、定量的に評価することで、市民に緑の現状を分かりやすく伝え、市民の緑に関する意識の向上を図るとともに、今後の緑のまちづくり施策を効果的に進めていくための基礎資料にすることを目的として実施したものである。

(2) 調査の位置付け

本調査は名古屋市緑のまちづくり条例第44条に定められた緑の現況に関する調査である。

また、名古屋市総合計画の個別計画である「名古屋市みどりの基本計画2030」では、みどりの都市像として「みどりと人がきらめく 自然共生都市・なごや」を目指し、都市力・地域力・持続力を高めることを基本方針として個別施策を進めることとしている。本調査は「名古屋市みどりの基本計画2030」において、持続力を高める個別施策（K7の環境）に位置付けられている。



図：名古屋市みどりの基本計画 2030 の方向性

(3) 調査の経緯・構成

本調査は、平成 2(1990)年度から 5 年ごとに実施しており、今回で 8 回目の実施となる。本調査は、緑被率調査、緑視率調査、沿道緑化率調査の 3 つの調査から構成され、緑被率調査は平成 2(1990)年度から継続的に、緑視率調査は平成 27(2015)年度から令和 2 (2020) 年度まで、沿道緑化率調査は令和 2 (2020) 年度から実施しているものである。

表：緑の現況調査の経緯と構成

調査名	H2(1990)	H7(1995)	H12(2000)	H17(2005)	H22(2010)	H27(2015)	R2(2020)	R7(2025)
緑被率調査	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法	○ 衛星画像 解析手法	○ デジタル マッピング手法	○ デジタル マッピング手法
緑視率調査	—	—	—	—	—	○	○	—
沿道緑化率調査	—	—	—	—	—	—	○	○

## 第I編 緑被率調査

### 1. 調査の概要

#### 1-1. 調査の位置付け

緑被率調査（以下、「本調査」という。）は、本市の緑の現況調査の一つとして、上空から見た緑の現況を調査するため、平成2(1990)年度以降5年ごとに実施しているものであり、令和7(2025)年度は8回目の実施となる。なお、平成27(2015)年度のみ手法が異なる調査となっている。

#### 1-2. 「緑被率」の定義

本調査における「緑被率」とは、緑被地面積が市域面積、区面積、土地利用面積などの全体面積に占める割合と定義する。

#### 1-3. 対象とする緑

本調査で対象とする緑（以下、「緑被地」という。）は、樹木や芝などの植物等に覆われた土地、農地及び水面と定義し、その緑被地の分類（以下、「緑被種別」という。）は、表I-1のとおり、「高木」、「低木」、「竹林」、「街路樹高木」、「街路樹低木」、「芝地」、「草地」、「水田」、「畑」、「果樹園」、「その他農地」、「河川」及び「ため池」の13種に区分（細種別）した。

また、これを基に、高木、低木、竹林、街路樹高木及び街路樹低木を「樹林地」、芝地及び草地を「芝・草地」、水田、畑、果樹園及びその他農地を「農地」、河川及びため池を「水面」と区分（4種別）した。

表I-1：緑被地の定義及び種別

緑被種別とコード番号		内容	
4種別	細種別		
樹林地	11	高木	樹高が3m以上の樹木
	12	低木	高木以外の樹木
	13	竹林	竹林
	14	街路樹高木	道路敷地内にある樹高が3m以上の樹木（並木等）
	15	街路樹低木	道路敷地内にある高木以外の樹木及び花壇
定義）樹木の樹冠で覆われた部分			
芝・草地	21	芝地	ゴルフ場・公園緑地・球戯場・商業施設・住宅地などの施設周辺にある草丈の低い芝等
	22	草地	野草地・河川敷など自然又はそれに近い環境にある草丈の高い草等
定義）芝・草に被覆された部分			
農地	31	水田	休耕田を含む
	32	畑	花・野菜類
	33	果樹園	栗・柿・柑橘類など
	34	その他農地	桑畑・茶畑・苗木畑・温室栽培・畜舎等・その他農業用諸施設
定義）農業関連用地の敷地（作物・用途により分類）			
水面	41	河川	河川・水路・運河（流れのある水面・最終橋梁まで）
	42	ため池	ため池・湖沼（流れのない水面）
定義）水界線で囲まれた部分（プール・防火用水・浄水用沈殿池は含まない）			

## 2. 調査の実施方法

### 2-1. 調査の実施時期

本調査は、令和7(2025)年5月5日撮影の航空写真を基に実施した。

### 2-2. 調査対象地

本調査の対象地は、本市域全域である。

### 2-3. 調査方法

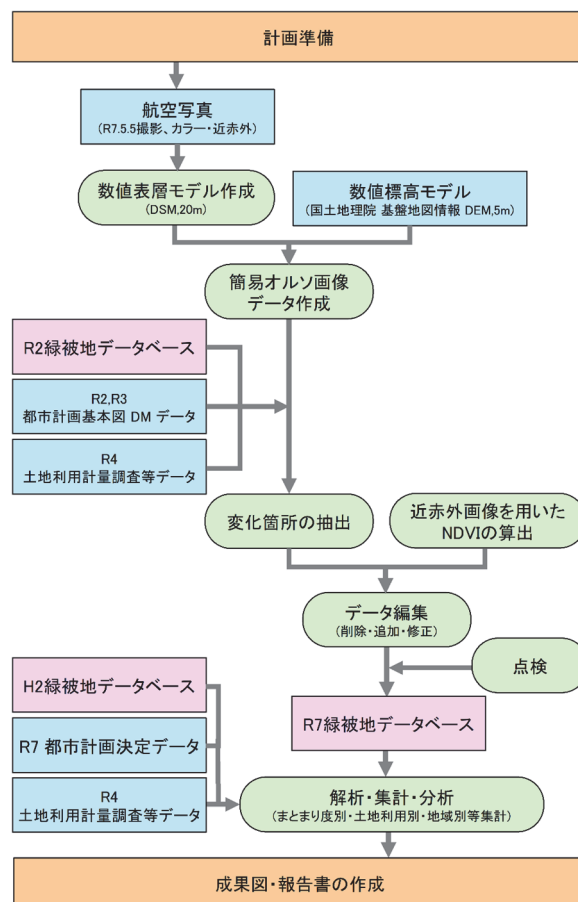
#### 2-3-1. 調査の実施フロー

本調査では、令和7年撮影の航空写真を基に、令和2(2020)年の緑被地データベースを修正することにより、令和7年の緑被地データベースを構築した。

なお、緑被地データベースの修正に当たっては、デジタル図化機を用いたデジタルマッピング手法により行った。なお、その際の緑被地の判読は、表I-2に示す方針により行った。

この緑被地データベースを基に解析・集計することにより、緑被率の現況及び変遷を調査した。

図I-1に調査の実施フローを示す。



図I-1：緑被率調査の実施フロー

表I-2：緑被地の判読方針

- ・ 航空写真撮影時を現況とする。
- ・ 10 m<sup>2</sup>を最小抽出単位として、細種別ごとに抽出する。
- ・ 10 m<sup>2</sup>未満の緑被地についても、周辺の状況から1つのまとまりと判断できる場合には一団の緑被地として計上する。

## 2-3-2. 使用・参照した資料

本調査においては、以下の資料を使用又は参照した。

表 I-3：使用・参照資料一覧

資料名	形式	作成年(度)	使途・備考等
航空写真	JPG, TIFF	R7	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7(2025)年5月5日撮影</li> <li>R7都市計画図修正業務成果を活用</li> </ul>
基盤地図情報 数値標高モデル (国土地理院 DEM 5m)	XML	R7	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡易オルソ画像データの作成時に使用</li> </ul>
緑被地データベース※1	MIF, SHP	H2, 7, 12, 17, 22, 27 , R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2 緑被データを本調査の基本データとし、変化箇所を修正して R7 緑被データを作成</li> <li>各時期の緑被データから緑被地の推移を解析</li> </ul>
境界データ (土地利用計量調査ファイルに付属)	SHP	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「区界」を使用し、緑被データとのオーバーレイ解析を実施</li> <li>「名古屋市域ポリゴン」及び「地域区分ポリゴン」は「区界」データをそれぞれ結合し作成</li> <li>各種図面の各境界線として使用</li> </ul>
土地利用計量調査ファイル	SHP	R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用計量調査ファイルは、「名古屋市域ポリゴン」により、切り抜き処理等※2を行い使用</li> <li>街路樹の整理に当たって、「道路」を参照※4</li> <li>行政区ごとに緑被データとのオーバーレイ解析を実施</li> <li>土地利用を基に土地所有区分を定義し、「土地所有区分ポリゴン」を作成</li> <li>土地利用の推移を把握</li> <li>土地利用の状況により、地区の特色を把握</li> </ul>
都市計画決定データ	SHP	R7	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年3月25日版を使用</li> <li>「用途地域」データ※3を使用し、緑被データとのオーバーレイ解析を実施</li> <li>用途地域データを結合し、「市街化区域」及び「市街化調整区域」データを作成(名古屋市内の用途地域データの箇所を「市街化区域」、それ以外の箇所をもって「市街化調整区域」として取り扱う)</li> <li>その他、各種確認に使用</li> </ul>
都市計画基本図 (数値地形図 DM データファイル)	DM	R2, R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種図面の背景図として使用</li> </ul>
緑の現況調査報告書	製本, PDF, DOC	H2, R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果を利用し、緑被地の推移等を整理</li> </ul>

※1) 本表においては「緑被データ」と省略して表記。

※2) 「土地利用計量調査ファイル」は、「市域外」(200)を対象外として切り抜き処理を行い、境界部付近のデータ欠損部等は穴埋め等の処理を行った。

※3) 「用途地域」データは、境界部付近のデータの欠損、ポリゴンの重複等が見られたため、穴埋め等の処理を行った。

## 2-4. 集計・分析方法

## 2-4-1. 公表面積及び計測面積の取扱いと集計方法

本調査では、名古屋市域及び各行政区の面積は、公表値を採用しているが、その他の土地利用、用途地域等の面積については、GIS計測面積を基に上記公表面積で補正した値を採用した。

緑被率については、上記の緑被地面積ごとに対象区域面積で除して算出した（単位：％、数位：小数第1位止め（第2位を四捨五入））。

本市全域の緑被地面積及び緑被率の公表数値は、行政区別の数値を積み上げたものを採用した。

## 2-4-2. 「土地所有区分」及び「土地利用区分」の定義

本調査での土地利用区分は、「土地利用計量調査ファイル」を基に表I-5(p.6)のとおり定義し、過年度調査の経緯に即して、土地所有区分を定義した。

なお、今年度調査の土地利用区分については、過年度調査における定義から、実態に即して令和2（2020）年度と同様とした。過年度調査からの土地利用区分は、表I-4のとおりに変更している。

表I-4：過年度調査の土地利用区分からの変更点

H2 調査					H7 調査				R2 調査		
公有・民有区分	土地利用区分	コード	土地利用分類		土地利用区分	コード	土地利用計量調査分類		土地利用区分	コード	名称
その他の公共施設	鉄道	19	鉄道敷地	⇒	河川等	182	鉄道	⇒	その他の公共施設	182	鉄道
—	—	—	—	⇒	—	—	—	⇒	河川等	146	河川敷
—	—	—	—	⇒	—	—	—	⇒	河川等	190	海面
工業系	工業	12	供給処理運輸用地	⇒	商業系	090	供給処理用地運輸用地	⇒	工業系	90	供給処理施設運輸施設
—	—	—	—	⇒	—	—	—	⇒	未利用地	147	太陽光発電設備

注1)「—」は該当なし。

表I-5:「土地所有区分」及び「土地利用区分」の定義

土地所有区分	土地利用区分		土地利用計量調査ファイル(R4)			例示	
			コード	名称	説明		
公有地	公園 緑地等	都市公園	151	都市公園	公共空間	公園	
		その他のオープンスペース	150	それ以外公園等	公共空間	グラウンド、屋外プール、ゴルフ場、広場、遊園地など	
			160	都市計画墓園	公共空間	—	
	道路		170	道路	道路用地	道路	
	河川等			181	河川・水面	水面	河川・水面
				146	河川敷	未利用地	河川敷
				190	海面	海面	—
	その他の 公共施設	公共施設等	10	官公庁用地	公共公益用地	市役所、区役所、警察署、消防署、郵便局など	
			40	医療養護用地	公共公益用地	医院、診療所、病院、保健所、養老院、その他保護施設など	
		教育	20	教育用地	公共公益用地	保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、各種学校、予備校など	
		宗教文化	30	宗教施設文化施設	公共公益用地	寺院、神社、教会、図書館、美術館、博物館、公民館、動植物園など	
鉄道		182	鉄道	交通施設用地	鉄道		
私有地	宅地	住居系	120	低層専用住居用地	住宅用地	戸建住宅、共同住宅(3階建以下)、農漁業施設	
			121	低層店舗付住居用地	住宅用地	共同住宅(3階建以下)に店舗が付随	
			122	中高層専用住居用地	住宅用地	共同住宅(4階建以上)	
			123	中高層店舗付住居用地	住宅用地	共同住宅(4階建以上)に店舗が付随	
	商業系	商業系	50	商業用地	商業用地	デパート、スーパーマーケット、レストラン、店舗など	
			51	事務所用地	商業用地	事務所(銀行、会社など)、宿泊施設	
			60	一般商業用地	商業用地	住宅併用店舗・事務所(店舗・事務所の部分が50㎡以内)	
			70	娯楽用地(Ⅰ)	商業用地	キャバレー、舞踏場、劇場、映画館、演芸場等	
			80	娯楽用地(Ⅱ)	商業用地	スポーツ興行所、ボーリング場、ゴルフ練習場、カラオケボックス、パチンコなど	
			90	供給処理施設運輸施設	工業用地	ガソリンスタンド、供給処理施設、立体駐車場、倉庫、バスターミナルなど	
	工業系	工業系	100	工業用地	工業用地	原動機を使用する50㎡を超える工場など	
			110	工業的サービス用地	工業用地	作業所の床面積が50㎡以内のもの	
			141	駐車場	未利用地	屋外駐車場	
			142	資材置場	未利用地	資材置場	
未利用地			143	田	未利用地	田	
			144	畑	未利用地	畑	
			145	樹林地	未利用地	樹林地・山林	
			147	太陽光発電設備	未利用地	太陽光発電設備	
			140	その他空閑地	未利用地	その他空閑地	
			200	市域外	市域外	—	

- 注1) 土地所有区分「公有地」、「私有地」は土地利用区分に応じた便宜的な区分名称であり、実際の土地の所有状況や管理形態等に基づくものでないため、一般的な「公有地」、「私有地」とは異なるが、指標の連続性を考慮して過年度調査の表記に準じたものである。
- 注2) 「宅地」は、「宅地内緑被率」を算出する際にのみ使用。
- 注3) 「土地利用計量調査ファイル(R4)」の「海面(190)」は「名古屋市域ポリゴン」内に含まれるもののみを対象としている。  
また、「市域外(200)」は「名古屋市域ポリゴン」内に含まれるものも対象外とし、当該欠損部は隣接土地利用により穴埋め処理を行っている。
- 注4) 例示の内容は、「名古屋市土地利用白書」(H30.3)の「土地利用分類表」及び「建物用途別現況データファイル(H28)」に基づく。

2-4-3. 区域面積の補正

(1) 土地利用データの面積補正

土地利用は、「土地利用計量調査ファイル」を基に使用しているが、当該データのGIS計測面積(合計値)は、本市の公表面積と相違があったため、表I-6により面積を補正して緑被率の算定に使用した。(「土地利用計量調査ファイル」のGISデータについては別途、表I-3(p.4)に示す処理も行っている。)

表I-6: 土地所有・土地利用の定義(再掲)と補正面積

土地所有区分	土地利用区分		土地利用計量調査ファイル(R4)			GIS計測面積			構成比率(%)	補正面積		
			コード	名称	説明	面積(ha)	小計(ha)	合計(ha)		面積(ha)	小計(ha)	合計(ha)
公有地	公園緑地等	都市公園	151	都市公園	公共空間	1,526.61	1,526.61	1,920.52	4.70	1,532.91	1,532.91	1,928.45
		その他のオープンスペース	150	それ以外公園等	公共空間	393.91	393.91		1.21	395.53	395.53	
		160	都市計画墓園	公共空間	0	0	0.00		0.00	0.00		
	道路	170	道路	道路用地	6,415.42	6,415.42	6,415.42	19.73	6,441.89	6,441.89	6,441.89	
		河川等	181	河川・水面	水面	972.53	1,602.02	1,602.02	2.99	976.55	1,608.64	
	146		河川敷	未利用地	619.10	1.90			621.66			
	190		海面	海面	10.39	0.03			10.43			
	その他の施設	公共施設等	10	官公庁用地	公共公用地	168.12	594.19	2,651.83	0.52	168.81	596.64	
			40	医療養護用地	公共公用地	426.07			1.31	427.83		
		教育	20	教育用地	公共公用地	1,117.82	1,117.82	3.44	1,122.43	1,122.43	2,662.77	
			30	宗教施設文化施設	公共公用地	674.66	674.66	2.08	677.44	677.44		
		182	鉄道	交通施設用地	265.16	265.16	0.82	266.25	266.25			
	私有地	住居系	120	低層専用住居用地	住宅用地	8,250.20	10,315.40	15,541.14	25.38	8,284.25	10,357.98	
121			低層店舗付住居用地	住宅用地	45.84	0.14			46.03			
122			中高層専用住居用地	住宅用地	1,838.53	5.65			1,846.12			
123			中高層店舗付住居用地	住宅用地	18.084	0.56			181.58			
50			商業用地	商業用地	1,072.70	3.30			1,077.12			
商業系		51	事務所用地	商業用地	832.98	2.56	836.42	2,564.59	15,605.28			
		60	一般商業用地	商業用地	439.05	1.35	440.86					
		70	娯楽用地(I)	商業用地	22.76	0.07	22.86					
		80	娯楽用地(II)	商業用地	186.55	0.57	187.32					
工業系		90	供給処理施設運輸施設	工業用地	1,251.06	2,671.69	19,922.02	3.85	1,256.22	2,682.72		
		100	工業用地	工業用地	1,326.93			4.08	1,332.41			
		110	工業的サービス用地	工業用地	93.70			0.29	94.09			
未利用地		141	駐車場	未利用地	550.77	4,380.88	4,380.88	1.69	553.04	4,398.97		
		142	資材置場	未利用地	87.99			0.27	88.35			
		143	田	未利用地	461.04			1.42	462.95			
		144	畑	未利用地	486.17			1.50	488.17			
		145	樹林地	未利用地	853.77			2.63	857.29			
	147	太陽光発電設備	未利用地	7.86	0.02			7.89				
140	その他空地	未利用地	1,933.29	5.95	1,941.27							
その他	200	市域外	市域外	-	-	-	-	-	-	-		
合計						32,511.81	32,511.81	32,511.81	100	32,646.00	32,646.00	32,646.00

注1) GIS計測面積は、修正済みの土地利用データを基に行政区別・土地利用区別に算出したものを集計している。

注2) 補正面積は、GIS計測面積の各項目の構成比を基に、名古屋市域の公表面積(32,646ha)で按分したものである。

(2) 用途地域データの面積補正

用途地域は、「都市計画決定データ」を基に使用しているが、当該データのGIS計測面積は、名古屋市の公表面積と相違があったため、表I-7により面積を補正して緑被率の算定に使用した。(用途地域データは別途、表I-3(p.4)に示す処理も行っている。)

表I-7：用途地域の定義と補正面積

都市計画決定データ		GIS計測面積(ha)	構成比率(%)	補正面積(ha)
コード	用途地域			
1	第一種低層住居専用地域	4,937.23	14.82	4,838.61
2	第二種低層住居専用地域	90.23	0.27	88.43
3	第一種中高層住居専用地域	1,015.64	3.05	995.35
4	第二種中高層住居専用地域	1,951.64	5.86	1,912.66
5	第一種住居地域	7,211.35	21.65	7,067.30
6	第二種住居地域	3,149.24	9.45	3,086.34
7	準住居地域	338.78	1.02	332.02
8	近隣商業地域	2,560.06	7.69	2,508.92
9	商業地域	2,263.39	6.79	2,218.18
10	準工業地域	3,537.43	10.62	3,466.77
11	工業地域	2,558.88	7.68	2,507.76
12	工業専用地域	647.96	1.95	635.02
0	市街化調整区域	3,049.59	9.15	2,988.67
合計		33,311.41	100.00	32,646.00

注1) GIS計測面積は、修正済みの用途地域データを基に集計している。

注2) 市街化調整区域は、上記の修正済み用途地域データ以外の名古屋市域に対し、コード番号「0」を付与して設定している。

注3) 補正面積は、GIS計測面積の各項目の構成比を基に、名古屋市域の公表面積(32,646ha)で按分したものである。

(3) 用途地域別宅地の面積補正

宅地内緑被率を算定するため、用途地域データと土地利用データのオーバーレイ解析を行い、得られたGIS計測面積を表I-8のとおり、区域面積を補正して緑被率の算定に使用した。

表I-8：用途地域別宅地の構成と補正面積

都市計画決定データ		建蔽率の 最高限度 (%)	緑化率の 最低限度 (%)	宅地(住居系、商業系及び工業系土地利用)		
コード	用途地域			GIS計測面積 (ha)	構成比率(%)	補正面積(ha)
1	第一種低層住居専用地域	30	20	341.08	1.02	334.27
		40	20	1,310.68	3.93	1,284.49
		50	20	890.79	2.67	873.00
2	第二種低層住居専用地域	30	20	4.01	0.01	3.93
		40	20	31.16	0.09	30.53
		50	20	11.39	0.03	11.17
3	第一種中高層住居専用地域	50	20	147.56	0.44	144.62
		60	15	405.63	1.22	397.53
4	第二種中高層住居専用地域	60	15	1,163.40	3.49	1,140.17
5	第一種住居地域	60	15	3,770.30	11.32	3,694.99
6	第二種住居地域	60	15	931.40	2.80	912.80
7	準住居地域	60	15	147.61	0.44	144.66
8	近隣商業地域	80	10	1,290.18	3.87	1,264.41
9	商業地域	80	10	954.84	2.87	935.77
10	準工業地域	60	15	1,952.46	5.86	1,913.46
11	工業地域	60	15	1,544.20	4.64	1,513.35
12	工業専用地域	60	15	446.99	1.34	438.06
0	市街化調整区域	30/50/60	20	199.19	0.60	195.21
小計				15,542.88	46.66	15,232.41
(宅地以外の区域)				17,768.53	53.34	17,413.59
合計				33,311.41	100.00	32,646.00

注1) 「建蔽率の最高限度(%)」及び「緑化率の最低限度(%)」は「緑化率の最低限度一覧表」に基づく。

注2) 「市街化調整区域」の「建蔽率の最高限度(%)」欄は、「指定建蔽率(%)」を示す。

注3) GIS計測面積は、ともに修正済みの用途地域データと土地利用データのオーバーレイ解析を行い、集計したものである。

注4) 補正面積は、GIS計測面積の各項目の構成比を基に、名古屋市域の公表面積(32,646ha)で按分したものである。なお、端数は「宅地以外の区域」で処理している。

### 3. 緑被率の現況及び変遷

#### 3-1. 本市全域の緑被率

本市全域での緑被率の現況及び推移並びに緑被種別ごとの緑被率の現況及び推移を以下のとおり整理した。

##### (1) 市全域の緑被率

令和 7(2025)年の本市全域の緑被地面積は 6,667.79ha であり、緑被率は 20.4%であった。

基準年である平成 2(1990)年の緑被地面積は 9,730.50ha、緑被率は 29.8%であり、それ以降の緑被率の推移を見ると、平成 7(1995)年は 27.4% (2.4 ポイント減少 (前回調査比、以下同様))、平成 12(2000)年は 25.3% (2.1 ポイント減少)、平成 17(2005)年は 24.8% (0.5 ポイント減少)、平成 22(2010)年は 23.3% (1.5 ポイント減少)、平成 27(2015)年は 22.0% (1.3 ポイント減少)、令和 2(2020)年は 21.5% (0.5 ポイント減少)、令和 7(2025)年は 20.4% (1.1 ポイント減少) と推移しており、減少を続けている。

以上から、平成 2年から令和 7年までの 35年間で、約 3,063ha の緑被地が失われ、緑被率は 9.4 ポイント減少した。

また、現況緑被地図及び緑被地増減図を見ると、まとめて存在する緑被地は比較的残存している (変化しなかった) ように見受けられるが、その周辺の緑被地や比較的小規模な緑被地は減少している傾向が見受けられた。(図 I-4(p. 10)、図 I-5(p. 11)参照)

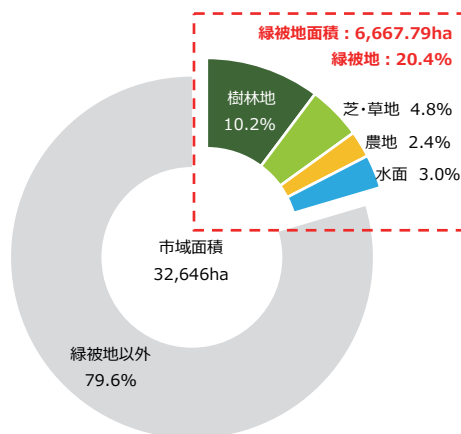
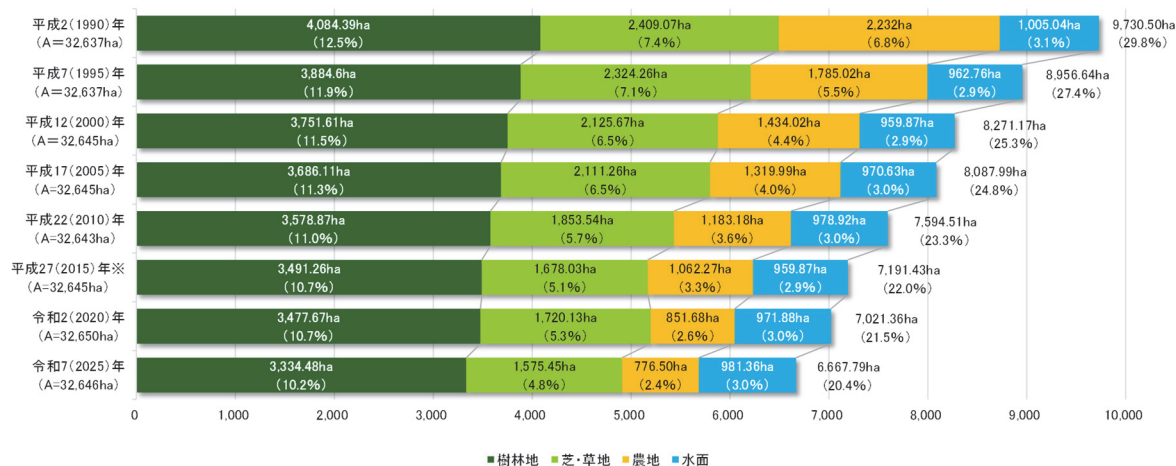


図 I-2 : 令和 7(2025)年の緑被率

表 I-9 : 市全域の緑被率と推移の概況

緑被率：令和 7年の緑被率は 20.4%
推移：平成 2年の緑被率 (29.8%) に比べて、令和 7年の緑被率 (20.4%) は 9.4 ポイント減少



※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

図 I-3 : 緑被率の推移

凡例

- 緑被地
- 名古屋市域
- 行政区界

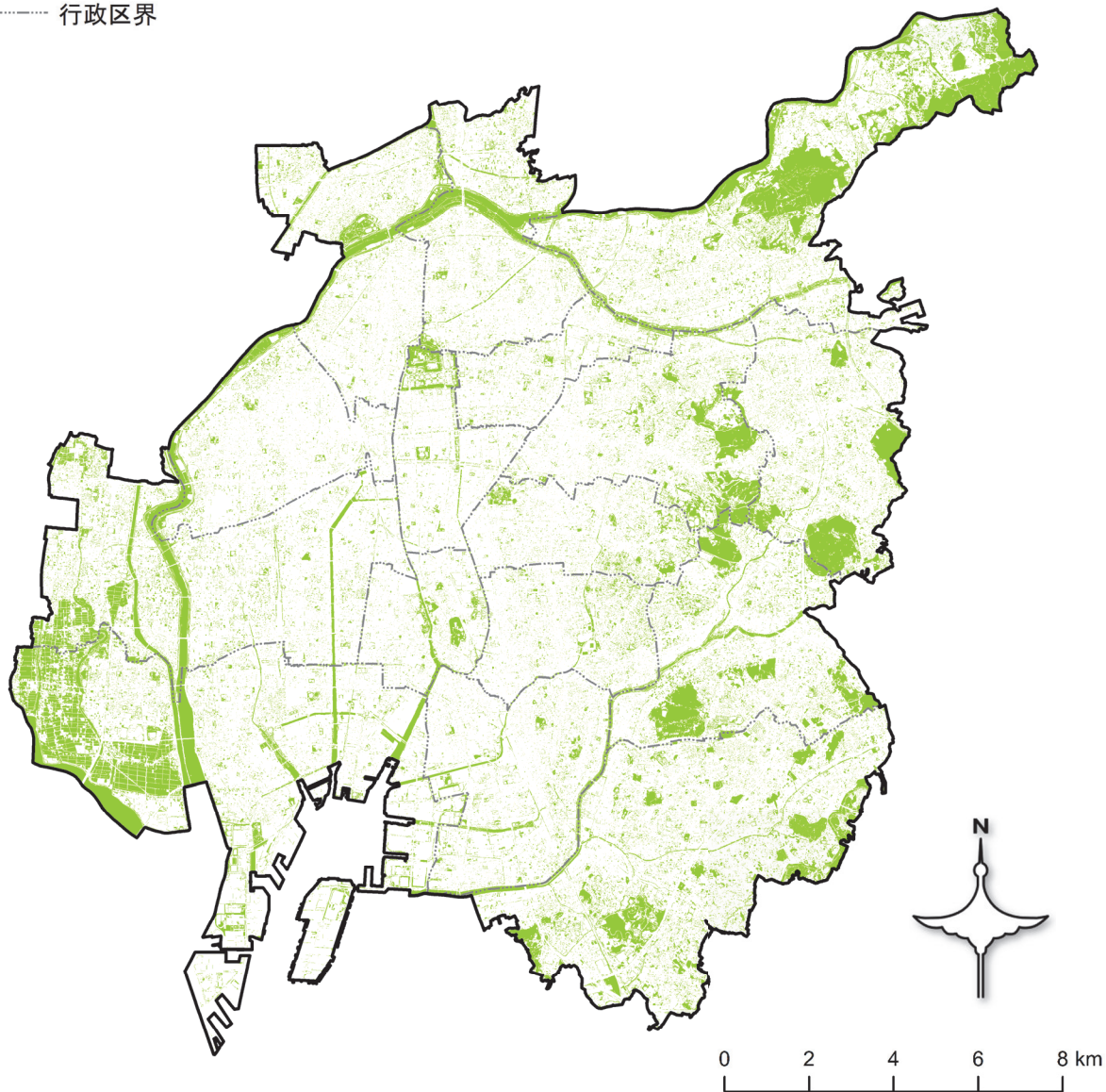


図 I-4 : 名古屋市 現況緑被地図 (令和 7 年)

注 1) 本図は R7 の全緑被地を示したものである。

凡例  
緑被地の増減(H2⇒R7)

- 名古屋市域
- 行政区界
- 増加した緑被地
- 減少した緑被地
- 変化しなかった緑被地

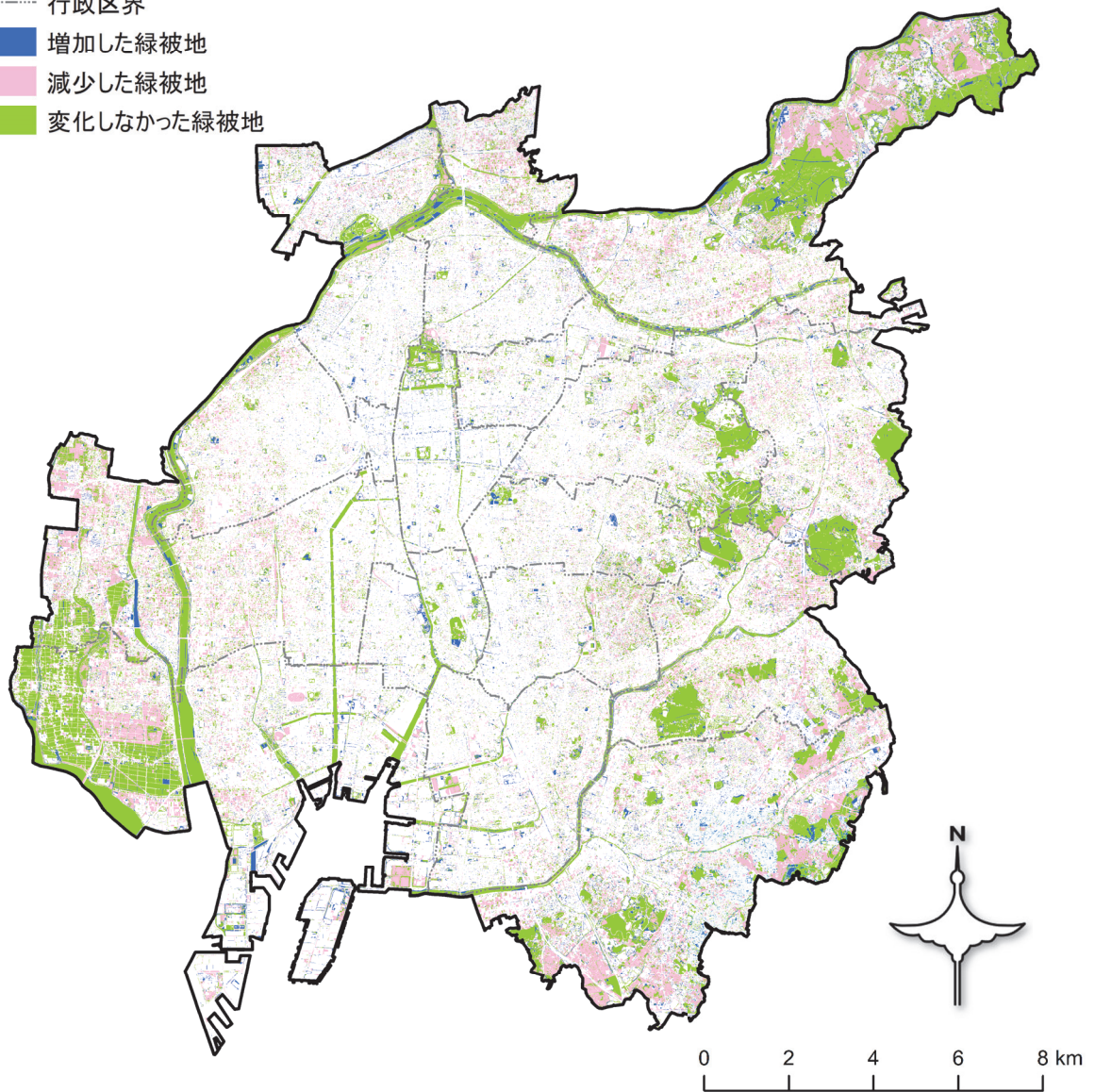


図 I-5：名古屋市 緑被地増減図（平成2年から令和7年の35年間の変化）

注1）本図はH2及びR7それぞれの全緑被地をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

(2) 4種別の緑被率

令和7(2025)年の4種別の緑被率は、樹林地が10.2% (3,334.48ha)、芝・草地が4.8% (1,575.45ha)、農地が2.4% (776.5ha)、水面が3.0% (981.36ha)であった。

平成2(1990)年を基準とすると、それ以降、緑被率は4種別全体で減少しており、その中でも農地の減少が4.4ポイント減と最も大きく、次いで芝・草地(2.6ポイント減)、樹林地(2.3ポイント減)の減少が大きい状況であった。

表I-10：4種別の緑被率の概況

	(平成2(1990)年)		(令和7(2025)年)	
↓	水面	: 3.1%	⇒	3.0% (0.1ポイント減少)
↓	樹林地	: 12.5%	⇒	10.2% (2.3ポイント減少)
↓	芝・草地	: 7.4%	⇒	4.8% (2.6ポイント減少)
《減少》	農地	: 6.8%	⇒	2.4% (4.4ポイント減少)



図I-6：4種別の緑被率の推移

※ H27調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

凡例

緑被地(4種別)

- 樹林地
- 芝・草地
- 農地
- 水面
- 名古屋市域
- 行政区界

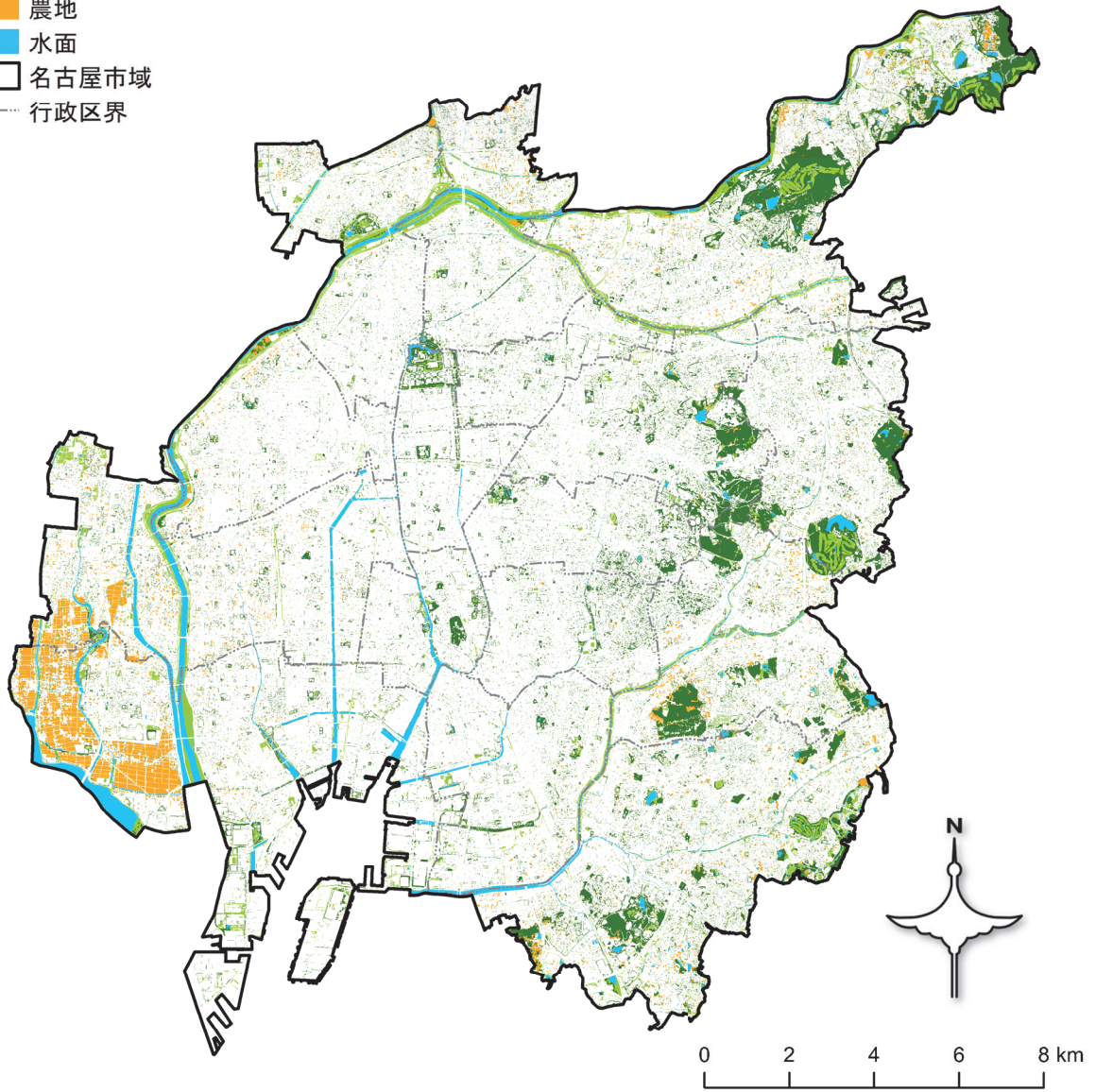


図 I-7 : 名古屋市 現況緑被地図【4種別】(令和7年)

凡例

- 樹林地
- 名古屋市域
- 行政区界

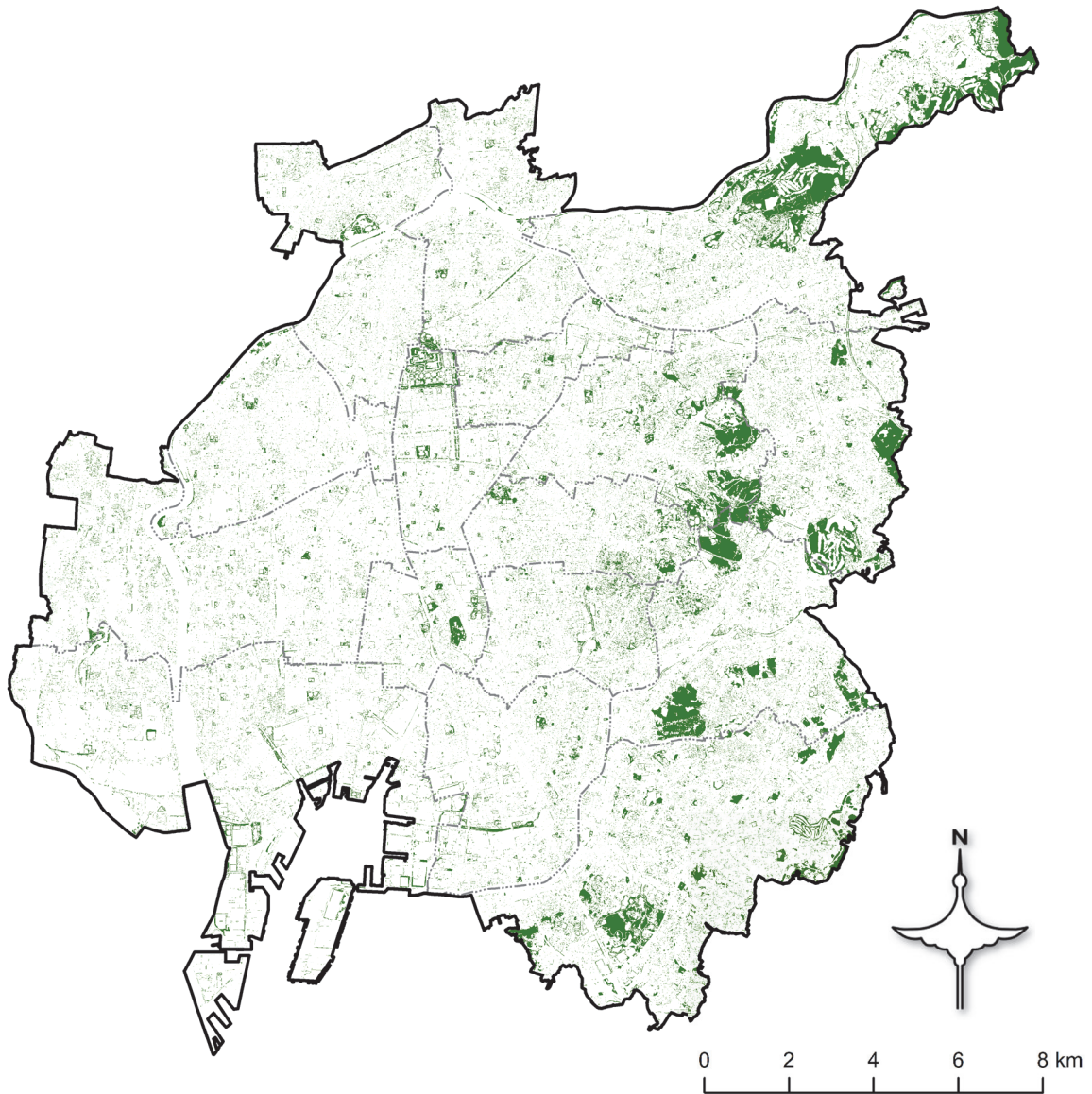


図 I-8 : 名古屋市 樹林地分布図 (令和 7 年)

凡例

- 芝・草地
- 名古屋市域
- 行政区界

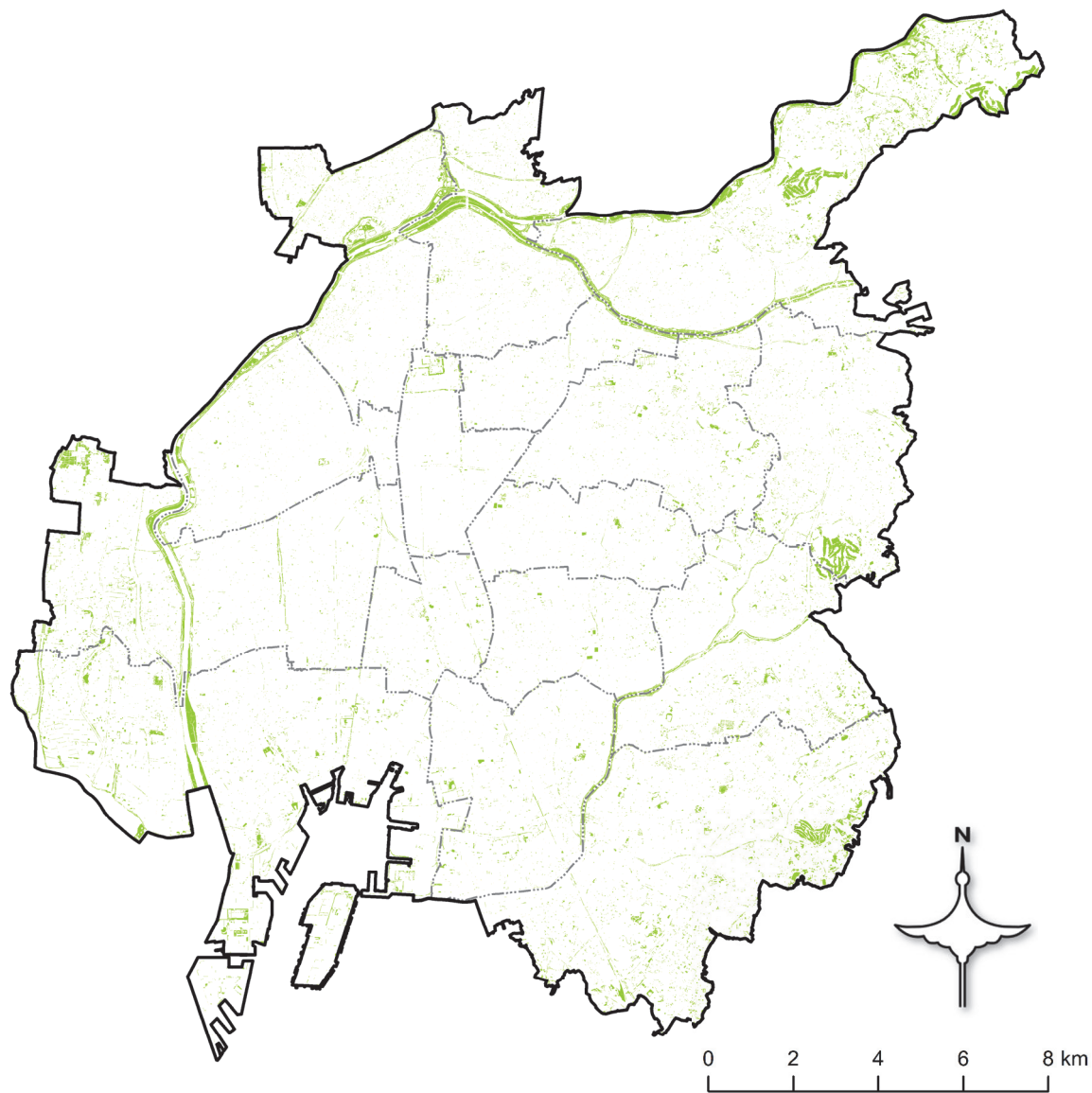


图 I-9 : 名古屋市 芝・草地分布图 (令和 7 年)

凡例

- 農地
- 名古屋市域
- 行政区界

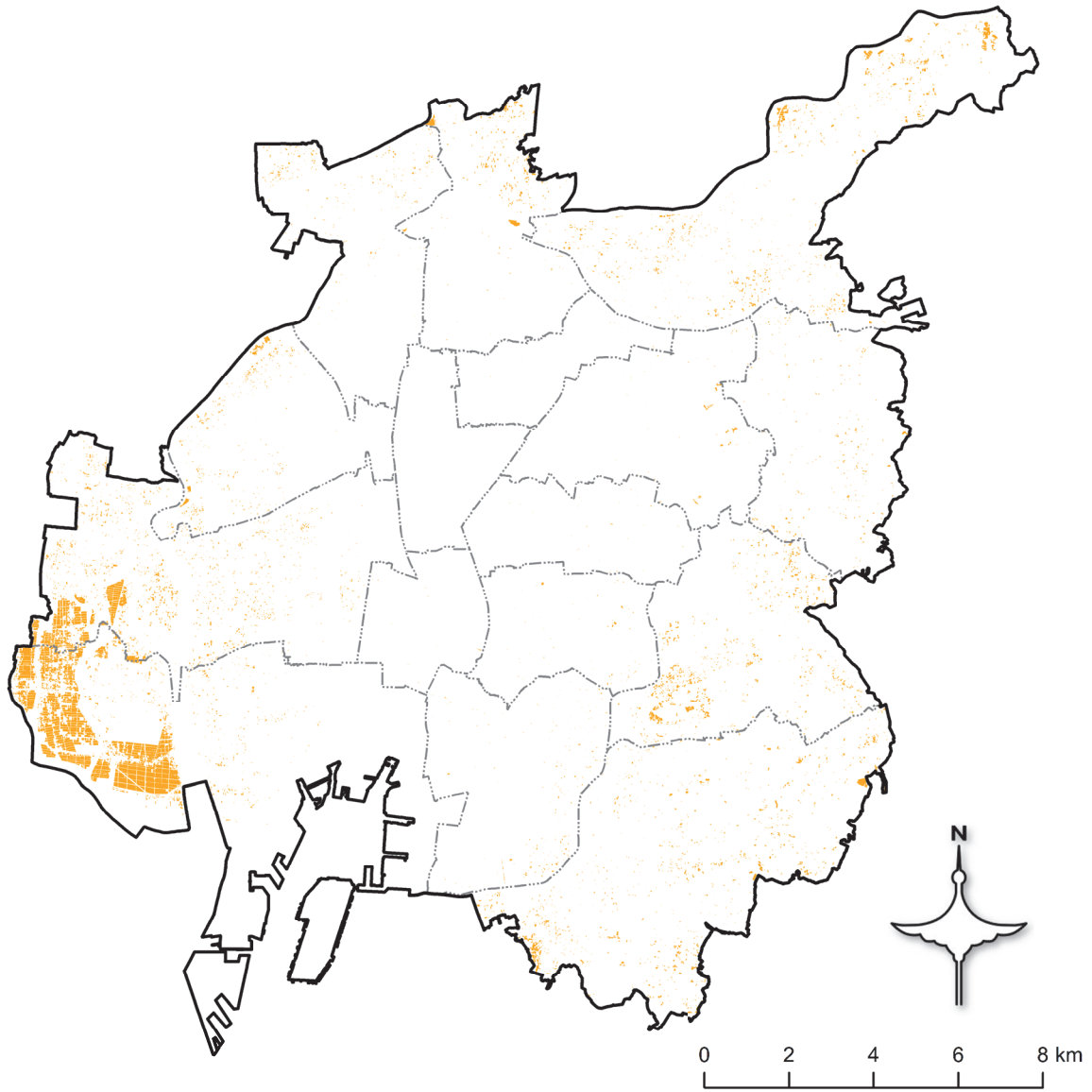


図 I-10 : 名古屋市 農地分布図 (令和 7 年)

凡例

- 水面
- 名古屋市域
- 行政区界

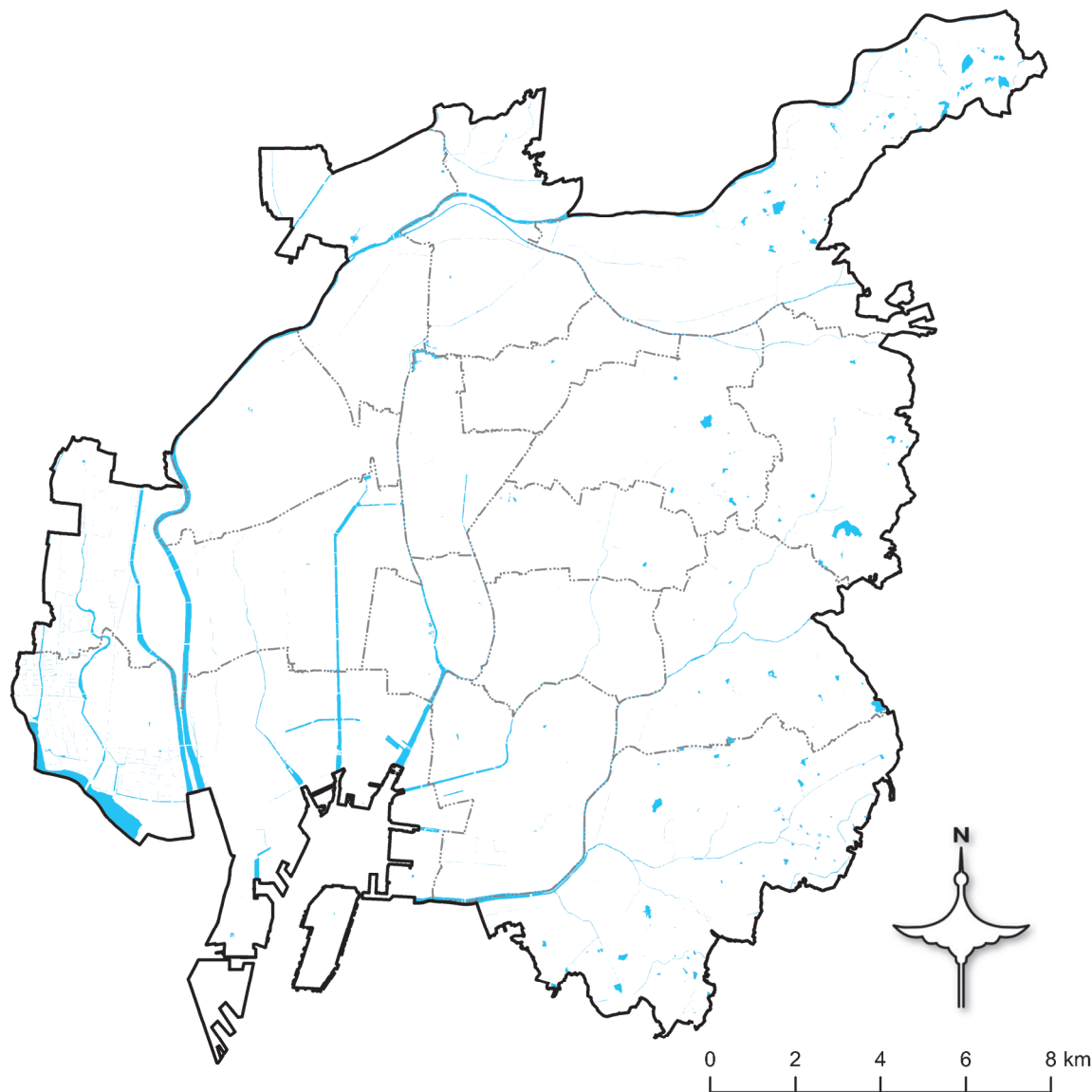


图 I-11 : 名古屋市 水面分布图 (令和 7 年)

(3) 細種別の緑被率

① 細種別の緑被率の状況

令和 7(2025)年の細種別の緑被率は、高い順に高木が 7.2% (2,340.60ha)、草地が 2.8% (911.85ha)、河川が 2.6% (835.59ha)、低木が 2.1% (685.62ha) であった。(表 I-12(p. 21) 参照)

平成 2(1990)年を基準とすると、それ以降、全体的には減少しているが、芝地 (0.3 ポイント増) と街路樹高木 (0.1 ポイント増) がそれぞれ微増している状況であった。なお、減少率が大きかったのは、草地 (2.9 ポイント減)、畑 (2.3 ポイント減)、高木 (2.1 ポイント減)、水田 (1.8 ポイント減) であった。(表 I-11、図 I-12、表 I-14(p. 21) 参照)

表 I-11 : 細種別の緑被率の概況

		(平成 2(1990)年)		(令和 7(2025)年)	(増減)
《増加》 ↑	芝地	1.7%	⇒	2.0%	(0.3 ポイント増加)
	街路樹高木	0.3%	⇒	0.4%	(0.1 ポイント増加)
	街路樹低木	0.1%	⇒	0.1%	(0.0 ポイント)
	河川	2.6%	⇒	2.6%	(0.0 ポイント)
	ため池	0.5%	⇒	0.4%	(0.1 ポイント減少)
	その他農地	0.2%	⇒	0.1%	(0.1 ポイント減少)
	竹林	0.6%	⇒	0.4%	(0.2 ポイント減少)
	低木	2.3%	⇒	2.1%	(0.2 ポイント減少)
	果樹園	0.4%	⇒	0.1%	(0.3 ポイント減少)
	水田	3.1%	⇒	1.3%	(1.8 ポイント減少)
	高木	9.3%	⇒	7.2%	(2.1 ポイント減少)
	畑	3.2%	⇒	0.9%	(2.3 ポイント減少)
《減少》 ↓	草地	5.7%	⇒	2.8%	(2.9 ポイント減少)

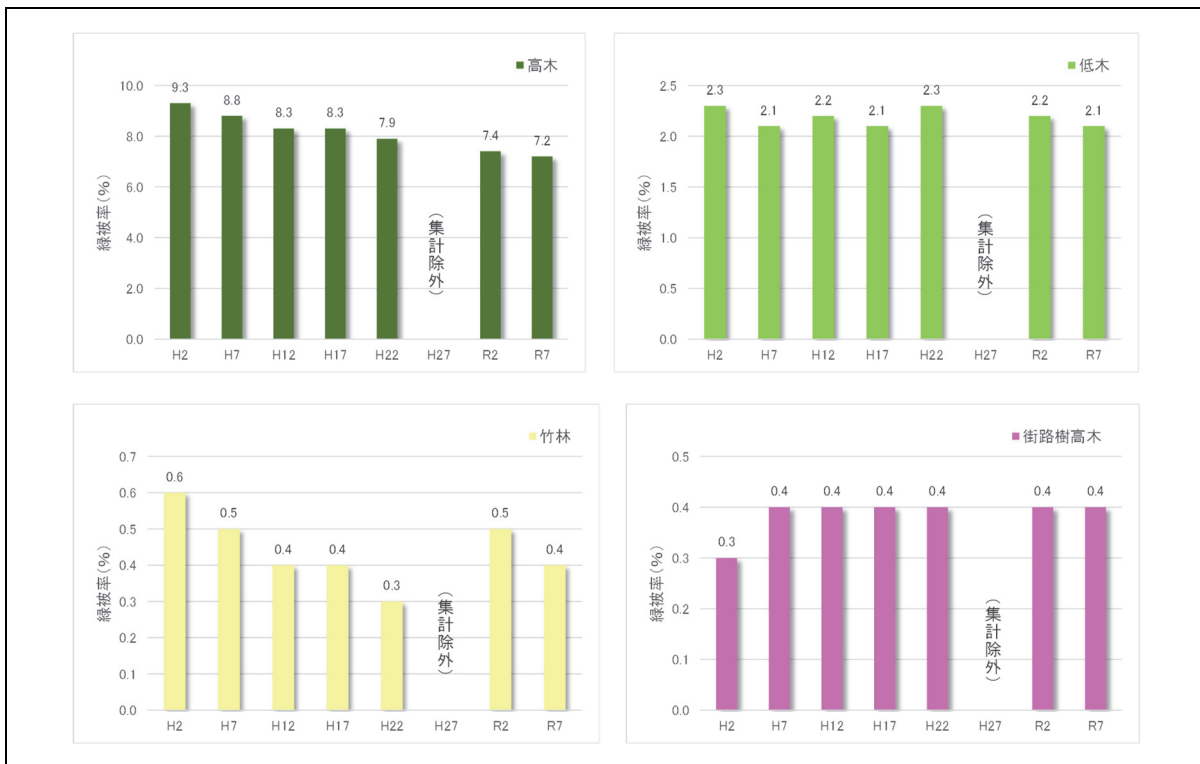


図 I-12 : 細種別の緑被率の推移 (1/2)

※ H27 調査は調査手法が異なるため、集計除外とする。



図 I-12：細種別の緑被率の推移 (2/2)

※ H27 調査は調査手法が異なるため、集計除外とする。

凡例

緑被地(細種別)

- 高木
- 低木
- 竹林
- 街路樹高木
- 街路樹低木
- 芝
- 草
- 水田
- 畑
- 果樹園
- その他農地
- 河川
- ため池
- 名古屋市域
- 行政区界

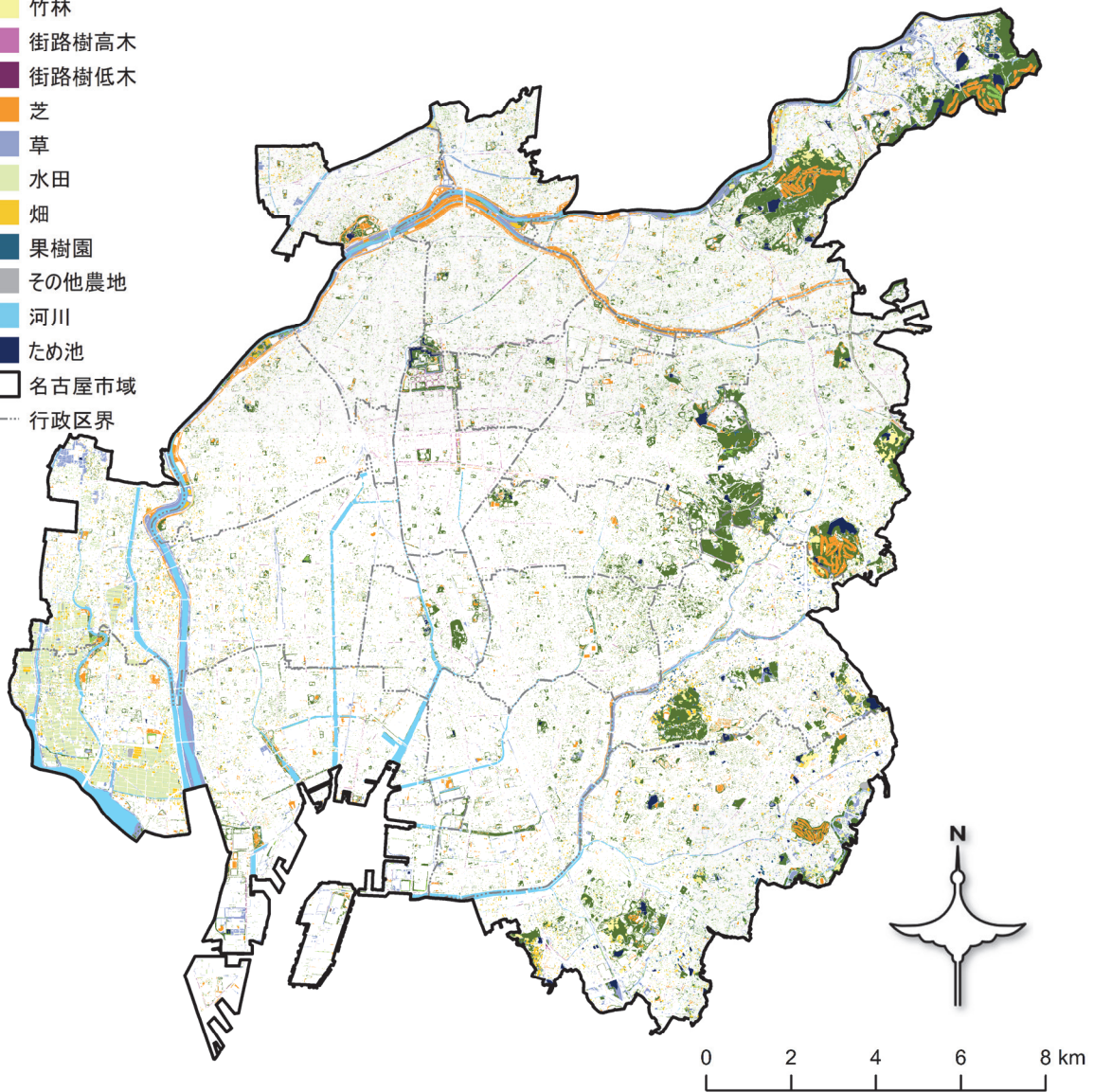


図 I-13 : 名古屋市 現況緑被地図【細種別】(令和 7 年)

表 I-12：緑被地面積及び緑被率の推移

緑被種別		平成2(1990)年		平成7(1995)年		平成12(2000)年		平成17(2005)年		平成22(2010)年		平成27(2015)年※		令和2(2020)年		令和7(2025)年	
4種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
樹林地	高木	3,023.97	9.3	2,886.75	8.8	2,719.67	8.3	2,698.23	8.3	2,564.82	7.9	-	-	2,427.13	7.4	2,340.60	7.2
	低木	754.3	2.3	689.78	2.1	731.91	2.2	698.32	2.1	735.28	2.3	-	-	724.19	2.2	685.62	2.1
	竹林	194.69	0.6	148.99	0.5	123.64	0.4	114.62	0.4	103.63	0.3	-	-	147.14	0.5	145.42	0.4
	街路樹高木	82.43	0.3	123.59	0.4	138.21	0.4	136.97	0.4	133.52	0.4	-	-	132.38	0.4	118.48	0.4
	街路樹低木	29	0.1	35.49	0.1	38.17	0.1	37.98	0.1	41.62	0.1	-	-	46.83	0.1	44.36	0.1
	小計	4,084.39	12.5	3,884.60	11.9	3,751.61	11.5	3,686.11	11.3	3,578.87	11	3,491.26	10.7	3,477.67	10.7	3,334.48	10.2
芝草地	芝地	539.99	1.7	562.97	1.7	711.34	2.2	719.47	2.2	684.15	2.1	-	-	684.06	2.1	663.60	2.0
	草地	1,869.08	5.7	1,761.29	5.4	1,414.32	4.3	1,391.80	4.3	1,169.39	3.6	-	-	1,036.07	3.2	911.85	2.8
	小計	2,409.07	7.4	2,324.26	7.1	2,125.67	6.5	2,111.26	6.5	1,853.54	5.7	1,678.03	5.1	1,720.13	5.3	1,575.45	4.8
農地	水田	1,007.73	3.1	838.47	2.6	697.93	2.1	656.7	2.0	592.56	1.8	-	-	444.64	1.4	423.91	1.3
	畑	1,029.90	3.2	787.71	2.4	611.57	1.9	549.2	1.7	479.81	1.5	-	-	331.15	1.0	284.04	0.9
	果樹園	123.32	0.4	118.3	0.4	91.04	0.3	84.06	0.3	79.43	0.2	-	-	50.8	0.2	45.17	0.1
	その他農地	71.05	0.2	40.55	0.1	33.48	0.1	30.03	0.1	31.38	0.1	-	-	25.09	0.1	23.38	0.1
	小計	2,232.00	6.8	1,785.02	5.5	1,434.02	4.4	1,319.99	4	1,183.18	3.6	1,062.27	3.3	851.68	2.6	776.50	2.4
水面	河川	832.85	2.6	815.34	2.5	798.59	2.4	820.51	2.5	835.66	2.6	-	-	826.04	2.5	835.59	2.6
	ため池	172.19	0.5	147.42	0.5	161.28	0.5	150.12	0.5	143.26	0.4	-	-	145.84	0.4	145.77	0.4
	小計	1,005.04	3.1	962.76	2.9	959.87	2.9	970.63	3	978.92	3	959.87	2.9	971.88	3.0	981.36	3.0
	合計	9,730.50	29.8	8,956.63	27.4	8,271.18	25.3	8,087.99	24.8	7,594.51	23.3	7,191.43	22	7,021.36	21.5	6,667.79	20.4

※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

表 I-13：緑被地面積及び緑被率の前回調査からの変化状況

緑被種別		H2⇒H7 増減		H7⇒H12 増減		H12⇒H17 増減		H17⇒H22 増減		H22⇒H27 増減		H27※⇒R2 増減		R2⇒R7 増減	
4種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
樹林地	高木	▲137.22	▲0.5	▲167.08	▲0.5	▲21.44	0.0	▲133.41	▲0.4	-	-	-	-	▲86.53	▲0.2
	低木	▲64.52	▲0.2	▲42.13	0.1	▲33.59	▲0.1	▲36.96	0.2	-	-	-	-	▲38.57	▲0.1
	竹林	▲45.70	▲0.1	▲25.35	▲0.1	▲9.02	0.0	▲10.99	▲0.1	-	-	-	-	▲1.72	▲0.1
	街路樹高木	▲41.16	0.1	▲14.62	0.0	▲1.24	0.0	▲3.45	0.0	-	-	-	-	▲13.90	0.0
	街路樹低木	▲6.49	0.0	▲2.68	0.0	▲0.19	0.0	▲3.64	0.0	-	-	-	-	▲2.47	0.0
	小計	▲199.79	▲0.6	▲132.99	▲0.4	▲65.50	▲0.2	▲107.24	▲0.3	▲87.61	▲0.3	▲13.59	0.0	▲143.19	▲0.5
芝草地	芝地	▲22.98	0.0	▲148.37	0.5	▲8.13	0.0	▲35.32	▲0.1	-	-	-	-	▲20.46	▲0.1
	草地	▲107.79	▲0.3	▲346.97	▲1.1	▲22.52	0.0	▲222.41	▲0.7	-	-	-	-	▲124.22	▲0.4
	小計	▲84.81	▲0.3	▲198.59	▲0.6	▲14.41	0.0	▲257.72	▲0.8	▲175.51	▲0.6	▲42.10	0.2	▲144.68	▲0.5
農地	水田	▲169.26	▲0.5	▲140.54	▲0.5	▲41.23	▲0.1	▲64.14	▲0.2	-	-	-	-	▲20.73	▲0.1
	畑	▲242.19	▲0.8	▲176.14	▲0.5	▲62.37	▲0.2	▲69.39	▲0.2	-	-	-	-	▲47.11	▲0.1
	果樹園	▲5.02	0.0	▲27.26	▲0.1	▲6.98	0.0	▲4.63	▲0.1	-	-	-	-	▲5.63	▲0.1
	その他農地	▲30.50	▲0.1	▲7.07	0.0	▲3.45	0.0	1.35	0.0	-	-	-	-	▲1.71	0.0
	小計	▲446.98	▲1.3	▲351.00	▲1.1	▲114.03	▲0.4	▲136.81	▲0.4	▲120.91	▲0.3	▲210.59	▲0.7	▲75.18	▲0.2
水面	河川	▲17.51	▲0.1	▲16.75	▲0.1	21.92	0.1	15.15	0.1	-	-	-	-	9.55	0.1
	ため池	▲24.77	0.0	▲13.86	0.0	▲11.16	0.0	▲6.86	▲0.1	-	-	-	-	▲0.07	0.0
	小計	▲42.28	▲0.2	▲2.89	0.0	10.76	0.1	▲8.29	0.0	▲19.05	▲0.1	▲12.01	0.1	▲9.48	0.0
	合計	▲773.87	▲2.4	▲685.45	▲2.1	▲183.19	▲0.5	▲493.48	▲1.5	▲403.08	▲1.3	▲170.07	▲0.5	▲353.57	▲1.1

※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

表 I-14：令和7年度調査の緑被地面積及び緑被率の既往調査からの変化状況

緑被種別		H2⇒R7 増減		H7⇒R7 増減		H12⇒R7 増減		H17⇒R7 増減		H22⇒R7 増減		H27※⇒R7 増減		R2⇒R7 増減	
4種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
樹林地	高木	▲683.37	▲2.1	▲546.15	▲1.6	▲379.07	▲1.1	▲357.63	▲1.1	▲224.22	▲0.7	-	-	▲86.53	▲0.2
	低木	▲68.68	▲0.2	▲4.16	0.0	▲46.29	▲0.1	▲12.70	0.0	▲49.66	▲0.2	-	-	▲38.57	▲0.1
	竹林	▲49.27	▲0.2	▲3.57	▲0.1	21.78	0.0	30.80	0.0	41.79	0.1	-	-	▲1.72	▲0.1
	街路樹高木	▲36.05	0.1	▲5.11	0.0	▲19.73	0.0	▲18.49	0.0	▲15.04	0.0	-	-	▲13.90	0.0
	街路樹低木	▲15.36	0.0	▲8.87	0.0	6.19	0.0	6.38	0.0	2.74	0.0	-	-	▲2.47	0.0
	小計	▲749.91	▲2.3	▲550.12	▲1.7	▲417.13	▲1.3	▲351.63	▲1.1	▲244.39	▲0.8	▲156.8	▲0.5	▲143.19	▲0.5
芝草地	芝地	▲123.61	0.3	▲100.63	0.3	▲47.74	▲0.2	▲55.87	▲0.2	▲20.55	▲0.1	-	-	▲20.46	▲0.1
	草地	▲957.23	▲2.9	▲849.44	▲2.6	▲502.47	▲1.5	▲479.95	▲1.5	▲257.54	▲0.8	-	-	▲124.22	▲0.4
	小計	▲833.62	▲2.6	▲748.81	▲2.3	▲550.22	▲1.7	▲535.81	▲1.7	▲278.09	▲0.9	▲102.6	▲0.3	▲144.68	▲0.5
農地	水田	▲583.82	▲1.8	▲414.56	▲1.3	▲274.02	▲0.8	▲232.79	▲0.7	▲168.65	▲0.5	-	-	▲20.73	▲0.1
	畑	▲745.86	▲2.3	▲503.67	▲1.5	▲327.53	▲1.0	▲265.16	▲0.8	▲195.77	▲0.6	-	-	▲47.11	▲0.1
	果樹園	▲78.15	▲0.3	▲73.13	▲0.3	▲45.87	▲0.2	▲38.89	▲0.2	▲34.26	▲0.1	-	-	▲5.63	▲0.1
	その他農地	▲47.67	▲0.1	▲17.17	0.0	▲10.10	0.0	▲6.65	0.0	▲8.00	0.0	-	-	▲1.71	0.0
	小計	▲1,455.50	▲4.4	▲1,008.52	▲3.1	▲657.52	▲2.0	▲543.49	▲1.6	▲406.68	▲1.2	▲285.8	▲0.9	▲75.18	▲0.2
水面	河川	2.74	0.0	20.25	0.1	37.00	0.2	15.08	0.1	▲0.07	0.0	-	-	9.55	0.1
	ため池	▲26.42	▲0.1	▲1.65	▲0.1	▲15.51	▲0.1	▲4.35	▲0.1	2.51	0.0	-	-	▲0.07	0.0
	小計	▲23.68	▲0.1	▲18.60	0.1	21.49	0.1	10.73	0.0	2.44	0.0	▲21.5	0.1	▲9.48	0.0
	合計	▲3,062.71	▲9.4	▲2,288.84	▲7.0	▲1,603.39	▲4.9	▲1,420.20	▲4.4	▲926.72	▲2.9	▲523.6	▲1.6	▲353.57	▲1.1

※ H27 調査は調査手法が異なるため、参考値とする。

② 細種別の緑被率の変化

緑被地面積の増減を細種別で見たところ、500ha程度以上減少していたのは、高木、低木、草地、水田、畑であり、その一方、高木、草地については、500ha程度以上増加もしていた。(図I-14参照)

これらは緑化の推進や、植生の変化等が主な要因として考えられたが、特に、高木では戸田川や庄内川高水敷の樹林化等が、草地では千音寺の土地区画整理事業(中川区、事業年度：平成23(2011)年度～令和9(2027)年度)による一時的な草地化等が影響を及ぼしていたと考えられた。(図I-15(p.23)、図I-21(p.29)参照)

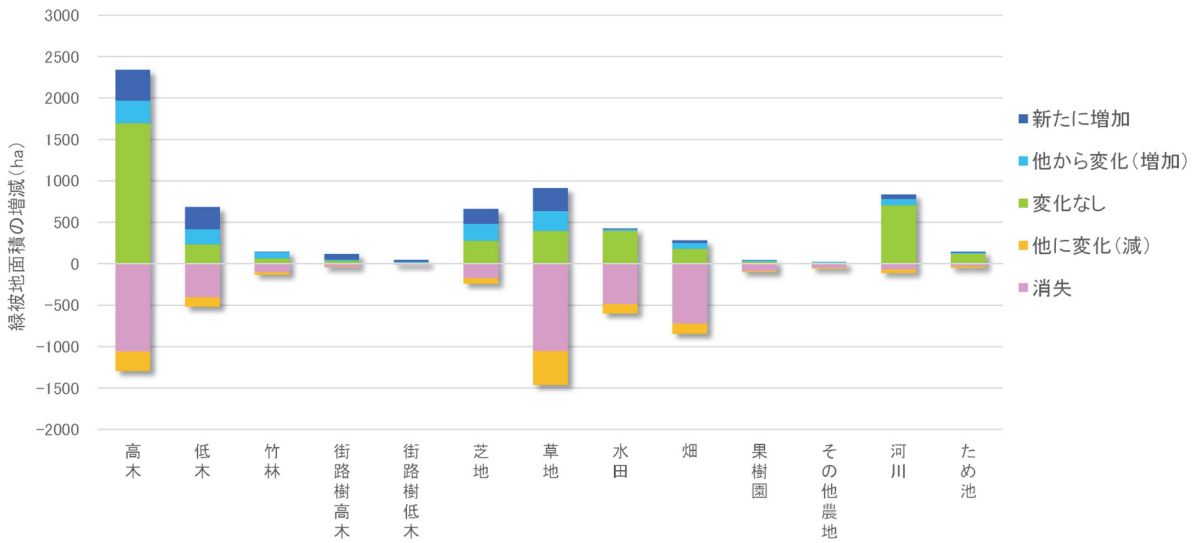


図 I-14: 細種別緑被地面積の増減 (平成2年から令和7年の35年間の変化)

凡例

高木の増減(H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

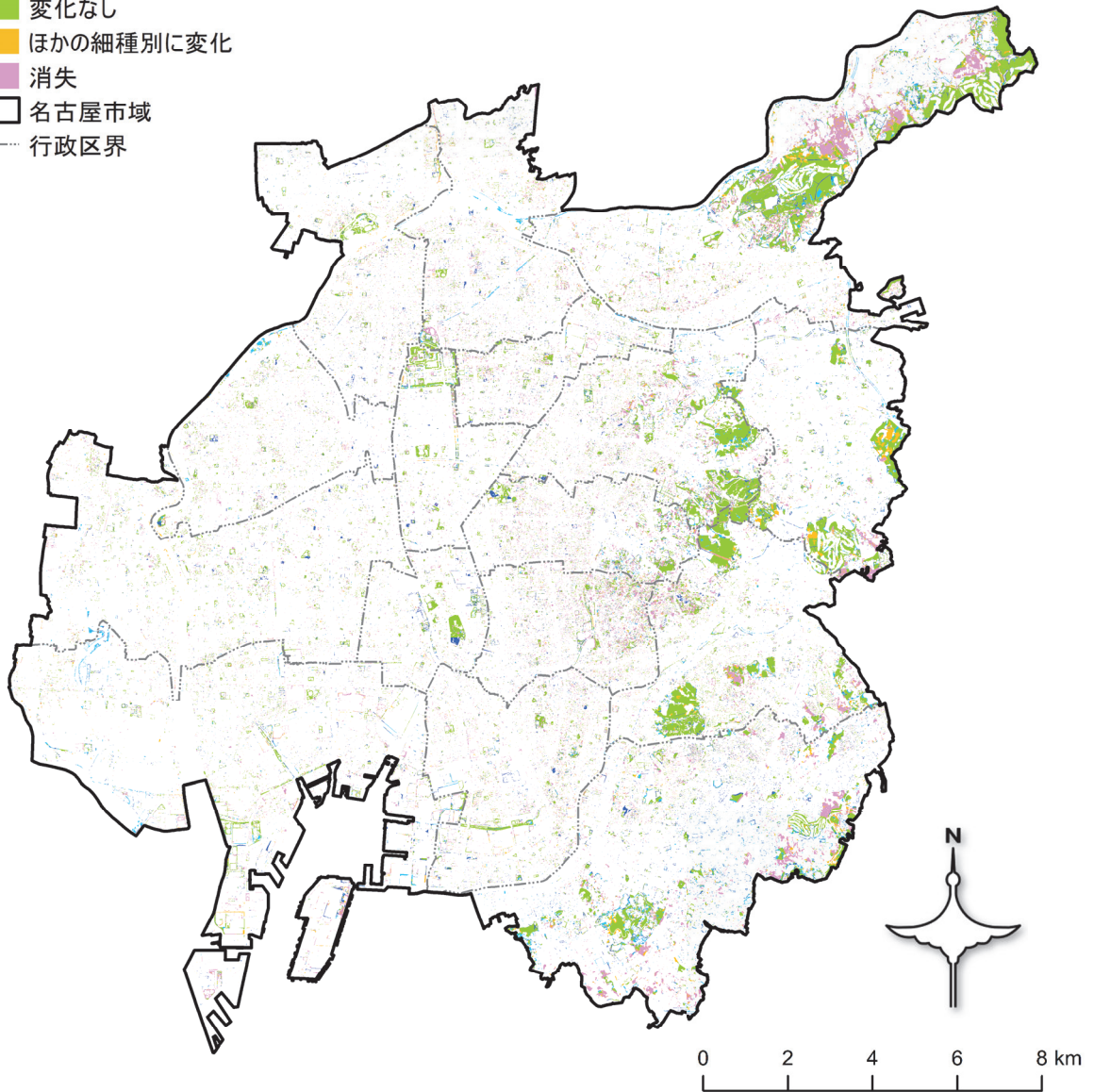


図 I-15：細種別緑被地 増減図【樹林地-高木】（平成2年から令和7年の35年間の変化）

注1）本図はH2及びR7それぞれの緑被地（高木）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

低木の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

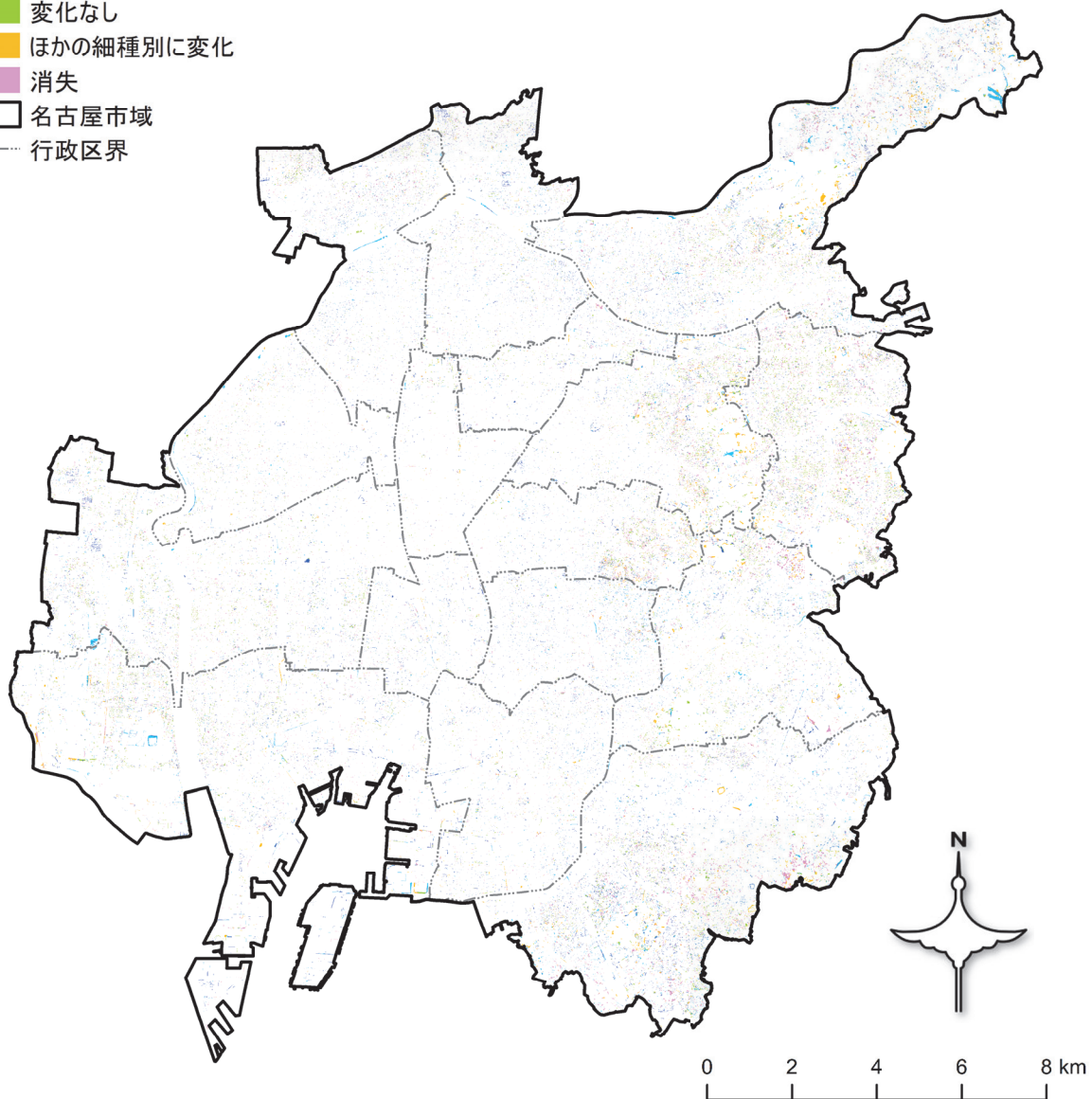


図 I-16 : 細種別緑被地 増減図【樹林地-低木】(平成2年から令和7年の35年間の変化)

注1) 本図は H2 及び R7 それぞれの緑被地 (低木) をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

竹林の増減(H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

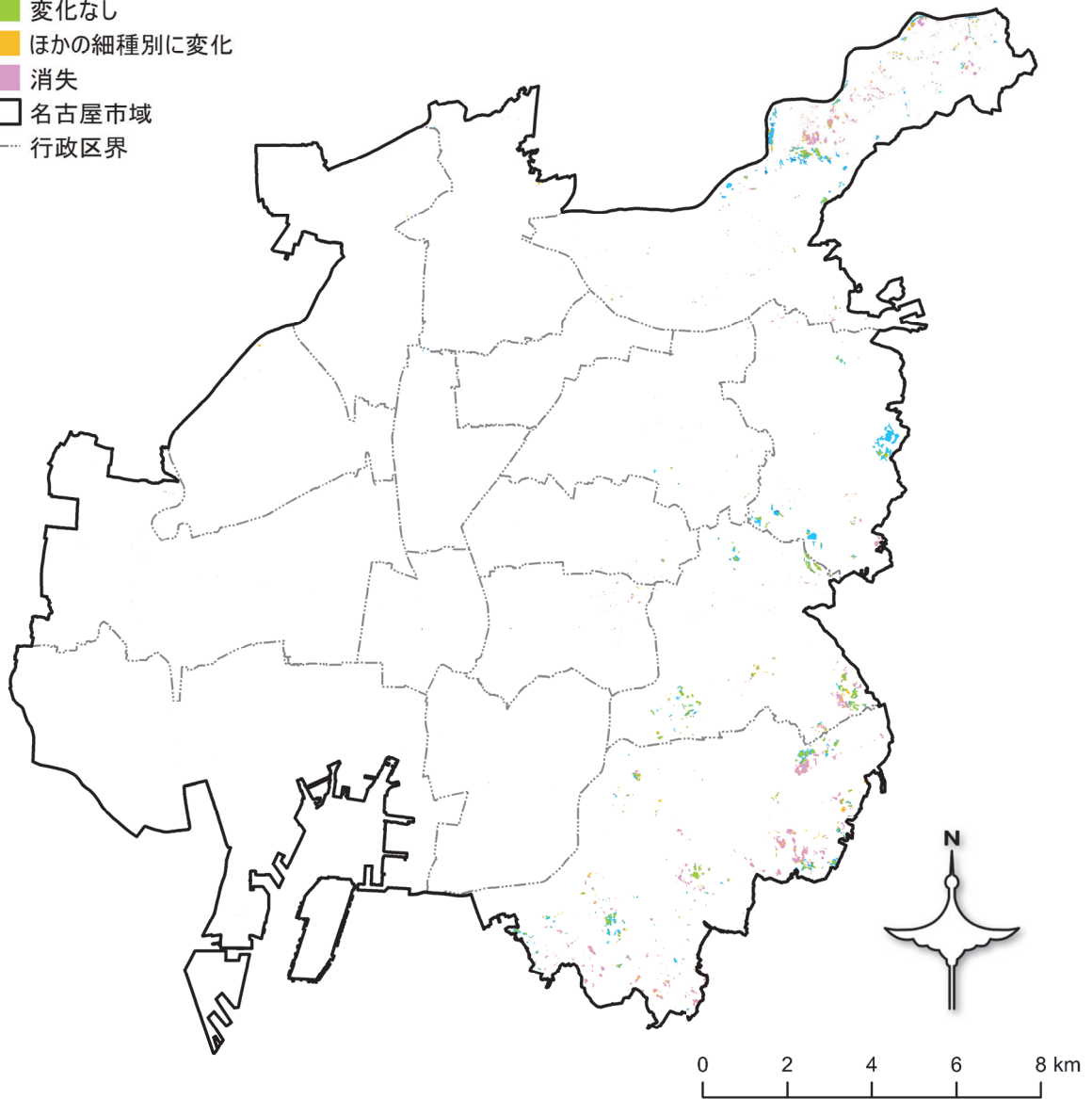


図 I-17：細種別緑被地 増減図【樹林地－竹林】（平成2年から令和7年の35年間の変化）

注1）本図はH2及びR7それぞれの緑被地（竹林）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

街路樹高木の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

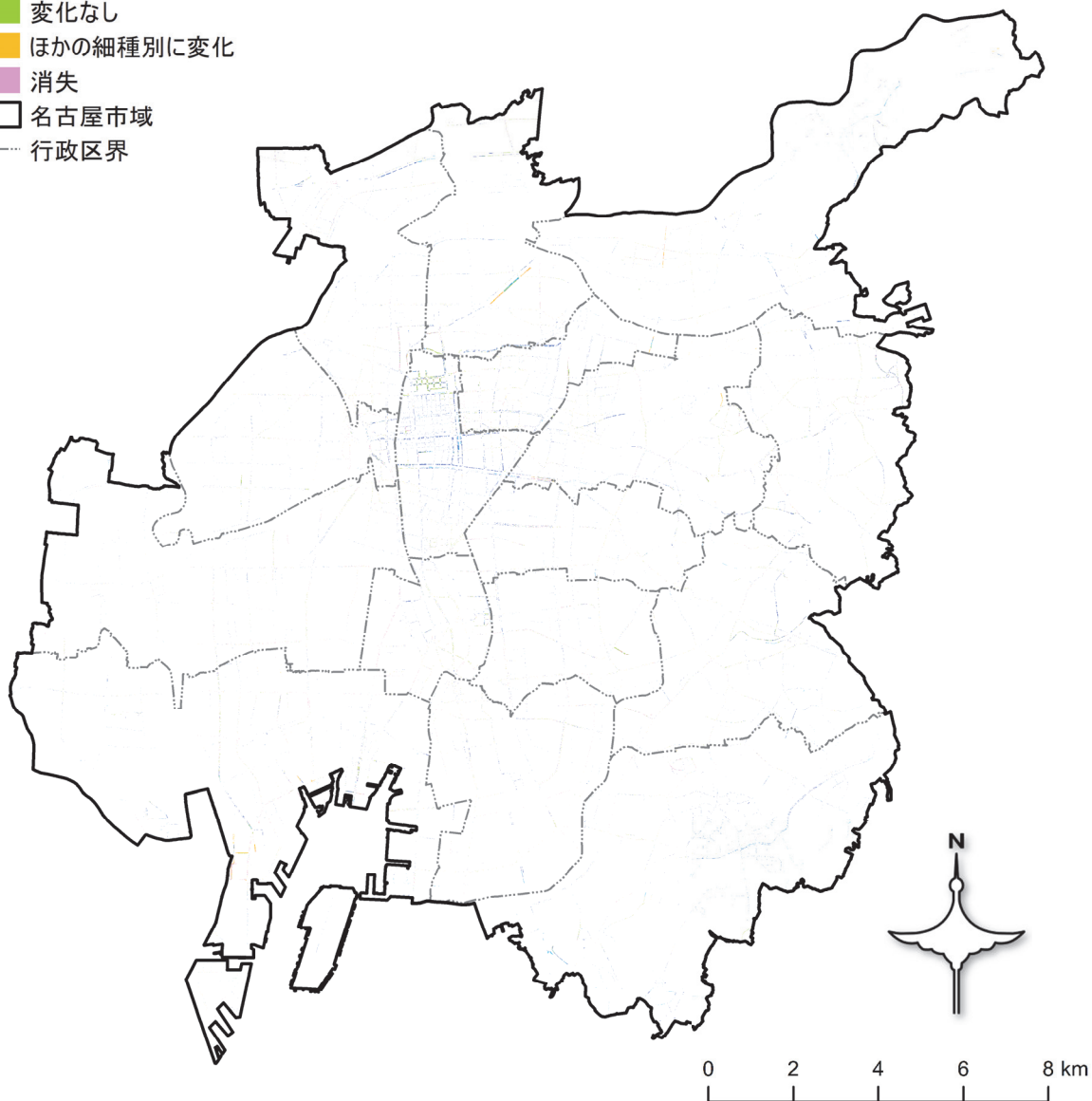


図 I-18 : 細種別緑被地 増減図【樹林地－街路樹高木】(平成 2 年から令和 7 年の 35 年間の変化)

注 1) 本図は H2 及び R7 それぞれの緑被地 (街路樹高木) をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

街路樹低木の増減(H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

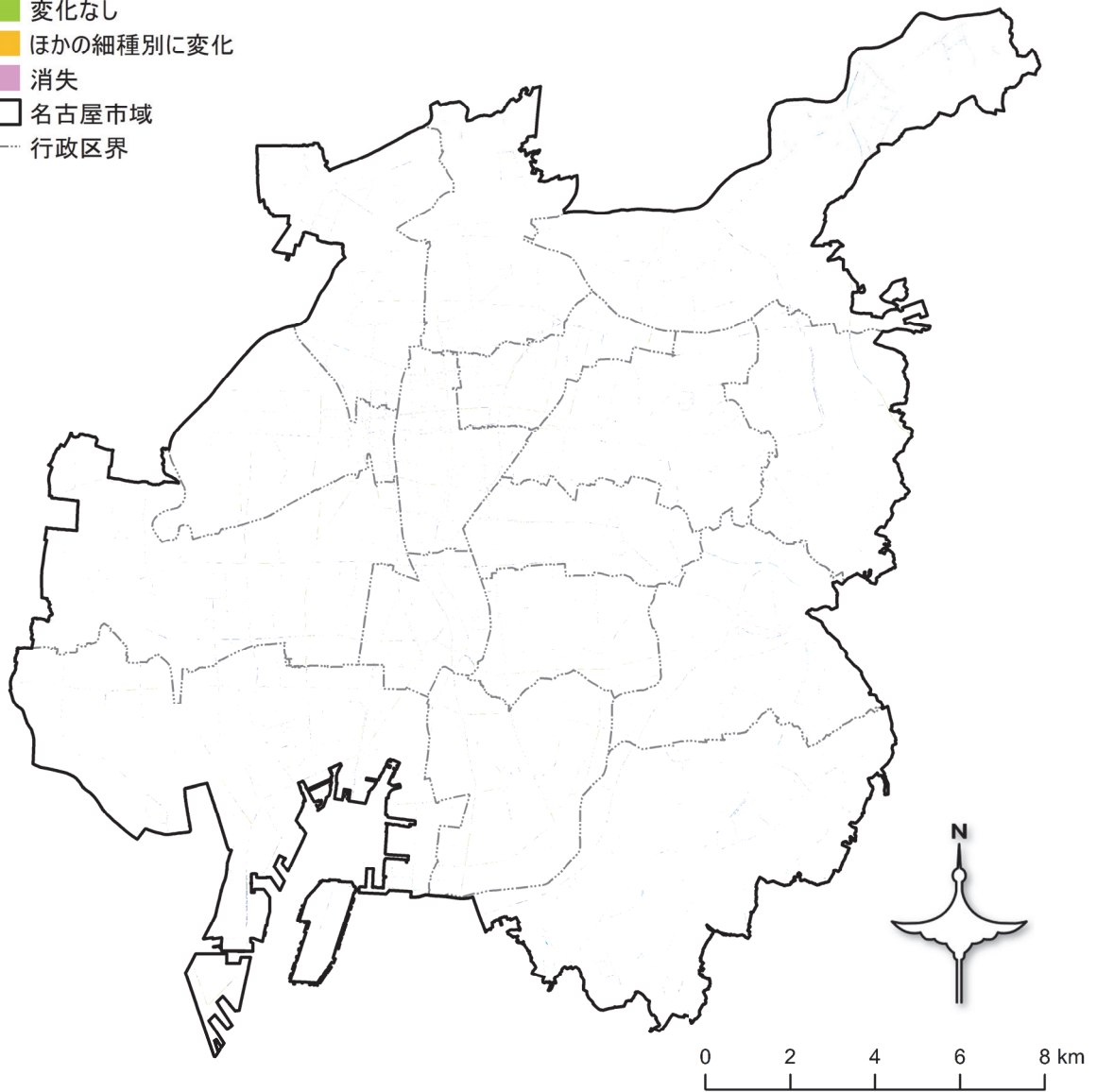


図 I-19：細種別緑被地 増減図【樹林地－街路樹低木】（平成2年から令和7年の35年間の変化）

注1）本図はH2及びR7それぞれの緑被地（街路樹低木）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

芝地の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

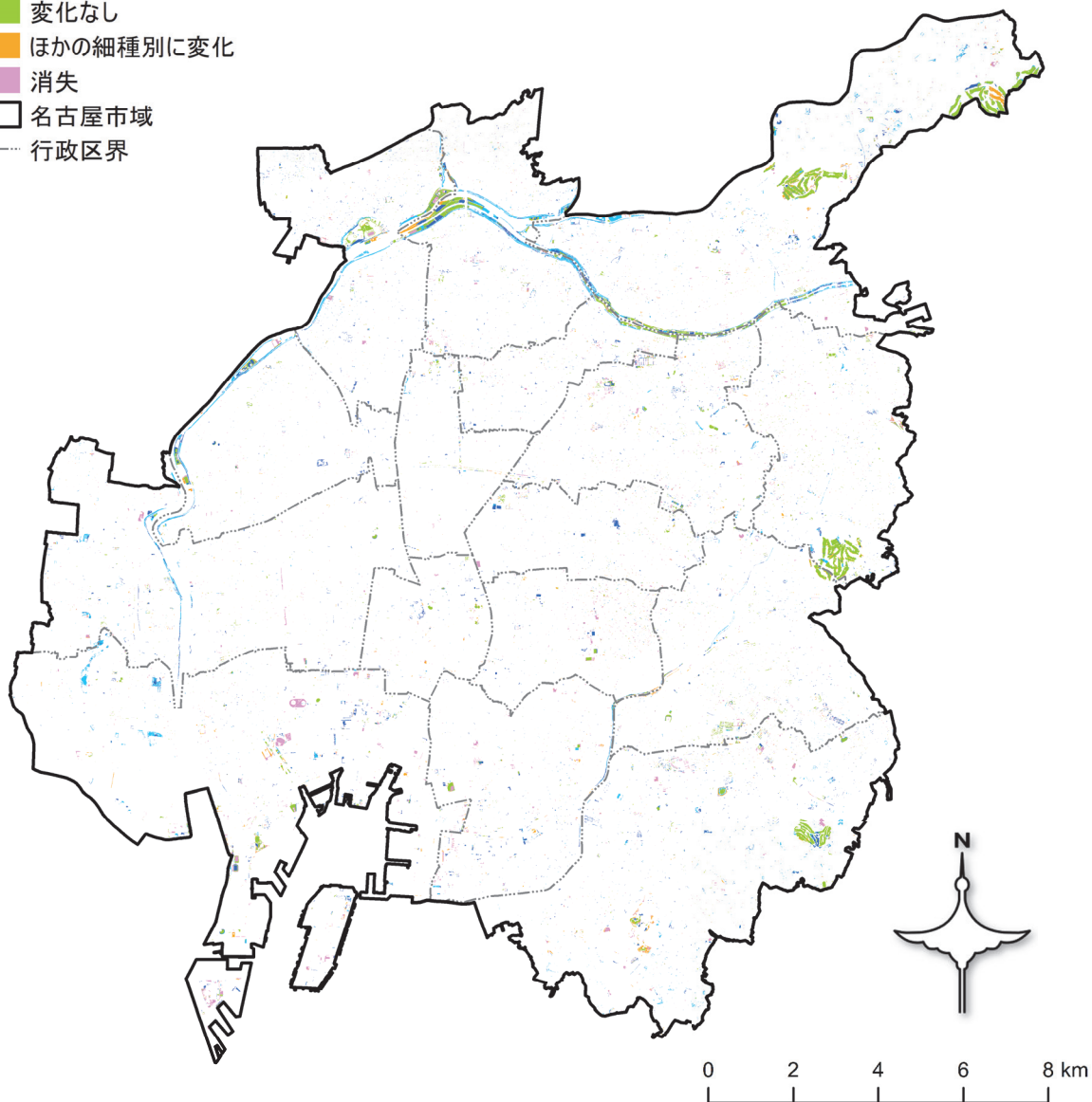


図 I-20 : 細種別緑被地 増減図【芝・草地—芝地】(平成2年から令和7年の35年間の変化)

注1) 本図は H2 及び R7 それぞれの緑被地(芝地)をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

草地の増減(H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

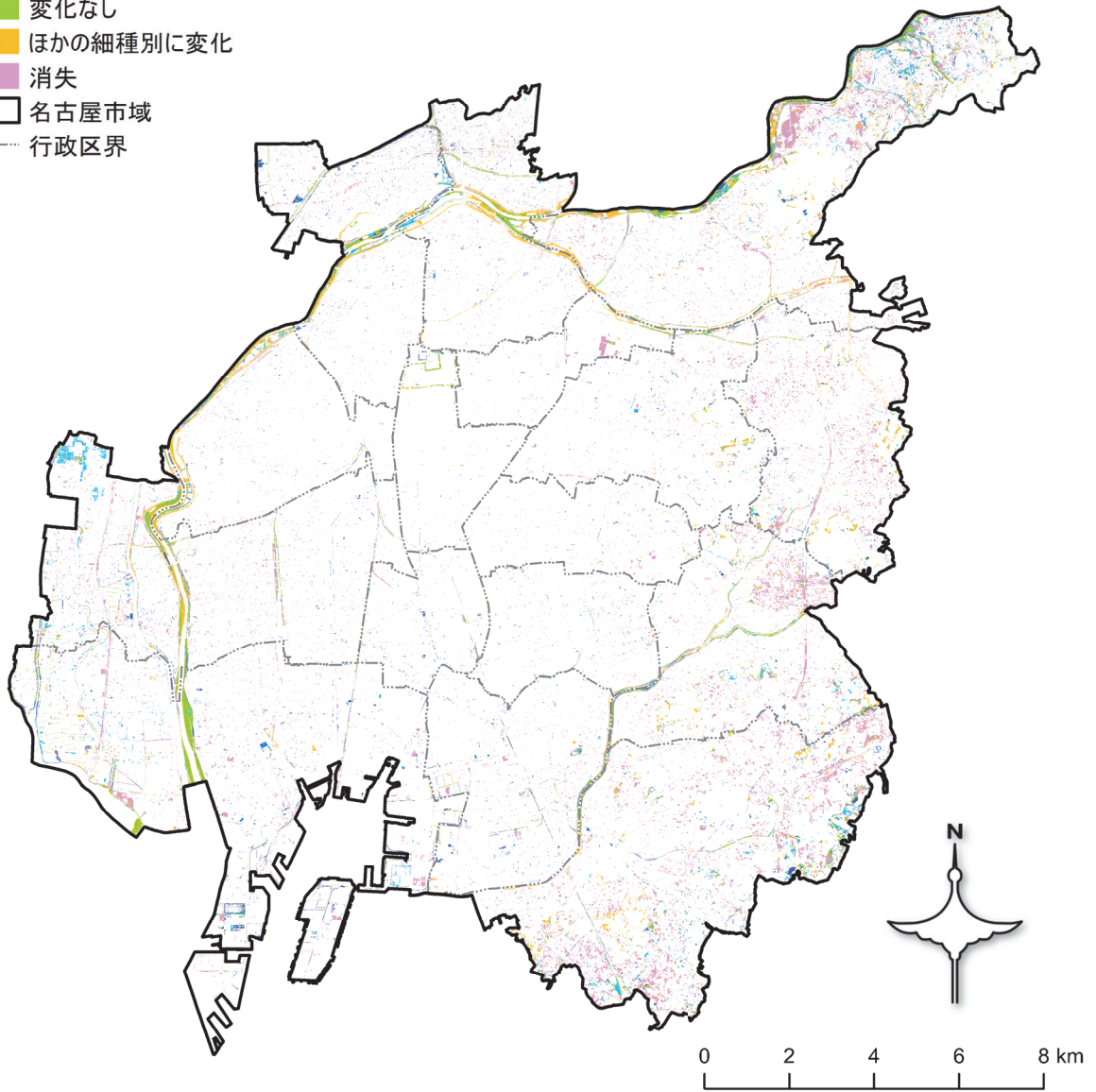


図 I-21：細種別緑被地 増減図【芝・草地－草地】（平成2年から令和7年の35年間の変化）

注1）本図はH2及びR7それぞれの緑被地（草地）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

水田の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

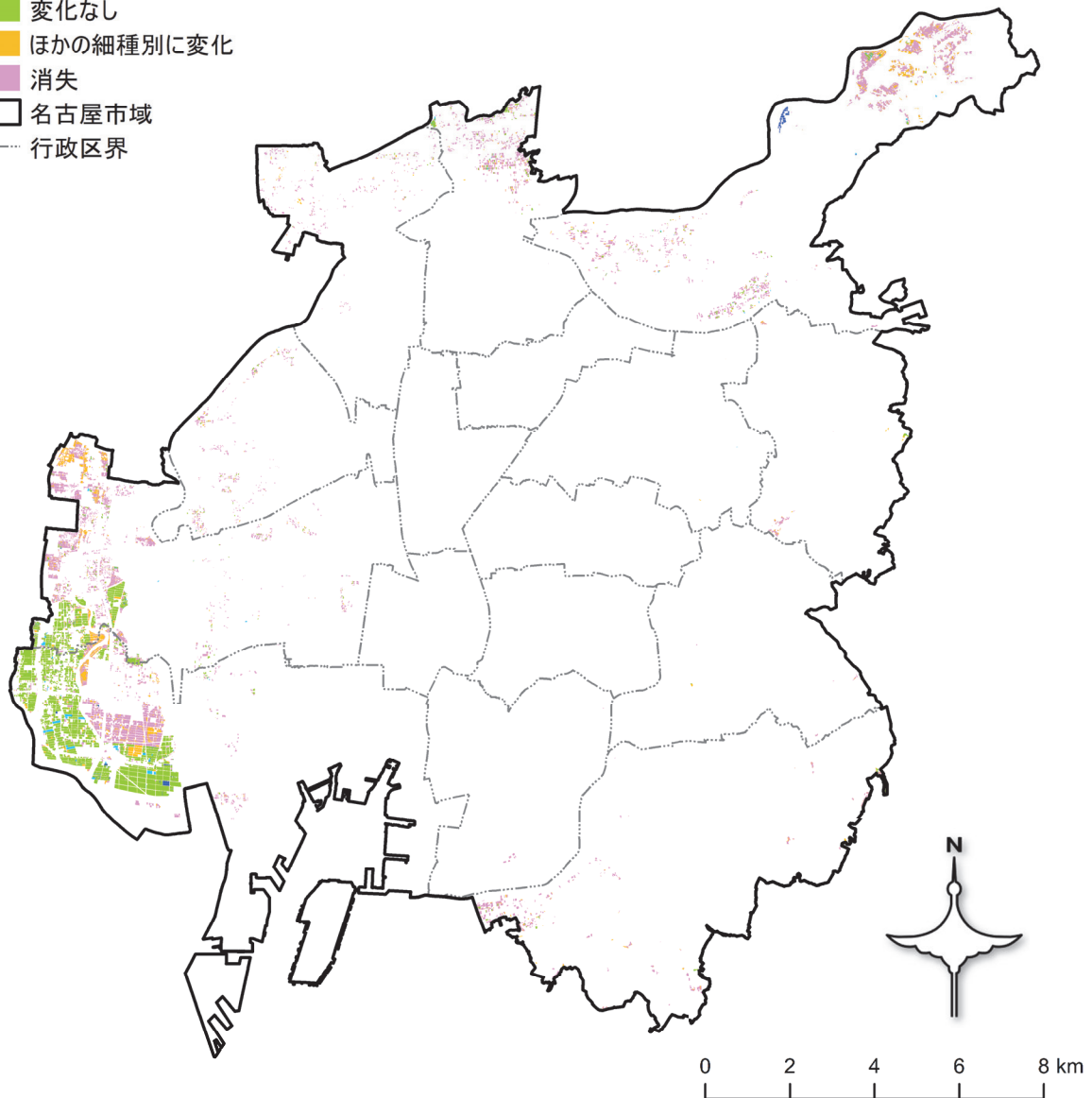


図 I-22 : 細種別緑被地 増減図【農地－水田】(平成2年から令和7年の35年間の変化)

注1) 本図はH2及びR7それぞれの緑被地(水田)をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

畑の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

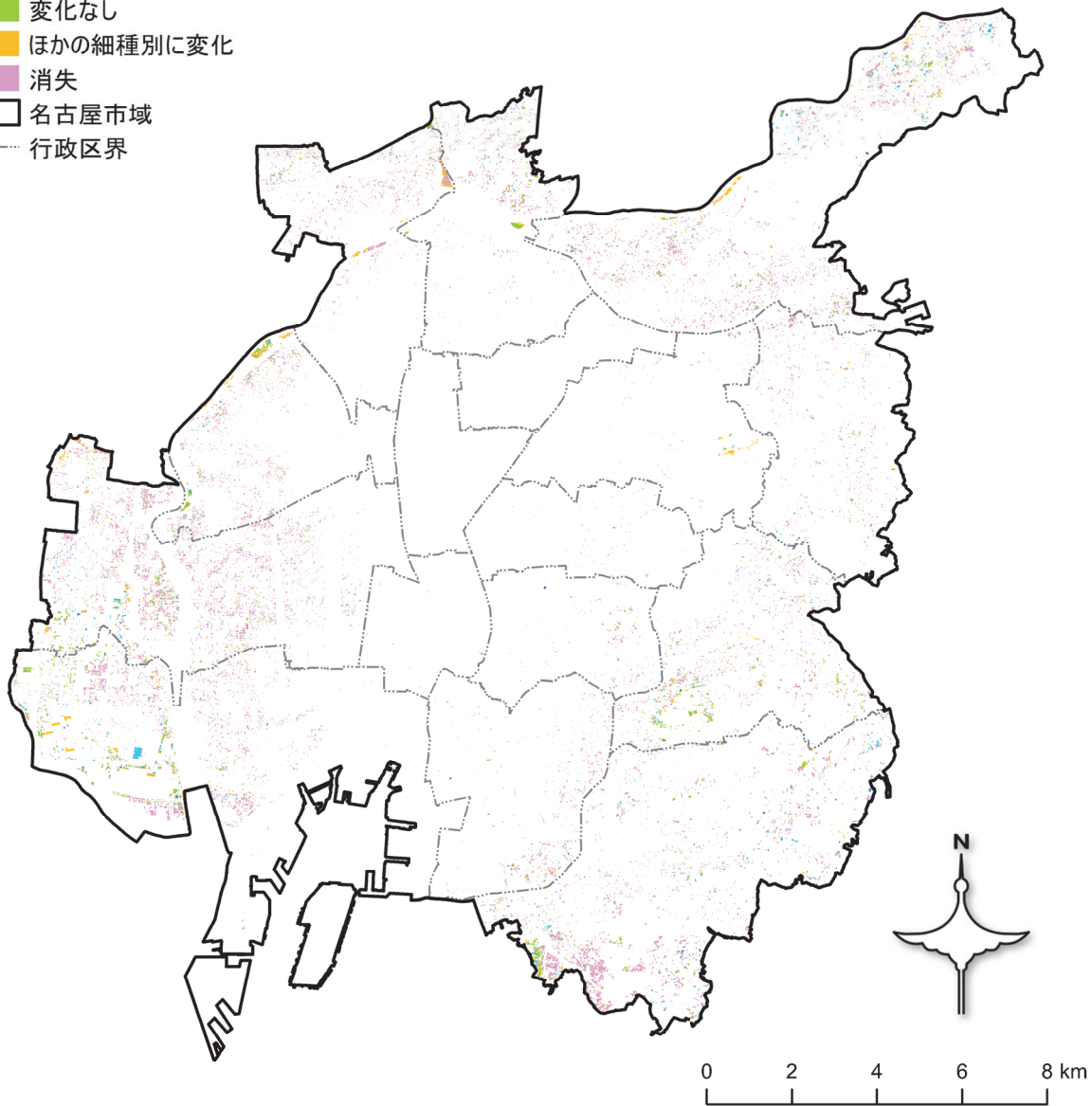


図 I-23 : 細種別緑被地 増減図【農地－畑】(平成2年から令和7年の35年間の変化)

注1) 本図は H2 及び R7 それぞれの緑被地 (畑) をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

果樹園の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

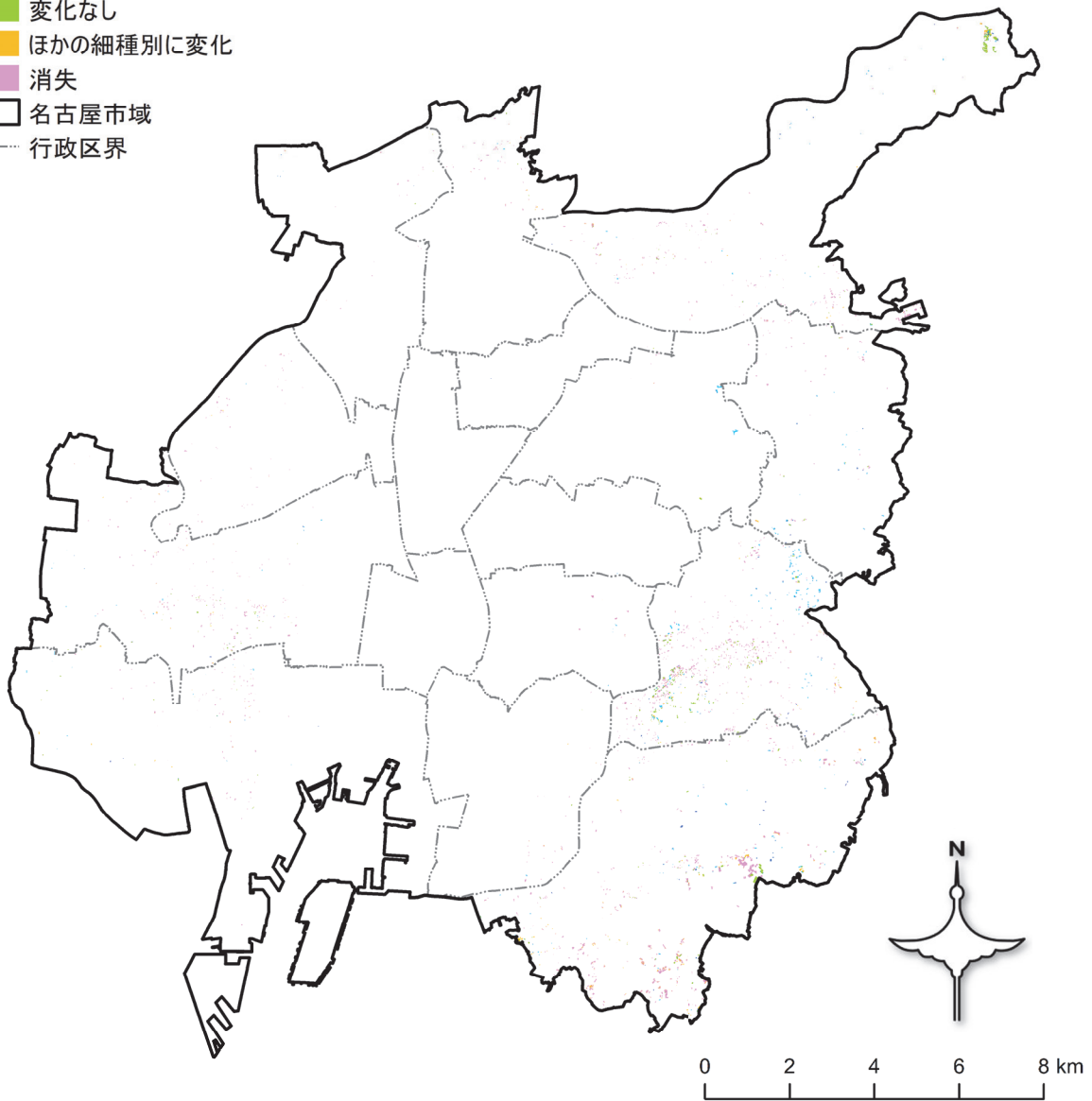


図 I-24 : 細種別緑被地 増減図【農地—果樹園】(平成 2 年から令和 7 年の 35 年間の変化)

注 1) 本図は H2 及び R7 それぞれの緑被地 (果樹園) をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

その他農地の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

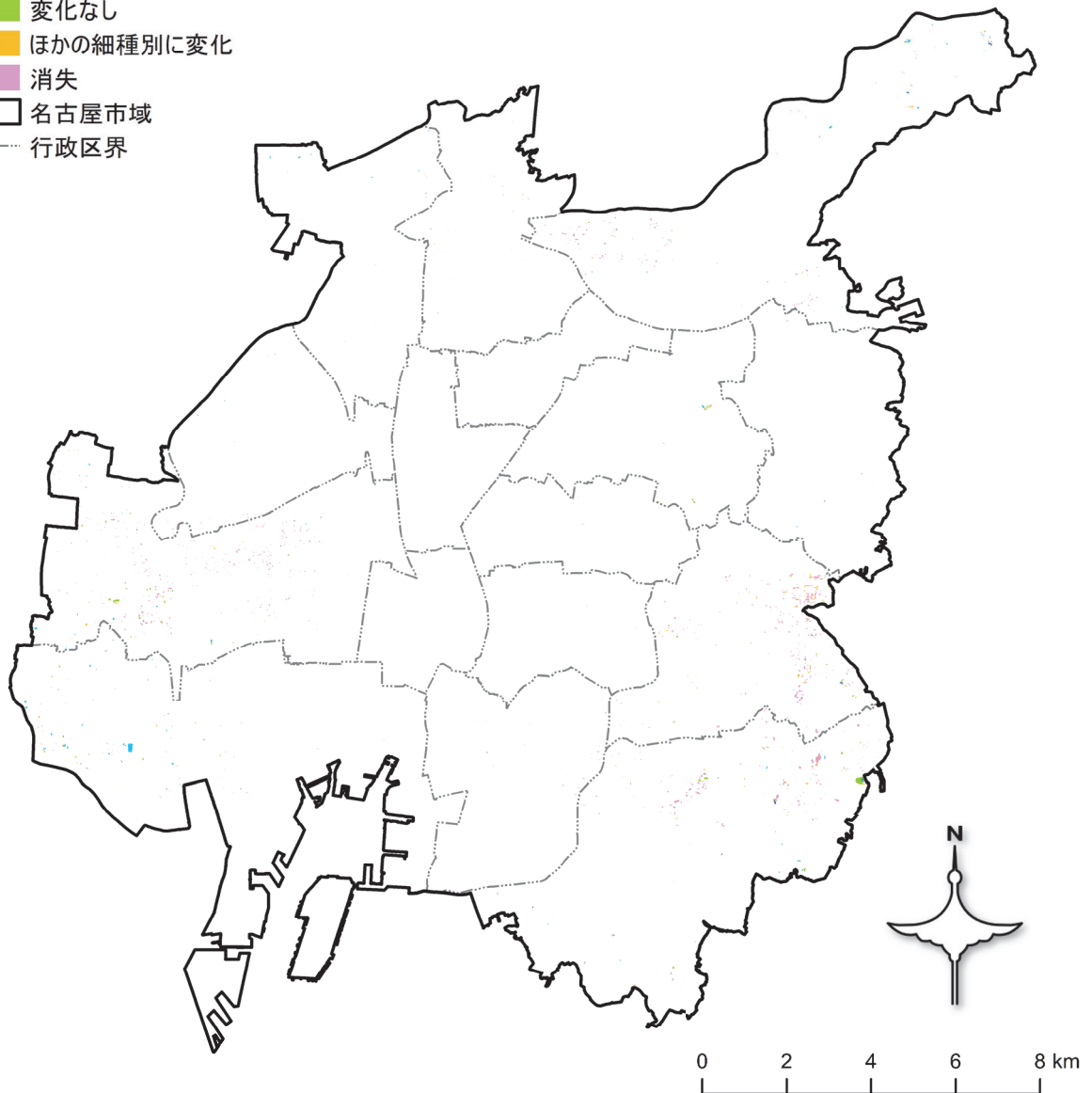


図 I-25：細種別緑被地 増減図【農地－その他の農地】（平成2年から令和7年の35年間の変化）

注1）本図はH2及びR7それぞれの緑被地（その他の農地）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

河川の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

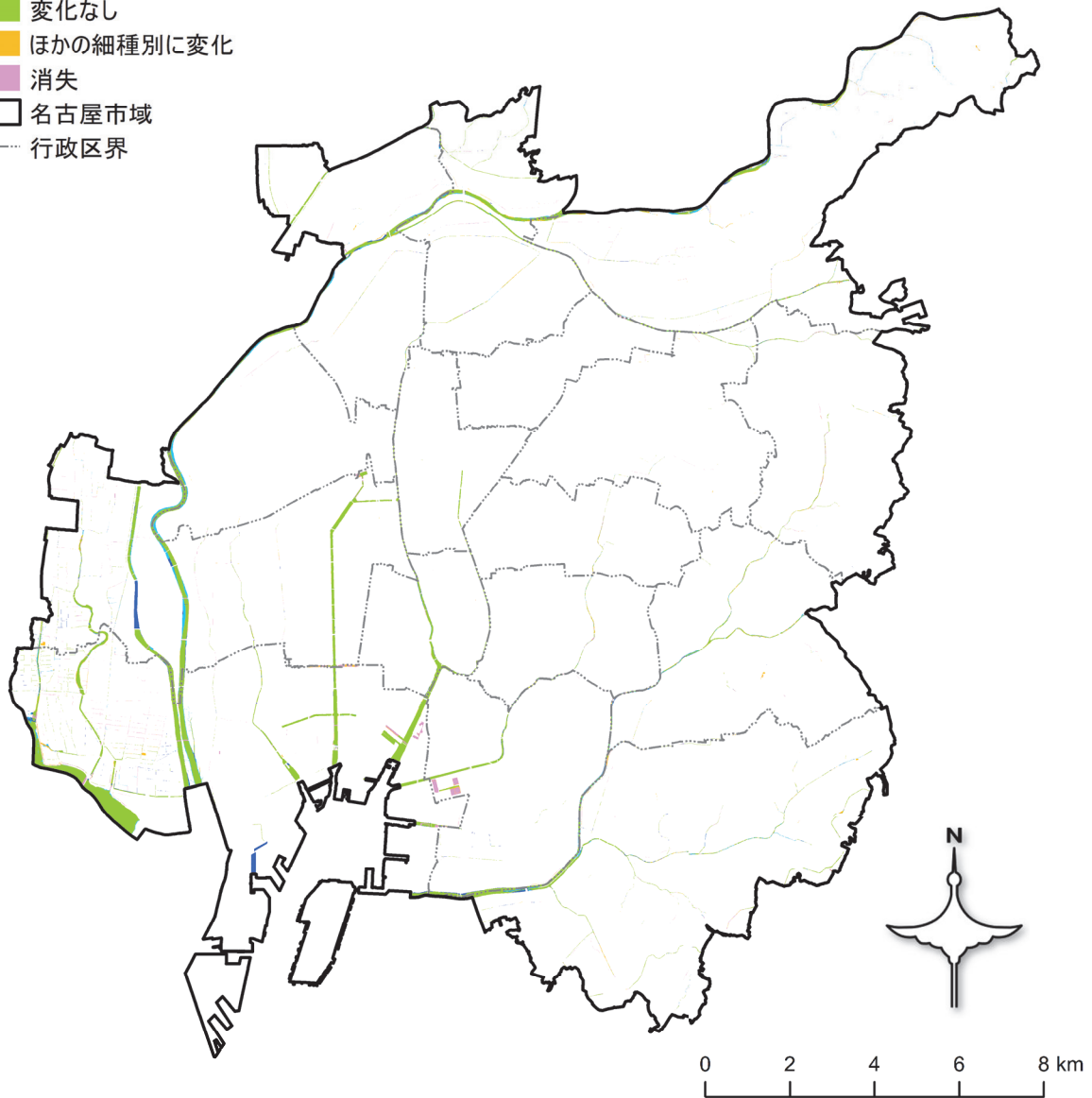


図 I-26 : 細種別緑被地 増減図【水面－河川】(平成 2 年から令和 7 年の 35 年間の変化)

注 1) 本図は H2 及び R7 それぞれの緑被地 (河川) をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。

凡例

ため池の増減 (H2⇒R7)

- 新たに増加
- ほかの細種別から変化
- 変化なし
- ほかの細種別に変化
- 消失
- 名古屋市域
- 行政区界

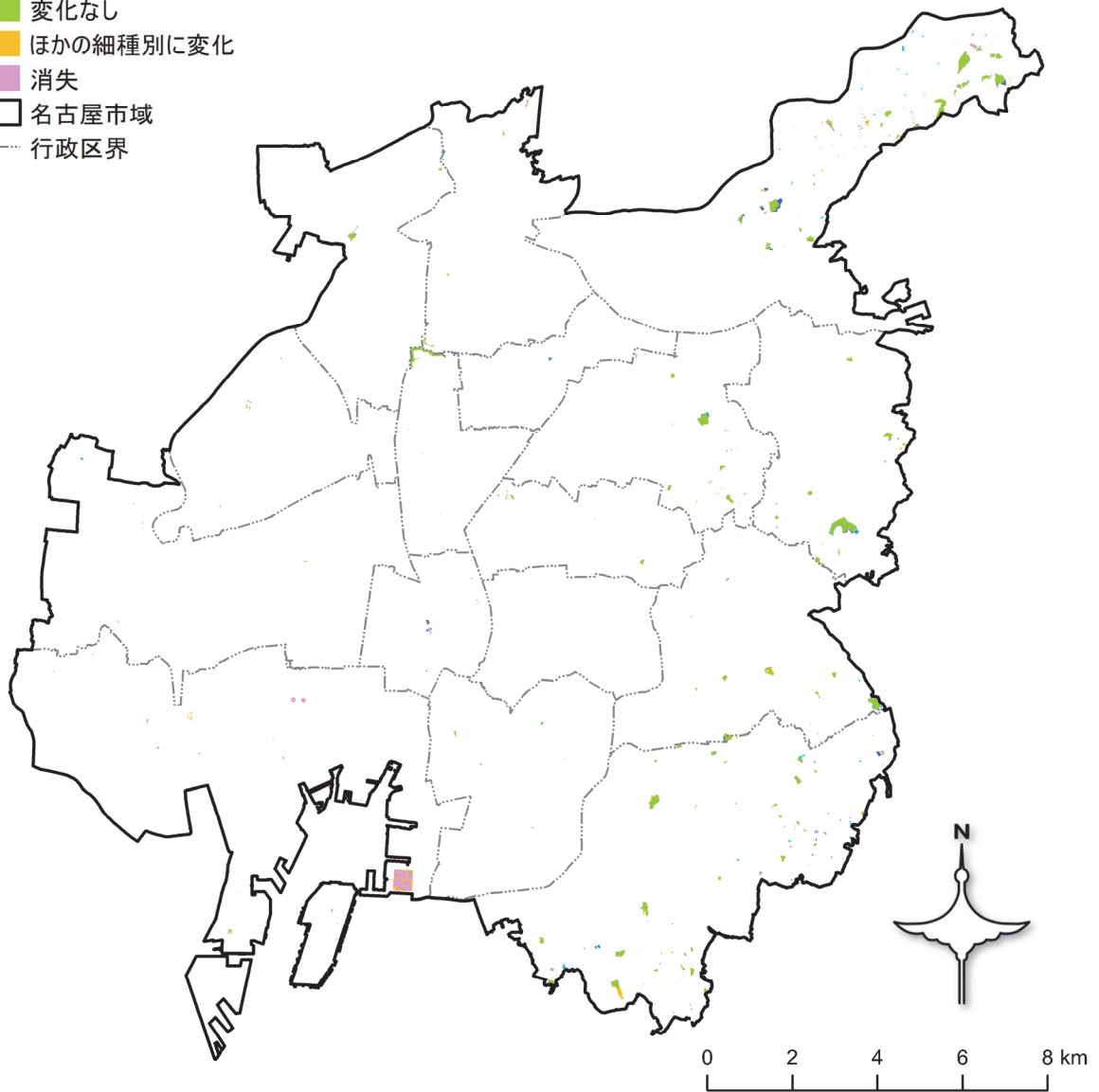


図 I-27：細種別緑被地 増減図【水面—ため池】（平成2年から令和7年の35年間の変化）

注1）本図は H2 及び R7 それぞれの緑被地（ため池）をオーバーレイ解析し、その変化状況を示したものである。



### 3-2. 緑被地のまとまり度

面積が広い、連続性があるなどの“まとまりの大きな緑”は、生物の生息・生育空間として、また、環境の改善、防災性の向上、美しい景観の形成、レクリエーションの場の提供、季節感や安らぎ感の充実などの効果を発揮し、緑被地のまとまり度は都市の緑が果たしている役割を評価する上で重要な指標である。本節においては、本市の緑について、まとまり度の視点から概観した。

#### 3-2-1. 緑被地全体のまとまり度

##### (1) 緑被地全体のまとまり度

1ha以上のまとまった緑被地は、庄内川をはじめとする河川沿いのほか、東部地域においては樹林地や芝・草地として、西部地域においては農地として分布するものが多い状況であった。

##### (2) 緑被地全体のまとまり度の変化

1ha以上の緑被地は合計面積3,344.53ha(計637箇所)であり、箇所数は全体の0.2%に過ぎないが、面積は全緑被地の約半分を占めていた。

平成2(1990)年からの変化を見ると、およそ100㎡以上の比較的大きなまとまりのある緑被地は面積・箇所数ともに減少し、100㎡未満の小規模な緑被地の箇所数は増えている傾向にあることから、緑被地の細分化が進行していると考えられた。

表 I-15：緑被地全体のまとまり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和7(2025)年				H2⇒R7 増減	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100㎡未満	658.13	0.068	198,570	0.748	603.44	0.09	216,854	0.801	▲54.69	18,284
100㎡以上 200㎡未満	387.38	0.107	24,766	0.841	342.77	0.14	24,415	0.891	▲44.61	▲351
200㎡以上 300㎡未満	268.00	0.135	10,571	0.881	232.19	0.18	9,520	0.926	▲35.81	▲1,051
300㎡以上 400㎡未満	220.16	0.158	6,356	0.904	171.68	0.20	4,965	0.944	▲48.48	▲1,391
400㎡以上 500㎡未満	190.56	0.177	4,150	0.920	132.16	0.22	2,962	0.955	▲58.40	▲1,188
500㎡以上 1,000㎡未満	727.05	0.252	9,700	0.957	422.48	0.29	6,095	0.978	▲304.57	▲3,605
1,000㎡以上 3,000㎡未満	1,330.06	0.389	7,949	0.987	653.91	0.38	3,991	0.992	▲676.15	▲3,958
3,000㎡以上 5,000㎡未満	573.87	0.448	1,553	0.992	308.05	0.43	806	0.995	▲265.82	▲747
5,000㎡以上 10,000㎡未満	701.55	0.520	1,049	0.996	455.64	0.50	645	0.998	▲245.91	▲404
10,000㎡以上 (1ha以上)	4,673.74	1.000	975	1.000	3,344.53	1.00	637	1.000	▲1,329.21	▲338
合計	9,730.50		265,639		6,666.84		270,890		▲3,063.66	5,251

注1) 令和7年の「緑被地全体のまとまり度」は、緑被種別は全て無視して隣接する緑被地を統合し、空間的に接合したまとまりのある緑被地別に集計したものである。そのため、「樹林地のまとまり度」、「芝・草地のまとまり度」、「農地のまとまり度」、「水面のまとまり度」を合計しても本表の数値とは一致しない。また、緑被種別(細種別)に集計した「令和7(2025)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編 参照)とも一致しない。

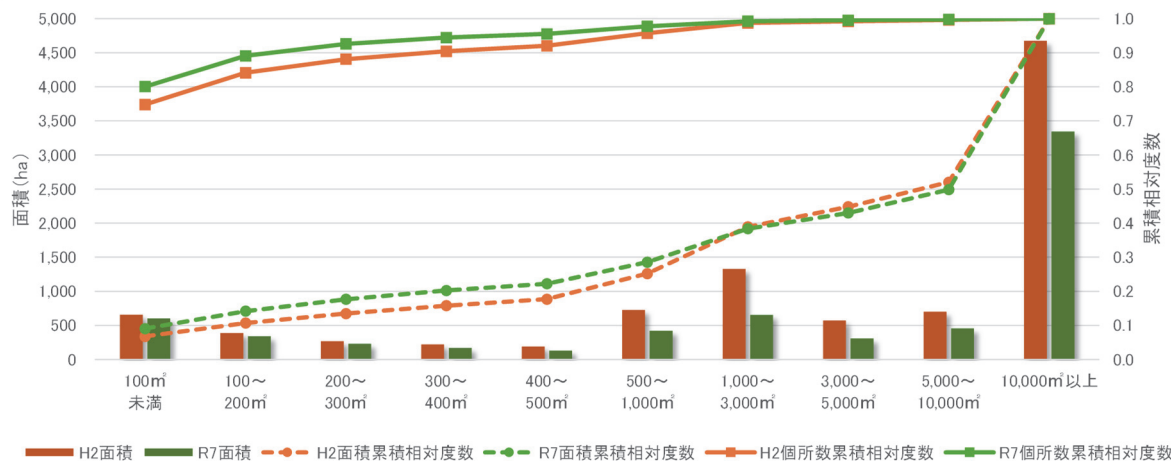


図 I-28：緑被地全体のまとまり度別の変化

凡例

- 1ha以上の樹林地
- 1ha以上の芝・草地
- 1ha以上の農地
- 1ha以上の水面
- 複数の個別の緑被地が集まって1ha以上になるもの
- 名古屋市域
- 行政区界

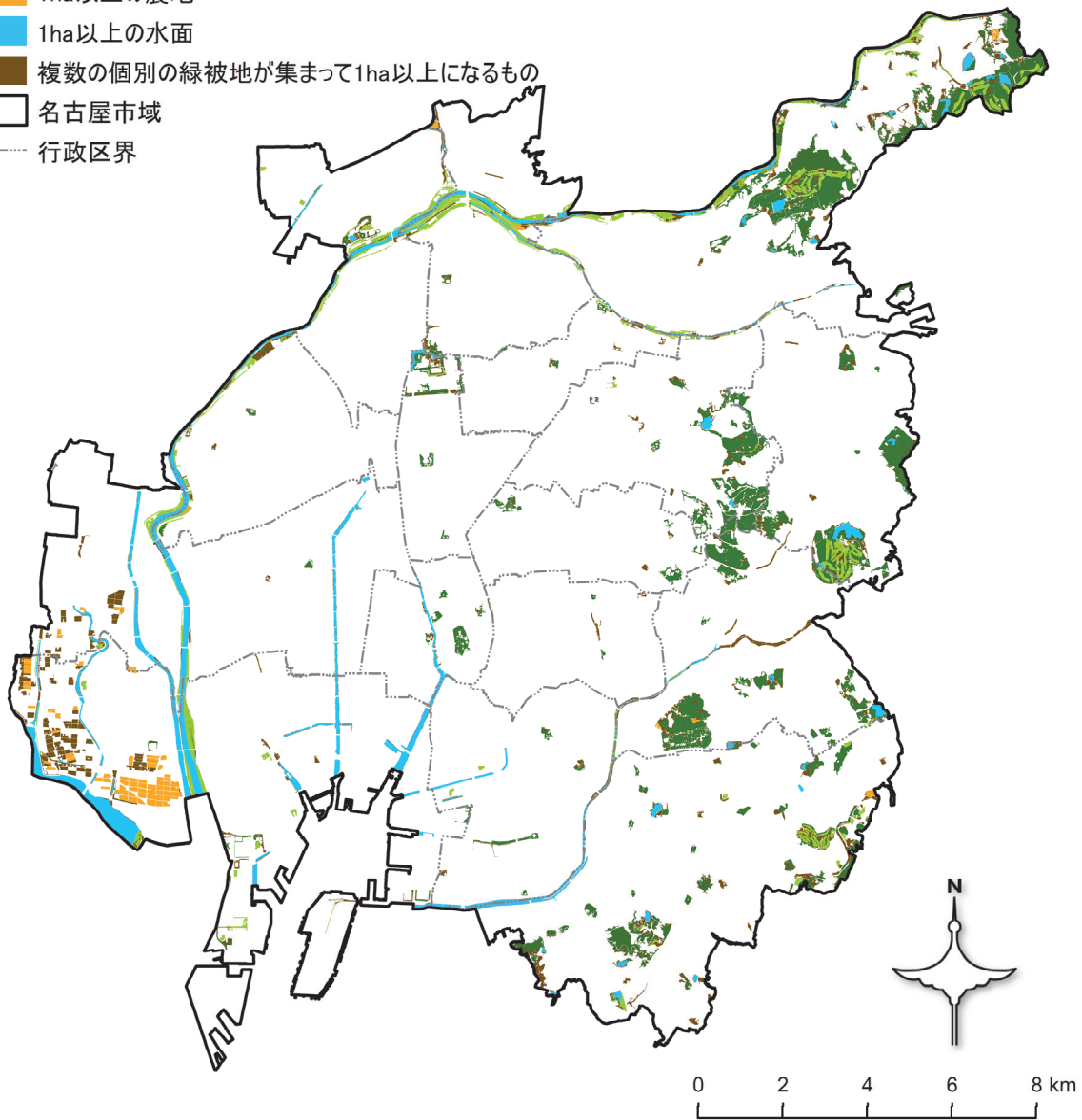


図 I-29 : まとまりのある緑被地 分布図 (令和 7 年)

注1) 本図は、4種別ごとに統合しそれぞれ1ha以上となるまとまりのある緑被地と、全緑被種別を統合し1ha以上となるまとまりのある緑被地を示している。

凡例

1ha以上の緑被地の増減(H2⇒R7)

- 増加
- 減少
- 変化なし
- 名古屋市域
- 行政区界

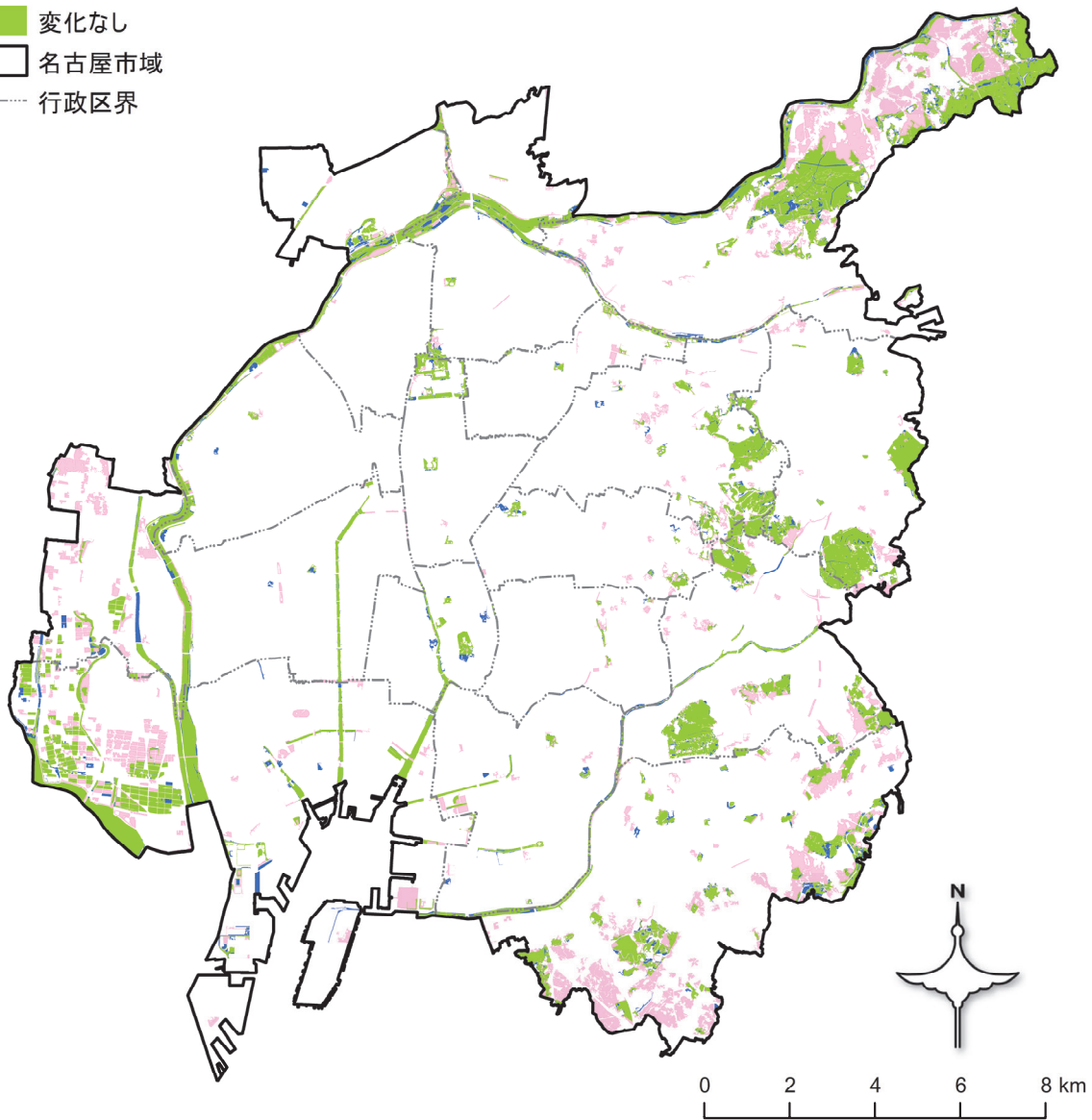


図 I-30 : まとまりのある緑被地 増減図 (平成2年から令和7年の35年間の変化)

注1) 本図は、全緑被種別を各年それぞれ統合し、1ha以上のまとまりのある緑被地としてその変化状況を示したものである。

3-2-2. 緑被種別のまとめり度

(1) 樹林地のまとめり度

樹林地のまとめり度を見ると、箇所数は100㎡未満のものが圧倒的に多く全体の85%を占めた。1ha以上のまとめりのある樹林地は222箇所あり、全体の中で箇所数はごく少ないが、面積は全樹林地の4割弱を占めた。(表I-16参照)

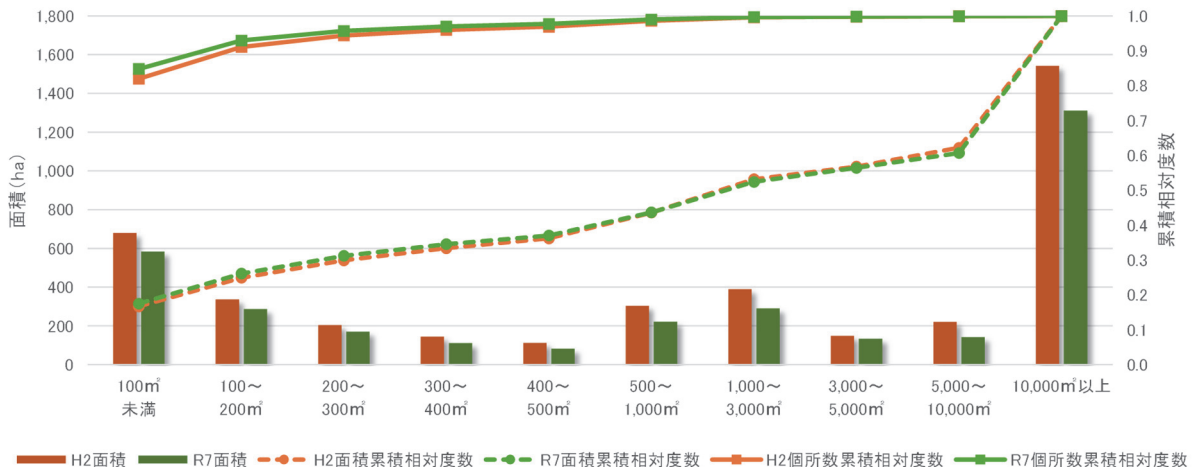
1ha以上のまとめりのある樹林地の分布を見ると、規模の大きな樹林地は主に東部地域に分布している。(図I-32(p.41)参照)

なお、平成2(1990)年との比較を見ると、1ha以上のまとめりのある樹林地は、特に守山区や緑区等において減少している状況で、これらは宅地化等の市街地の開発により減少したものと考えられた。一方、100㎡未満の箇所数は増加しており、これは規模の大きな樹林地の細分化や、宅地化等に伴う緑化、都心部等における街路樹の生長等によるものと考えられた。

表I-16：樹林地のまとめり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和7(2025)年				H2→R7増減	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100㎡未満	680.37	0.167	211,581	0.820	583.67	0.18	215,415	0.848	▲96.70	▲3,834
100㎡以上 200㎡未満	336.57	0.249	23,558	0.911	286.84	0.26	20,650	0.929	▲49.73	▲2,908
200㎡以上 300㎡未満	204.06	0.299	8,331	0.944	170.42	0.31	7,023	0.957	▲33.64	▲1,308
300㎡以上 400㎡未満	144.93	0.334	4,193	0.960	111.32	0.35	3,220	0.970	▲33.61	▲973
400㎡以上 500㎡未満	112.44	0.362	2,346	0.969	82.39	0.37	1,847	0.977	▲30.05	▲499
500㎡以上 1,000㎡未満	303.97	0.436	4,432	0.986	222.00	0.44	3,241	0.990	▲81.97	▲1,191
1,000㎡以上 3,000㎡未満	389.99	0.532	2,546	0.996	290.60	0.52	1,805	0.997	▲99.39	▲741
3,000㎡以上 5,000㎡未満	148.88	0.568	417	0.998	134.20	0.56	356	0.998	▲14.68	▲61
5,000㎡以上 10,000㎡未満	221.08	0.622	319	0.999	142.18	0.61	209	0.999	▲78.90	▲110
10,000㎡以上(1ha以上)	1,542.10	1.000	282	1.000	1,310.71	1.00	222	1.000	▲231.39	▲60
合計	4,084.39		258,005		3,334.33		253,988		▲750.06	▲4,017

注1) 令和7年の「樹林地のまとめり度」は、樹林地の細種別(高木、低木、竹林、街路樹高木、街路樹低木)の緑被地を統合し、これらのまとめり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別(細種別)に集計した「令和7(2025)年度緑被調査『緑被種別まとめり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編参照)とは異なる。



図I-31：樹林地のまとめり度別の変化

凡例

- 1ha以上の樹林地
- 名古屋市域
- 行政区界

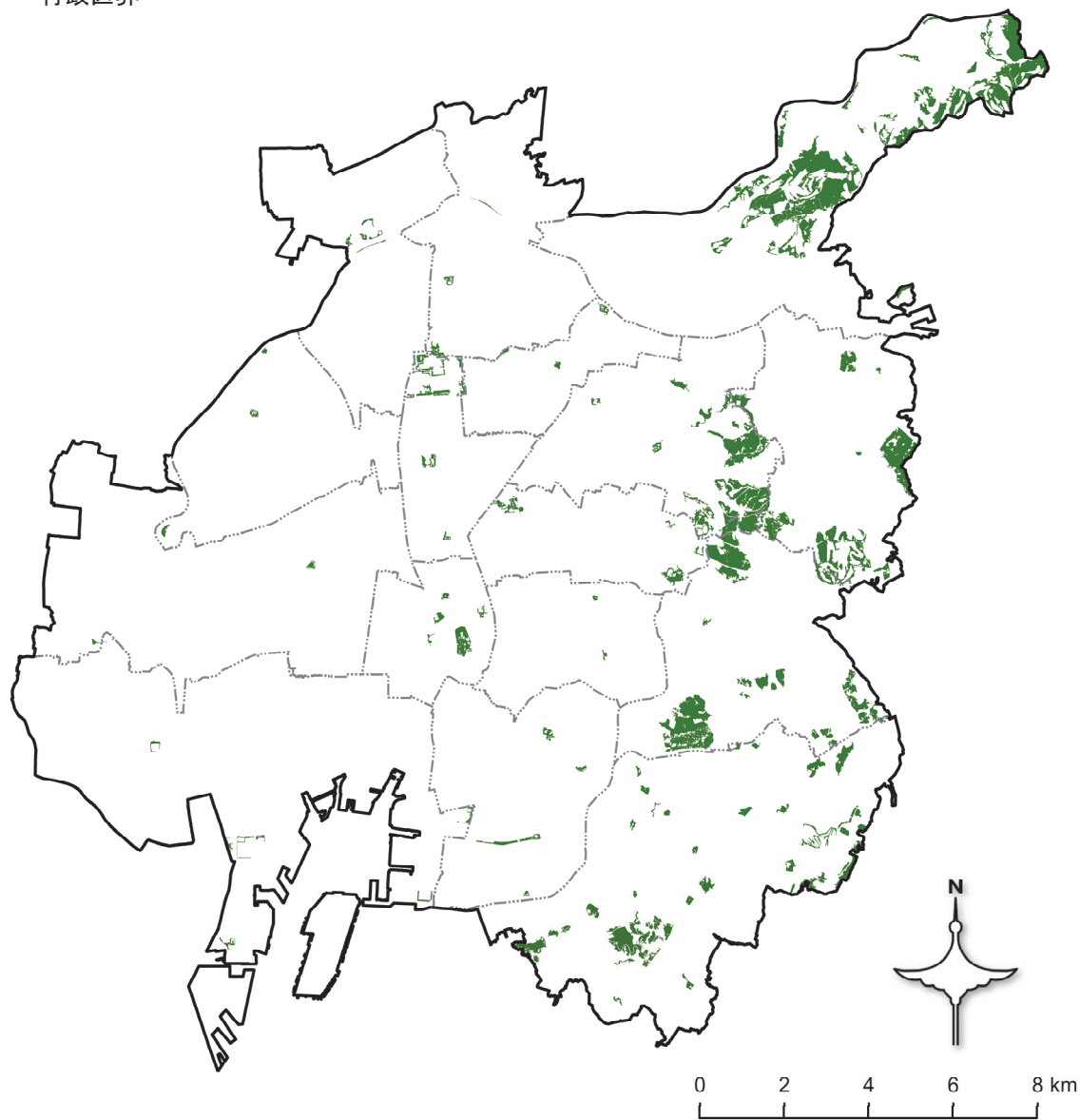


図 I-32 : まとまりのある樹林地 分布図 (令和 7 年)

注 1) 本図は全緑被地のうち樹林地のみを抽出・統合し、1ha 以上のまとまりのある樹林地としてその分布状況を示したものである。

(2) 芝・草地のまとまり度

芝・草地のまとまり度は、階級が100㎡未満の箇所が全体の約50%を占めた。(表I-17参照)

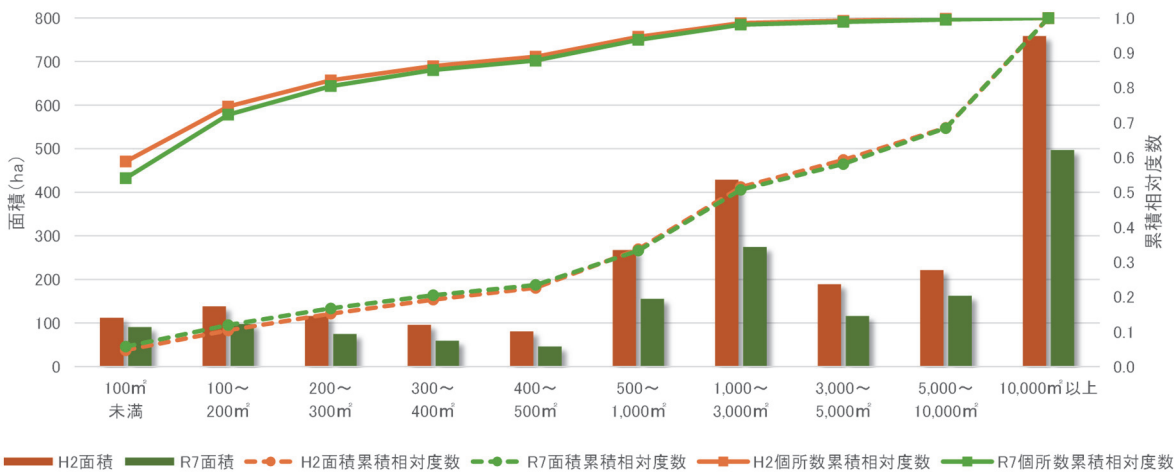
平成2(1990)年と比較すると、令和7(2025)年の面積・箇所数はほとんどの階級で減少しているが、1ha以上の箇所数は23箇所増加(面積は261.24ha減少)した。これは、大面積の芝・草地が細分化されたものと考えられた。特に、1ha以上のまとまりのある芝・草地は、庄内川、矢田川をはじめとした河川敷や、守山区、名東区、緑区のゴルフコース等に比較的まとまって存在している。(図I-34(p.43)参照)

平成2年からの変化を見ると、河川敷の芝・草地は、河道の変化や植生の変化(遷移)等によりその増減が見られ、それ以外の街中にあった芝・草地は、その大小を含め、未利用地の市街化等により減少したと考えられた。

表I-17: 芝・草地のまとまり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和7(2025)年				H2→R7増減	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100㎡未満	112.27	0.047	42,723	0.588	90.36	0.06	20,353	0.541	▲21.91	▲22,370
100㎡以上 200㎡未満	138.08	0.104	11,445	0.746	97.59	0.12	6,854	0.723	▲40.49	▲4,591
200㎡以上 300㎡未満	116.34	0.152	5,451	0.821	75.08	0.17	3,083	0.805	▲41.26	▲2,368
300㎡以上 400㎡未満	95.72	0.192	3,019	0.862	59.78	0.20	1,724	0.850	▲35.94	▲1,295
400㎡以上 500㎡未満	80.98	0.226	1,928	0.889	46.25	0.23	1,038	0.878	▲34.73	▲890
500㎡以上 1,000㎡未満	267.65	0.337	4,135	0.946	155.29	0.33	2,227	0.937	▲112.36	▲1,908
1,000㎡以上 3,000㎡未満	428.85	0.515	2,858	0.985	274.72	0.51	1,649	0.981	▲154.13	▲1,209
3,000㎡以上 5,000㎡未満	189.20	0.593	547	0.992	116.34	0.58	302	0.989	▲72.86	▲245
5,000㎡以上 10,000㎡未満	221.57	0.685	386	0.998	162.49	0.68	231	0.995	▲59.08	▲155
10,000㎡以上(1ha以上)	758.39	1.000	163	1.000	497.15	1.00	186	1.000	▲261.24	▲23
合計	2,409.05		72,655		1,575.05		37,647		▲834.00	▲35,008

注1) 令和7年の「芝・草地のまとまり度」は、芝・草地の細種別(芝地、草地)の緑被地を統合し、これらのまとまり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別(細種別)に集計した「令和7(2025)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編参照)とは異なる。



図I-33: 芝・草地のまとまり度別の変化

凡例

- 1ha以上の芝・草地
- 名古屋市域
- 行政区界

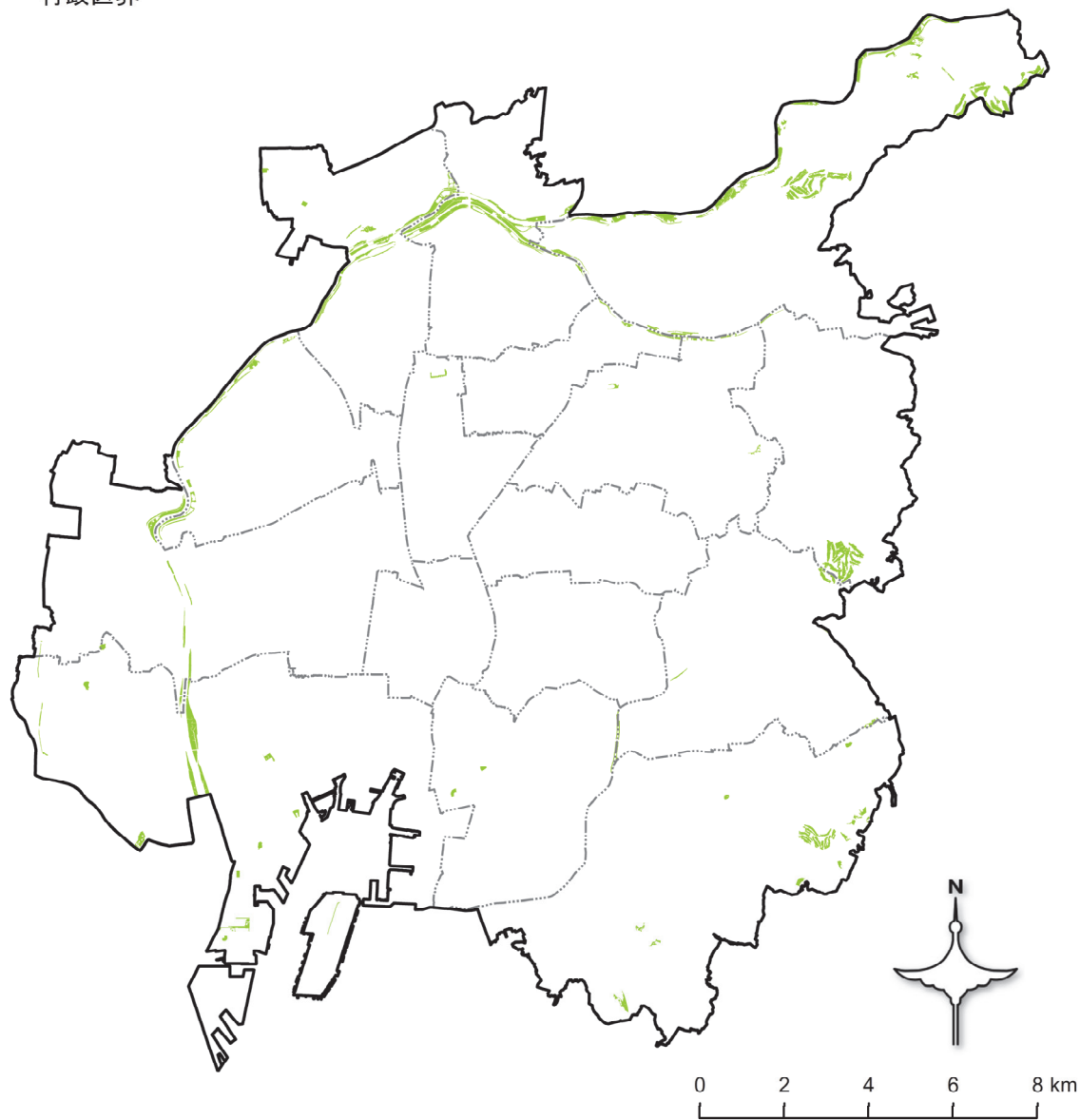


図 I-34 : まとまりのある芝・草地 分布図 (令和 7 年)

注 1) 本図は全緑被地のうち芝・草地のみを抽出・統合し、1ha 以上のまとまりのある芝・草地としてその分布状況を示したものである。

(3) 農地のまとまり度

農地のまとまり度は、樹林地や芝・草地と異なり小規模な農地の箇所数が少なく、比較的大きなまとまりを持つ農地が多い状況であった。(表 I-18 参照)

平成2(1990)年と比較すると、令和7(2025)年の面積・箇所数は全ての階級で大きく減少した。これは、都市農業の衰退や農地転用による宅地化等に起因すると考えられる。特に、1ha以上のまとまりのある農地の変化を見ると、中川区、守山区、緑区の農地が大きく減少しており、これらは土地区画整理や宅地化等の市街地の開発により減少したと考えられた。なお、港区のまとまりのある農地は、多少増減があるものの、他区と比較すれば残存している状況であった。

表 I-18：農地のまとまり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和7(2025)年				H2⇒R7 増減	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100㎡未満	19.57	0.009	3,234	0.142	9.29	0.01	1,459	0.164	▲10.28	▲1,775
100㎡以上 200㎡未満	61.36	0.036	4,132	0.324	29.72	0.05	2,010	0.391	▲31.64	▲2,122
200㎡以上 300㎡未満	73.59	0.069	2,980	0.455	31.55	0.09	1,282	0.535	▲42.04	▲1,698
300㎡以上 400㎡未満	72.68	0.102	2,101	0.547	27.49	0.13	795	0.625	▲45.19	▲1,306
400㎡以上 500㎡未満	70.93	0.134	1,588	0.617	24.56	0.16	549	0.686	▲46.37	▲1,039
500㎡以上 1,000㎡未満	272.92	0.256	3,843	0.786	89.71	0.27	1,274	0.830	▲183.21	▲2,569
1,000㎡以上 3,000㎡未満	567.16	0.510	3,369	0.934	152.30	0.47	913	0.933	▲414.86	▲2,456
3,000㎡以上 5,000㎡未満	260.87	0.627	689	0.964	94.11	0.59	247	0.961	▲166.76	▲442
5,000㎡以上 10,000㎡未満	411.97	0.811	589	0.990	187.78	0.83	268	0.991	▲224.19	▲321
10,000㎡以上 (1ha以上)	420.94	1.000	220	1.000	129.99	1.00	82	1.000	▲290.95	▲138
合計	2,232.00		22,745		776.50		8,879		▲1,455.50	▲13,866

注1) 令和7年の「農地のまとまり度」は、農地の細種別(水田、畑、果樹園、その他農地)の緑被地を統合し、これらのまとまり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別(細種別)に集計した「令和7(2025)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編 参照)とは異なる。

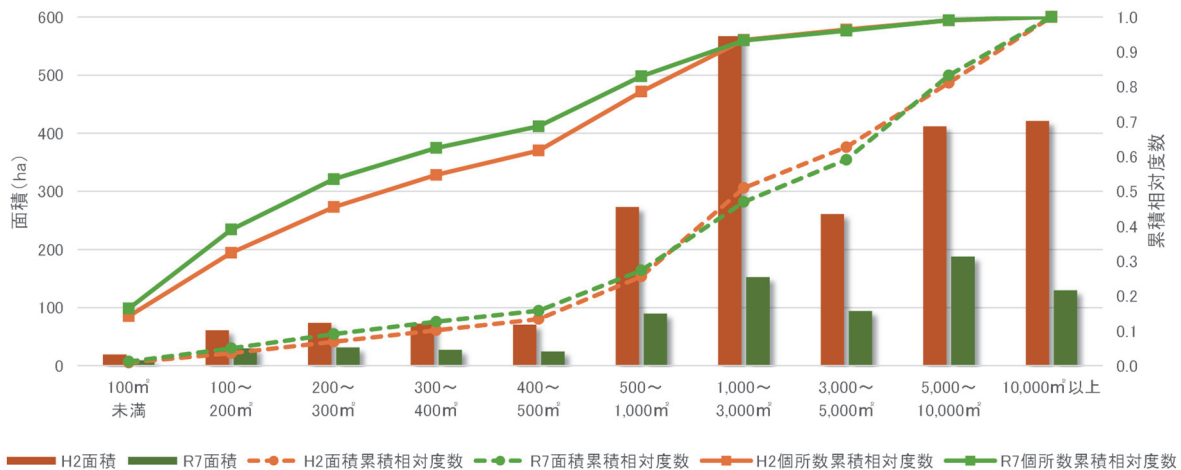


図 I-35：農地のまとまり度別の変化

凡例

- 1ha以上の農地
- 名古屋市域
- 行政区界

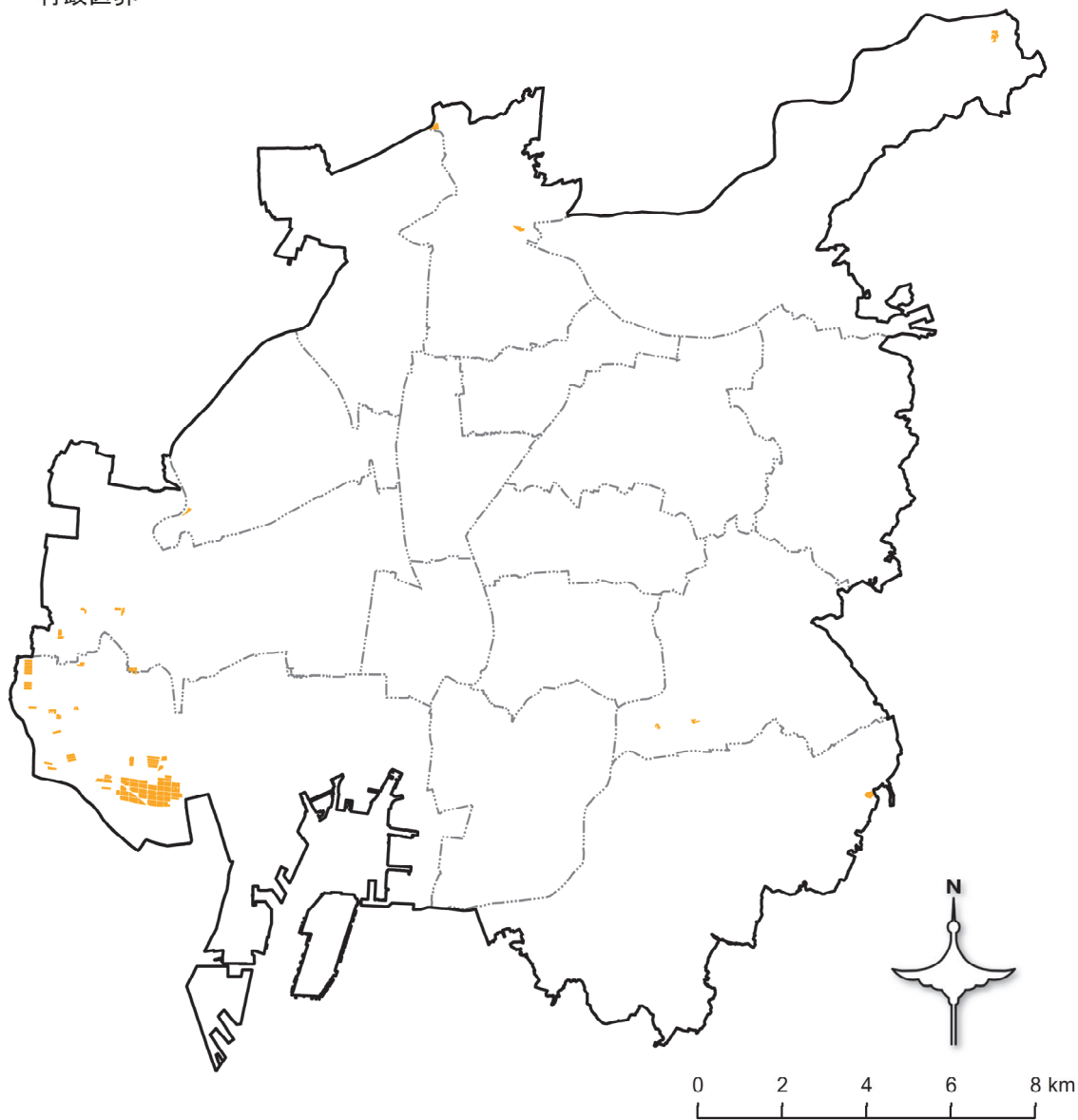


図 I-36 : まとまりのある農地 分布図 (令和 7 年)

注 1) 本図は全緑被地のうち農地のみを抽出・統合し、1ha 以上のまとまりのある農地としてその分布状況を示したものである。

(4) 水面のまとまり度

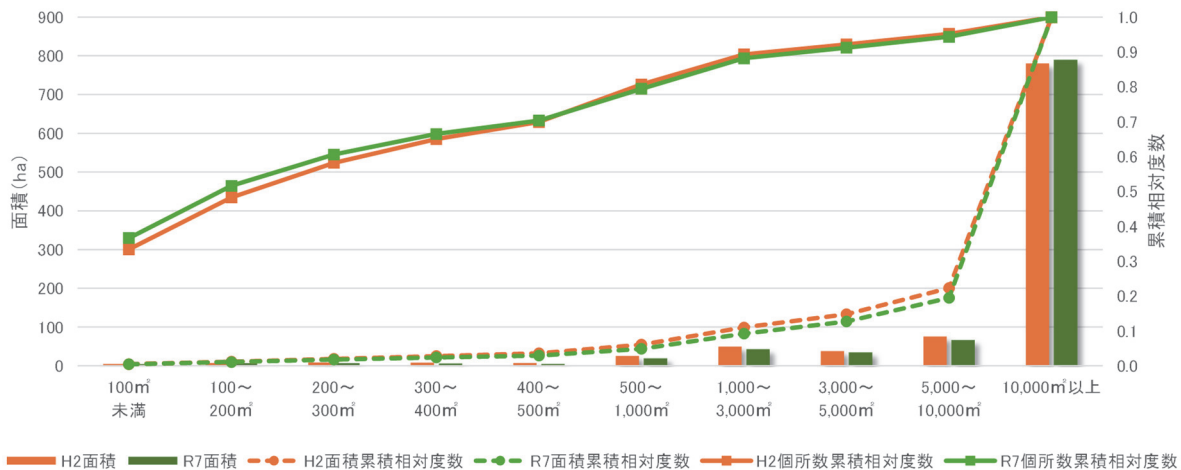
水面については1ha以上のまとまりのあるものが全体面積の約8割を占めた。(表I-19参照)  
これは、河川による連続した水面や東部地域のため池等が大部分を占めているためと考えられた。

1ha以上のまとまりのある水面について、平成2(1990)年からの変化を見ると、ほかの緑被種別ほど減少している箇所は少ないものの、庄内川、矢田川、天白川などで河道の変化によりその増減が見られた。なお、港区8号地や山崎川河口部(南区)のまとまりのある水面の減少は貯木場の埋立てによるものと考えられた。

表I-19：水面のまとまり度別の変化

階級	平成2(1990)年				令和7(2025)年				H2⇒R7 増減	
	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	面積累積 相対度数	箇所数 (箇所)	箇所数累積 相対度数	緑被地面積 (ha)	箇所数 (箇所)
100㎡未満	4.84	0.005	1,159	0.334	4.43	0.00	1,095	0.366	▲0.41	▲64
100㎡以上 200㎡未満	7.24	0.012	517	0.483	6.40	0.01	447	0.516	▲0.84	▲70
200㎡以上 300㎡未満	8.31	0.020	345	0.582	6.70	0.02	268	0.606	▲1.61	▲77
300㎡以上 400㎡未満	7.91	0.028	235	0.650	6.14	0.02	177	0.665	▲1.77	▲58
400㎡以上 500㎡未満	7.48	0.036	169	0.699	5.15	0.03	115	0.703	▲2.33	▲54
500㎡以上 1,000㎡未満	25.40	0.061	374	0.807	19.15	0.05	272	0.795	▲6.25	▲102
1,000㎡以上 3,000㎡未満	49.32	0.110	301	0.893	42.67	0.09	261	0.882	▲6.65	▲40
3,000㎡以上 5,000㎡未満	38.28	0.148	99	0.922	34.17	0.13	91	0.912	▲4.11	▲8
5,000㎡以上 10,000㎡未満	75.62	0.223	105	0.952	66.45	0.19	94	0.944	▲9.17	▲11
10,000㎡以上 (1ha以上)	780.64	1.000	166	1.000	790.08	1.00	168	1.000	9.44	2
合計	1,005.04		3,470		981.35		2,988		▲23.69	▲482

注1) 令和7年の「水面のまとまり度」は、水面の細種別(河川、ため池)の緑被地を統合し、これらのまとまり度合いに応じて集計したものであり、緑被種別(細種別)に集計した「令和7(2025)年度緑被調査『緑被種別まとまり度(面積及び箇所数)』」(参考資料編参照)とは異なる。



図I-37：水面のまとまり度別の変化

凡例

- 1ha以上の水面
- 名古屋地域
- 行政区界



図 I-38 : まとまりのある水面 分布図 (令和7年)

注1) 本図は全緑被地のうち水面のみを抽出・統合し、1ha以上のまとまりのある水面としてその分布状況を示したものである。

### 3-3. 土地利用と緑被率

本節においては、市域を公有地と私有地に区分して土地利用の変化を把握し、それを踏まえ、土地利用別の緑被率の推移を把握して、土地利用と緑被率との関係を概観した。

#### 3-3-1. 土地利用別の緑被率

##### (1) 土地利用の変化

土地利用計量調査の結果から、平成2(1990)年から令和7(2025)年の35年間の土地利用の変化は表I-20及び図I-39のとおりであった。

土地所有区分<sup>1)</sup>による公有地では、都市公園、道路、その他の公共施設は増加しており、その他のオープンスペース、河川は減少した。これらは主として、土地区画整理事業等に伴う都市インフラの整備や、水面の埋立て、西部地域における水路の減少等によるものと考えられた。

一方、私有地では、未利用地の減少が特に顕著であるとともに、住居系の増加も著しく、これらも土地区画整理事業等による農地や山林、空地の宅地化によるものと考えられた。

表 I-20 : 土地利用の変化

土地所有区分	土地利用区分	平成2(1990)年		令和7(2025)年		H2⇒R7 増減	
		面積 (ha)	構成比率 (%)	面積 (ha)	構成比率 (%)	面積 (ha)	構成比率 (%)
公有地	公園	1,134.79	3.5	1,532.91	4.7	398.12	1.2
	緑地等	696.69	2.1	395.53	1.2	▲301.16	▲0.9
	都市公園						
	その他のオープンスペース						
	道路	5,721.20	17.5	6,441.89	19.7	720.69	2.2
公有地	河川等	1,901.56	5.8	1,608.64	4.9	▲292.92	▲0.9
	その他の公共施設	2,182.76	6.7	2,662.77	8.2	480.01	1.5
	小計	11,637.00	35.7	12,641.75	38.7	1,004.75	3.0
私有地	住居系	7,741.73	23.7	10,357.98	31.7	2,616.25	8.0
	商業系	1,488.30	4.6	2,564.59	7.9	1,076.29	3.3
	工業系	3,188.18	9.8	2,682.72	8.2	▲505.46	▲1.6
	未利用地	8,581.77	26.3	4,398.97	13.5	▲4,182.80	▲12.8
	小計	20,999.98	64.3	20,004.25	61.3	▲995.73	▲3.0
	合計	32,636.98	100.0	32,646.00	100.0	9.02	0.0

注1) H2の数値は、「平成2(1990)年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」を基に当時の定義に合わせて再集計したものであり、「平成2(1990)年度緑被調査『公有・私有地別緑被地面積及び緑被率』」の数値とは異なる。

注2) 「構成比率」は、面積の合計値に対する各項目の面積の比率を示す。

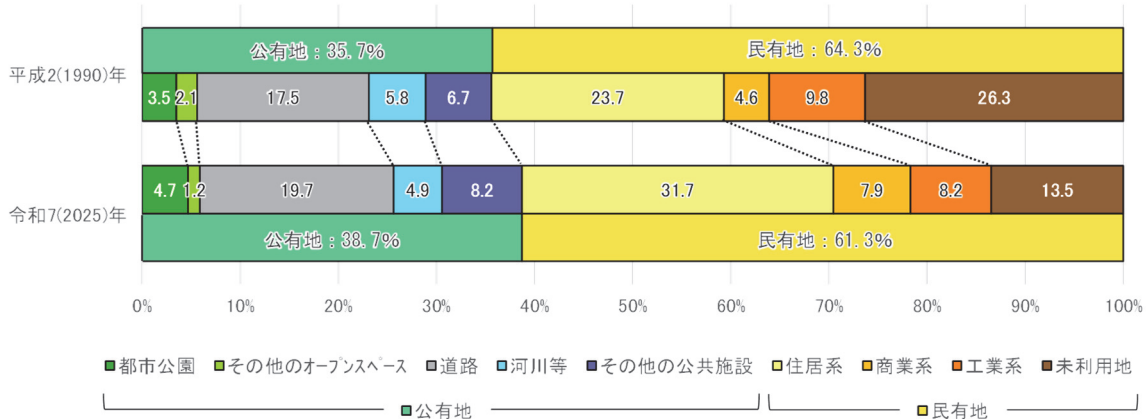


図 I-39 : 土地利用(構成比率)の変化

<sup>1)</sup> 本調査で用いる土地所有区分「公有地」、「私有地」は土地利用区分に応じた便宜的な区分名称であり、実際の土地の所有状況や管理形態等に基づくものでないため、一般的な「公有地」、「私有地」とは異なるが、指標の連続性を考慮して過年度調査の表記に準じたものである。

凡例

土地利用区分

- 都市公園
- その他のオープンスペース
- 道路
- 河川等
- その他の公共施設
- 住居系
- 商業系
- 工業系
- 未利用地
- 名古屋市域
- 行政区界

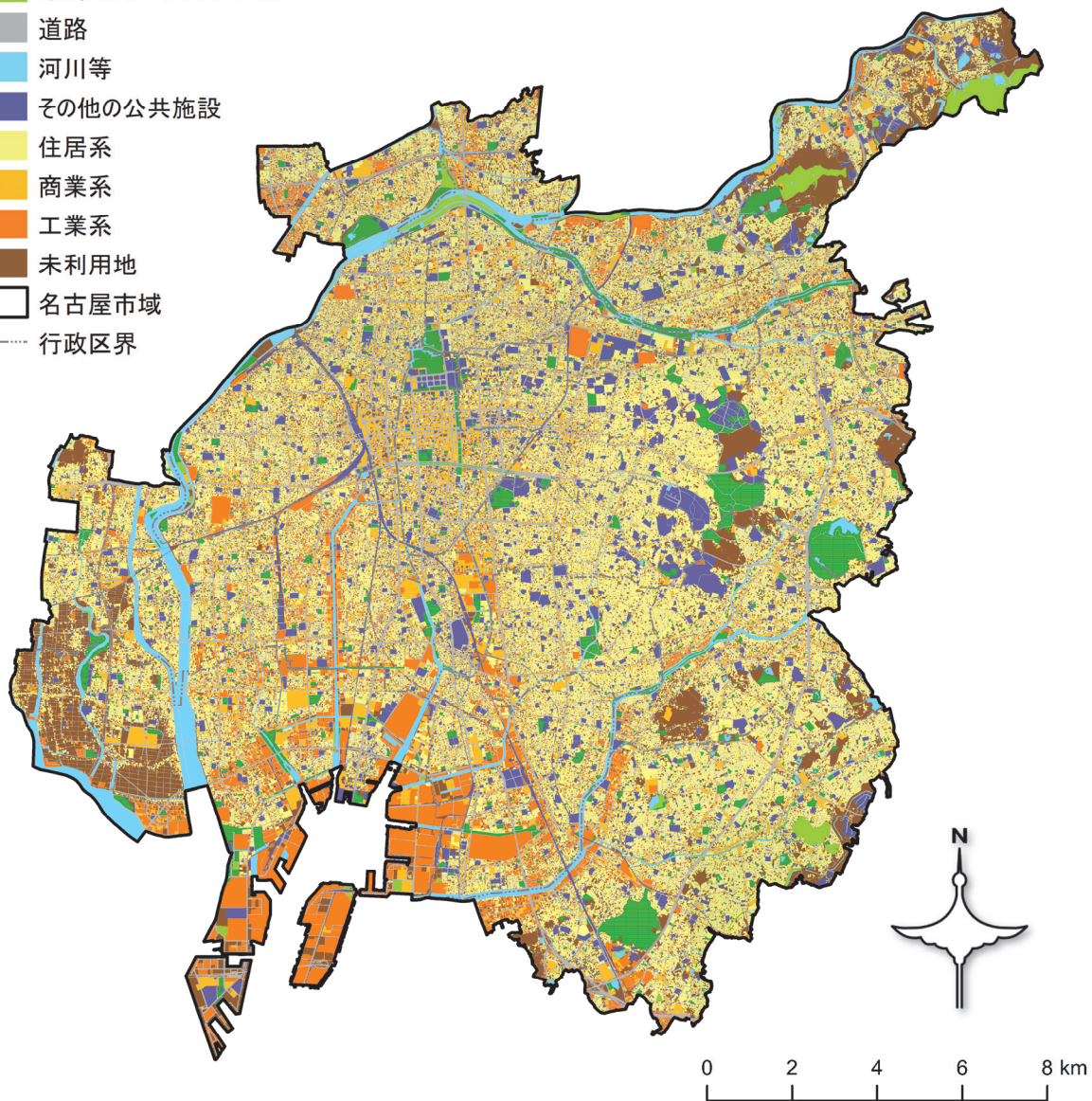


図 I-40 : 土地利用現況図 (令和 4 年)

注 1) 本図は、R4 土地利用計量調査ファイルを基に、本調査の土地利用区分で表示したものである。

(2) 土地利用別の緑被率の変化

① 土地利用別緑被率の変化

土地利用別の緑被地面積及び緑被率の変化は表 I-21 のとおりであった。

公有地においては、都市公園が緑被地面積及び緑被率ともに増加しており、緑化の進展が考えられた一方、道路は、緑被地面積は増加しているものの、緑被率は微減しており、これは土地利用面積が 1.13 倍に増加した（道路整備が進んだ）影響と考えられた。

一方、私有地では、商業系は大規模商業施設の緑化等により、緑被率が増加したが、その他の土地利用では緑被率が低下した。特に、未利用地については、農地、山林等の面的な整備による影響が大きいと考えられ、住居系については、緑被率が減少しているだけでなく、土地利用面積が増加しているにもかかわらず、緑被地面積が減少しており、緑化に向けてより一層の施策の推進が必要と考えられた。

表 I-21：土地利用別緑被地面積及び緑被率の変化

土地所有区分	土地利用区分	平成 2(1990)年			令和 7(2025)年			H2⇒R7 増減		
		土地利用面積 (ha)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	土地利用面積 (ha)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	土地利用面積 (ha)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
公有地	都市公園	1,134.79	694.20	61.2	1,532.91	963.50	62.9	398.12	269.30	1.7
	その他のオープンスペース	696.69	460.17	66.1	395.53	299.80	75.8	▲301.16	▲160.37	9.7
	道路	5,721.20	356.05	6.2	6,441.89	337.46	5.2	720.69	▲18.59	▲1.0
	河川等	1,901.56	1,500.15	78.9	1,608.64	1,393.72	86.6	▲292.92	▲106.43	7.7
	その他の公共施設	2,182.76	459.16	21	2,662.77	448.47	16.8	480.01	▲10.69	▲4.2
	小計	11,637.00	3,469.73	29.8	12,641.75	3,442.94	27.2	1,004.75	▲26.79	▲2.6
私有地	住居系	7,741.73	1,208.41	15.6	10,357.98	966.53	9.3	2,616.25	▲241.88	▲6.3
	商業系	1,488.30	52.24	3.5	2,564.59	106.40	4.1	1,076.29	54.16	0.6
	工業系	3,188.18	235.57	7.4	2,682.72	151.81	5.7	▲505.46	▲83.76	▲1.7
	未利用地	8,581.77	4,764.53	55.5	4,398.97	1,999.68	45.5	▲4,182.80	▲2,764.85	▲10.0
	小計	20,999.98	6,260.75	29.8	20,004.25	3,224.43	16.1	▲995.73	▲3,036.32	▲13.7
	合計	32,636.98	9,730.48	29.8	32,646.00	6,667.37	20.4	9.02	▲3,063.11	▲9.4

注1) H2の数値は、「平成2(1990)年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」を基に当時の定義に合わせて再集計したものであり、「平成2(1990)年度緑被調査『公有・私有地別緑被地面積及び緑被率』」の数値とは異なる。また、R7の数値は、「令和7(2025)年度緑被調査『公有・私有地別緑被地面積及び緑被率』」に基づく。(参考資料編 参照)

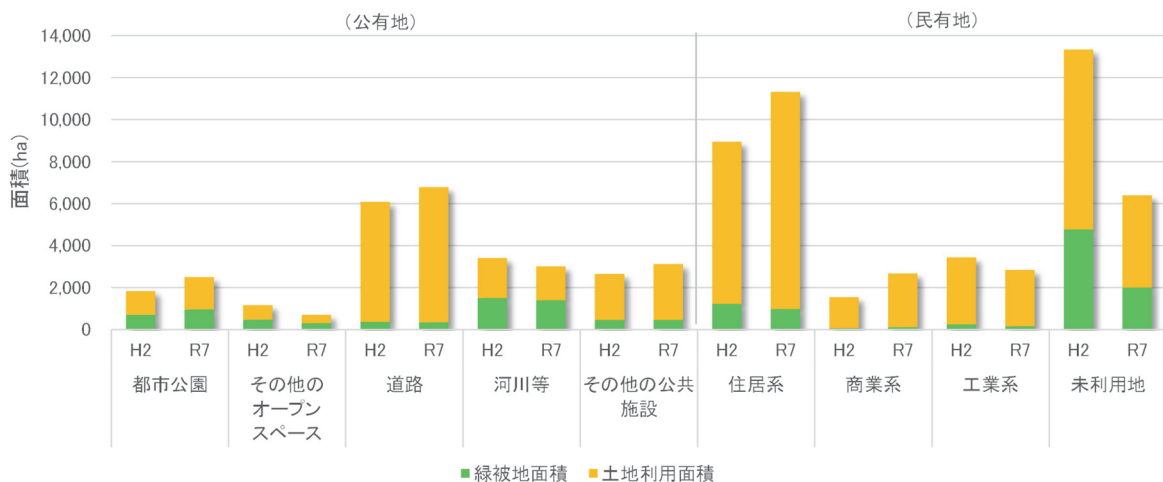


図 I-41：土地利用及び緑被地面積の変化

凡例

名古屋市域

行政区界

土地利用区分

都市公園

その他のオープンスペース

道路

河川等

その他の公共施設

住居系

商業系

工業系

未利用地

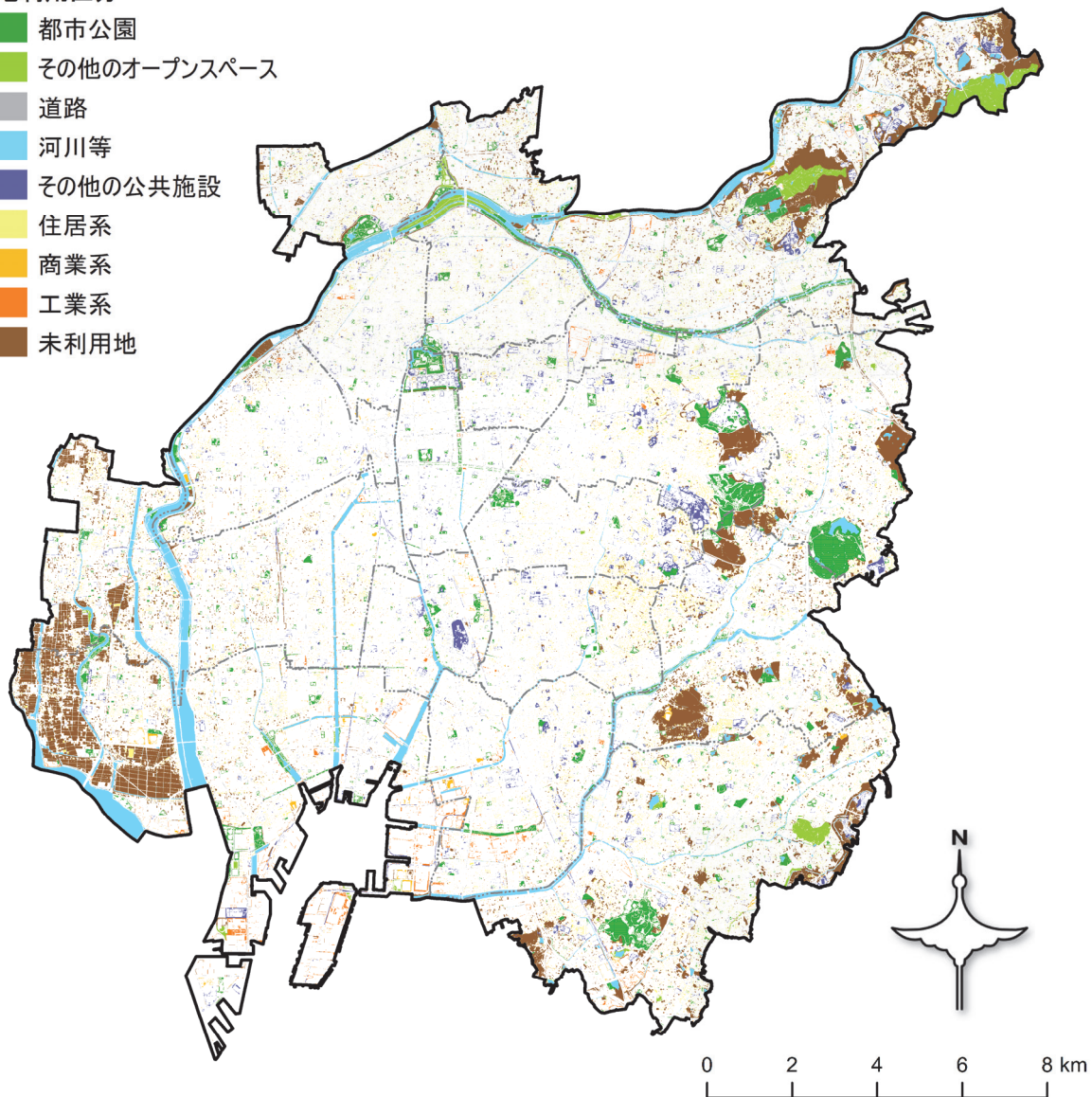


図 I-42 : 土地利用区分別緑被地図 (令和 7 年)

注 1) 本図は、令和 7 年の緑被地データベースを基に土地利用区分別に彩色したものである。

② 道路の緑被率

道路については前述のとおり、土地利用面積が1.13倍に増加していることから、道路整備の進展が示唆され、緑被率が1.0ポイント減少している状況であった。この状況の詳細を確認するため、道路の緑被地について細種別に変化状況を整理した。(表I-22参照)

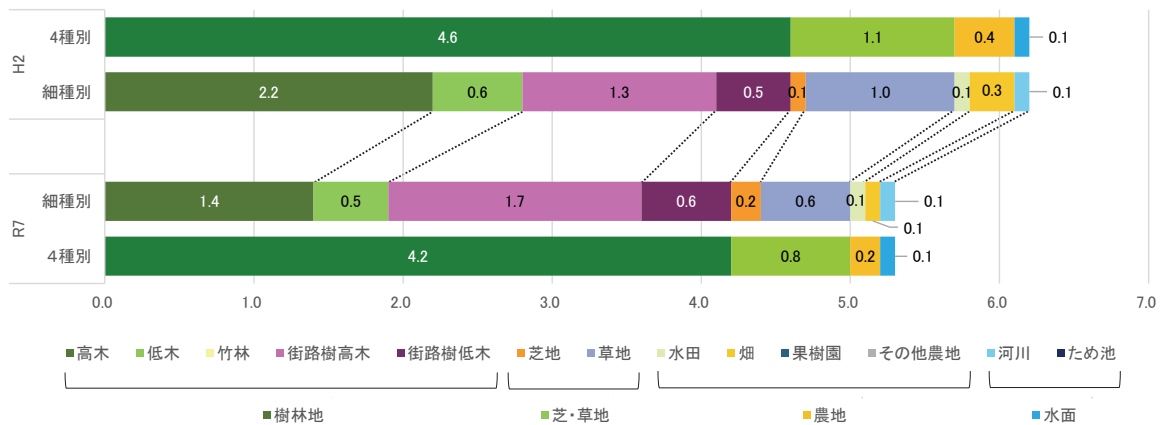
その結果、街路樹高木は33.16ha増(0.4ポイント増)、街路樹低木は14.74ha増(0.1ポイント増)と、道路緑化の進展が考えられた。その一方、高木は37.34ha減(0.8ポイント減)となっており、高木は主に道路に面した民有地側の樹木の張り出しが影響していると考えられ、民有地における緑被の減少に準じて減少したものと考えられた。

なお、樹林地以外の緑被種別のうち、草地の減少(19.26ha減、0.4ポイント減)、畑の減少(8.87ha減、0.2ポイント減)、芝地の増加(4.69ha増、0.1ポイント増)が全体面積に対して比較的影響を及ぼしていたが、これらについて分布状況を確認したところ、草地及び芝地は河川沿いの道路(堤防道路)際の緑被地が、畑は農地際の緑被地が主に抽出されており、オーバーレイ解析に伴う誤差によるものと考えられた。

表I-22：道路の緑被地面積及び緑被率の変化

緑被種別		平成2(1990)年		令和7(2025)年		H2⇒R7増減	
4種別	細種別	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
樹林地	高木	127.65	2.2	90.31	1.4	▲37.34	▲0.8
	低木	32.13	0.6	30.56	0.5	▲1.57	▲0.1
	竹林	1.81	0.0	1.21	0.0	▲0.60	0.0
	街路樹高木	73.20	1.3	106.36	1.7	33.16	0.4
	街路樹低木	26.97	0.5	41.71	0.6	14.74	0.1
	小計	261.75	4.6	270.15	4.2	8.40	▲0.4
芝・草地	芝地	8.38	0.1	13.07	0.2	4.69	0.1
	草地	56.31	1.0	37.05	0.6	▲19.26	▲0.4
	小計	64.69	1.1	50.12	0.8	▲14.57	▲0.3
農地	水田	7.42	0.1	5.80	0.1	▲1.62	0.0
	畑	13.16	0.2	4.29	0.1	▲8.87	▲0.2
	果樹園	1.66	0.0	0.50	0.0	▲1.16	0.0
	その他農地	0.95	0.0	0.19	0.0	▲0.76	0.0
	小計	23.18	0.4	10.78	0.2	▲12.40	▲0.2
水面	河川	6.21	0.1	6.27	0.1	0.06	0.0
	ため池	0.22	0.0	0.13	0.0	▲0.09	0.0
	小計	6.43	0.1	6.40	0.1	▲0.03	0.0
合計		356.05	6.2	337.46	5.2	▲18.59	▲1.0

注1) 本表掲載の数値は、「平成2(1990)年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」及び「令和7(2025)年度緑被調査『土地利用別緑被地面積及び緑被率』」の「道路」に基づく。(参考資料編参照)



図I-43：道路の緑被率の変化

### 3-3-2. 用途地域別の緑被率

用途地域<sup>1</sup>別の緑被地面積、緑被率は表 I-23、図 I-44 に示すとおりであり、市街化区域の緑被率は 16.9%、市街化調整区域の緑被率は 55.4%であった。

市街化区域と市街化調整区域を比較すると、樹林地以外の種別で市街化調整区域の緑被率が高い状況であったが、その内訳を見ると、芝・草地、農地、水面では市街化調整区域の緑被率が 12～14 ポイント前後の差を付けて圧倒的に大きくなっている一方で、樹林地については 0.9 ポイント程度の差で、それほどの開きはなかった。

また、用途地域別では、住居系用途地域での緑被率が比較的高く、商業系用途地域での緑被率が低い状況であり、特に、大規模な公園緑地を含む第二種住居地域（緑被率：33.4%）や、主に東部地域等の丘陵地や庄内川以西に指定されている第一種低層住居専用地域（同：26.4%）の緑被率が高い状況であり、都心域や市街地において指定されている商業地域（同：6.4%）や近隣商業地域（同：6.2%）は緑被率が低い状況であった。

表 I-23：用途地域別の緑被地面積及び緑被率

用途地域	略称	補正面積 (ha)	樹林地		芝・草地		農地		水面		合計	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
第一種低層住居専用地域	1低専	4,838.61	869.83	18.0	240.78	5.0	114.48	2.4	52.67	1.1	1,277.75	26.4
第二種低層住居専用地域	2低専	88.43	5.44	6.2	2.36	2.7	1.36	1.5	0.16	0.2	9.32	10.5
第一種中高層住居専用地域	1中高	995.35	109.01	11.0	50.05	5.0	13.27	1.3	6.27	0.6	178.59	17.9
第二種中高層住居専用地域	2中高	1,912.66	149.87	7.8	51.17	2.7	33.50	1.8	5.79	0.3	240.33	12.6
第一種住居地域	1住居	7,067.30	649.37	9.2	255.80	3.6	92.39	1.3	112.16	1.6	1,109.72	15.7
第二種住居地域	2住居	3,086.34	733.64	23.8	204.91	6.6	21.95	0.7	69.81	2.3	1,030.31	33.4
準住居地域	準住居	332.02	21.44	6.5	6.73	2.0	3.97	1.2	1.16	0.3	33.30	10.0
近隣商業地域	近商	2,508.92	106.49	4.2	23.48	0.9	4.16	0.2	20.87	0.8	155.00	6.2
商業地域	商業	2,218.18	108.12	4.9	22.28	1.0	0.18	0.0	11.54	0.5	142.13	6.4
準工業地域	準工	3,466.77	160.14	4.6	123.57	3.6	31.50	0.9	86.78	2.5	401.98	11.6
工業地域	工業	2,507.76	110.72	4.4	95.23	3.8	8.95	0.4	135.74	5.4	350.64	14.0
工業専用地域	工専	635.02	29.53	4.7	29.72	4.7	0.16	0.0	23.70	3.7	83.11	13.1
市街化区域	市街	29,657.33	3,053.59	10.3	1,106.09	3.7	325.87	1.1	526.64	1.8	5,012.18	16.9
市街化調整区域	市調	2,988.67	280.89	9.4	469.36	15.7	450.63	15.1	454.72	15.2	1,655.61	55.4
名古屋市域	市域	32,646.00	3,334.48	10.2	1,575.45	4.8	776.50	2.4	981.36	3.0	6,667.79	20.4

注1) 本表掲載の数値は、「令和7(2025)年度緑被調査『用途地域別緑被地面積及び緑被率』」に基づく。(参考資料編 参照)









図 I-44：用途地域別の緑被率

<sup>1</sup> 用途地域 解説(出典:国交省HP「土地の使い方と建物の建て方のルールの話」([https://www.mlit.go.jp/crd/city/plan/03\\_mati/04/](https://www.mlit.go.jp/crd/city/plan/03_mati/04/)))

- ・第一種低層住居専用地域：低層住宅のための地域。小規模な店舗や事務所を兼ねた住宅や、小中学校などが建てられる。
- ・第二種低層住居専用地域：主に低層住宅のための地域。小中学校などのほか、150㎡までの一定の店舗などが建てられる。
- ・第一種中高層住居専用地域：中高層住宅のための地域。病院、大学、500㎡までの一定の店舗などが建てられる。
- ・第二種中高層住居専用地域：主に中高層住宅のための地域。病院、大学などのほか、1,500㎡までの一定の店舗や事務所などが建てられる。
- ・第一種住居地域：住居の環境を守るための地域。3,000㎡までの店舗、事務所、ホテルなどは建てられる。
- ・第二種住居地域：主に住居の環境を守るための地域。店舗、事務所、ホテル、カラオケボックスなどは建てられる。
- ・準住居地域：道路の沿道において、自動車関連施設などの立地と、これと調和した住居の環境を保護するための地域。
- ・近隣商業地域：周辺の住民が日用品の買物などをするための地域。住宅や店舗のほか小規模の工場も建てられる。
- ・商業地域：銀行、映画館、飲食店、百貨店などが集まる地域。住宅や小規模の工場も建てられる。
- ・準工業地域：主に軽工業の工場やサービス施設等が立地する地域。危険性、環境悪化が大きい工場のほかは、ほとんど建てられる。
- ・工業地域：どんな工場でも建てられる地域。住宅や店舗は建てられるが、学校、病院、ホテルなどは建てられない。
- ・工業専用地域：工場のための地域。どんな工場でも建てられるが、住宅、店舗、学校、病院、ホテルなどは建てられない。

凡例

緑被地(4種別)

-  樹林地
-  芝・草地
-  農地
-  水面
-  市街化区域
-  市街化調整区域

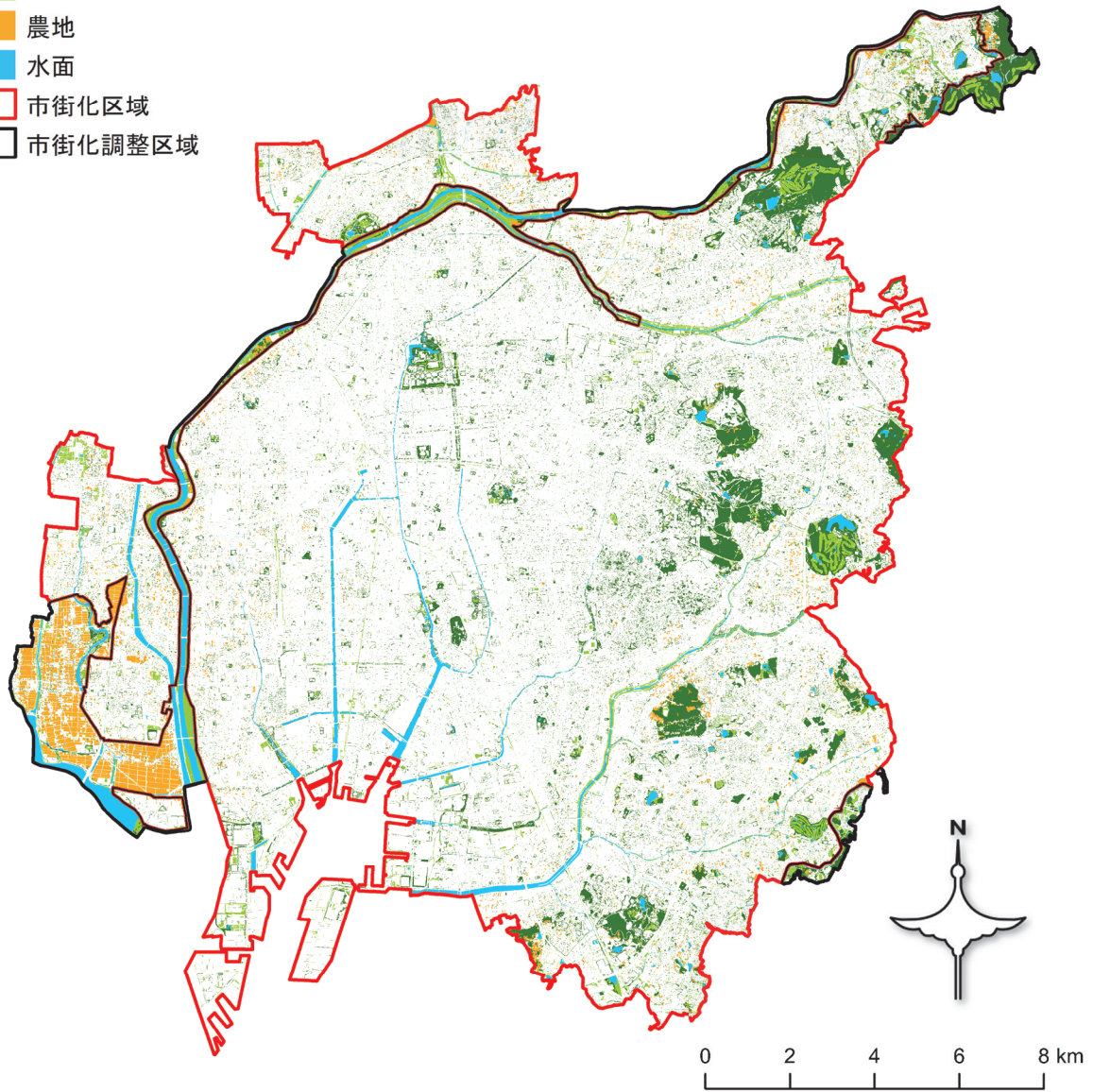


図 I-45 : 現況緑被地図【4種別】+市街化区域・市街化調整区域 重ね図

### 3-3-3. 緑化地域指定状況と用途地域別の宅地内緑被率

緑化地域における緑化率の最低限度の指定状況と、宅地における緑被率との関係を把握するため、土地利用区分による「住居系」、「商業系」、「工業系」を宅地と定義し、これらの土地利用と用途地域、そして緑被地データベースをオーバーレイ解析することにより、宅地内緑被率を算定した。

その結果、表 I-24、図 I-46 に示すように低建蔽率の区域では、緑化率の最低限度以上となる緑被率の区域も見られたが、全体的には緑化率の最低限度を下回る結果となっており、今後とも緑化の推進が必要と考えられた。

また、平成 22(2010)年との比較を見ると、全体的に緑被率は減少しており、特に、第一種低層住居専用地域（建蔽率：30%）では、7.6ポイント減と特に減少幅が大きい状況であった。

なお、緑化率の最低限度と実際の緑被率の差が5ポイント以上で区域面積が500ha以上の区域を列举すると、第一種低層住居専用地域（同：40%、50%）、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域が挙げられ、これらの地域での緑化推進が特に必要と考えられた。

表 I-24：用途地域別の宅地内緑被率

用途地域	略称	建蔽率の最高限度(%)	緑化率の最低限度(%)	平成 22(2010)年			令和 7(2025)年			H22⇒R7 増減		
				区域面積 (ha)	緑被地 面積 (ha)	緑被率 (%)	区域面積 (ha)	緑被地 面積 (ha)	緑被率 (%)	区域面積 (ha)	緑被地 面積 (ha)	緑被率 (%)
第一種低層住居専用地域	1 低専	30	20	495.42	153.04	30.9	334.27	77.92	23.3	▲161.15	▲75.12	▲7.6
		40	20	994.47	155.10	15.6	1,284.49	160.70	12.5	290.02	5.60	▲3.1
		50	20	775.05	106.56	13.7	873.00	84.33	9.7	97.95	▲22.23	▲4.0
第二種低層住居専用地域	2 低専	30	20	3.12	0.81	26.0	3.93	0.85	21.6	0.81	0.04	▲4.4
		40	20	24.42	2.66	10.9	30.53	2.24	7.3	6.11	▲0.42	▲3.6
		50	20	8.88	0.79	8.9	11.17	0.64	5.7	2.29	▲0.15	▲3.2
第一種中高層住居専用地域	1 中高	50	20	140.20	25.48	18.2	144.62	23.98	16.6	4.42	▲1.50	▲1.6
		60	15	378.16	54.78	14.5	397.53	46.62	11.7	19.37	▲8.16	▲2.8
第二種中高層住居専用地域	2 中高	60	15	1,062.36	120.27	11.3	1,140.17	103.94	9.1	77.81	▲16.33	▲2.2
第一種住居地域	1 住居	60	15	3,521.72	362.82	10.3	3,694.99	306.97	8.3	173.27	▲55.85	▲2.0
第二種住居地域	2 住居	60	15	805.43	81.17	10.1	912.80	67.07	7.3	107.37	▲14.10	▲2.8
準住居地域	準住居	60	15	108.84	9.46	8.7	144.66	8.78	6.1	35.82	▲0.68	▲2.6
近隣商業地域	近商	80	10	1,199.60	62.50	5.2	1,264.41	49.76	3.9	64.81	▲12.74	▲1.3
商業地域	商業	80	10	901.24	26.15	2.9	935.77	24.78	2.6	34.53	▲1.37	▲0.3
準工業地域	準工	60	15	1,762.73	107.38	6.1	1,913.46	96.16	5.0	150.73	▲11.22	▲1.1
工業地域	工業	60	15	1,418.98	100.65	7.1	1,513.35	97.08	6.4	94.37	▲3.57	▲0.7
工業専用地域	工専	60	15	474.86	48.60	10.2	438.06	36.47	8.3	▲36.80	▲12.13	▲1.9
合計				14,075.48	1,418.22	10.1	15,037.19	1,188.27	7.9	961.71	▲229.95	▲2.2

注1) ここで言う「宅地」とは、過年度の整理を踏襲して住居系、商業系及び工業系の土地利用の区域と定義している。そのため、「工業専用地域」には住宅を建設することはできないが、便宜上、上記の土地利用があれば「宅地」として取り扱っている。

注2) 「建蔽率の最高限度(%)」及び「緑化率の最低限度(%)」は「緑化率の最低限度一覧表」に基づく。

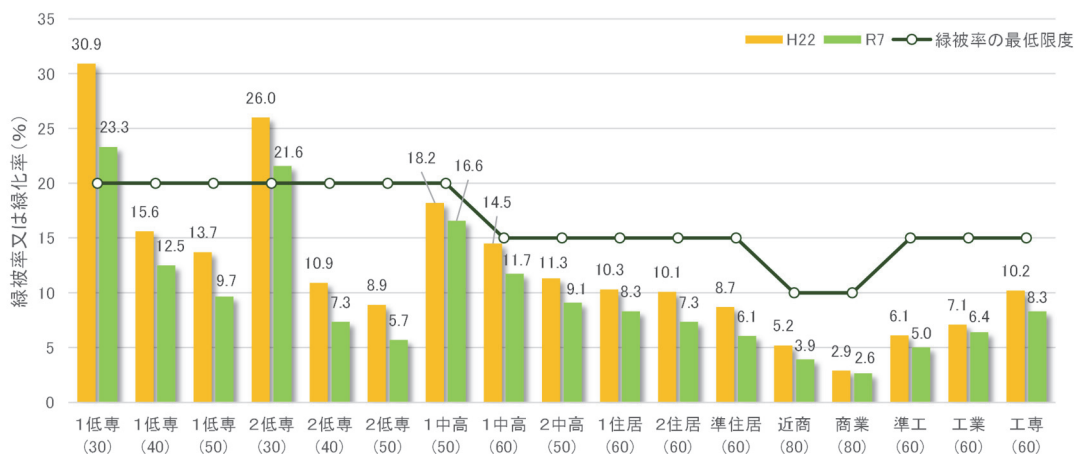


図 I-46：宅地内緑被率の変化と緑化率の最低限度（用途地域別）



3-4. 地域別の緑被率

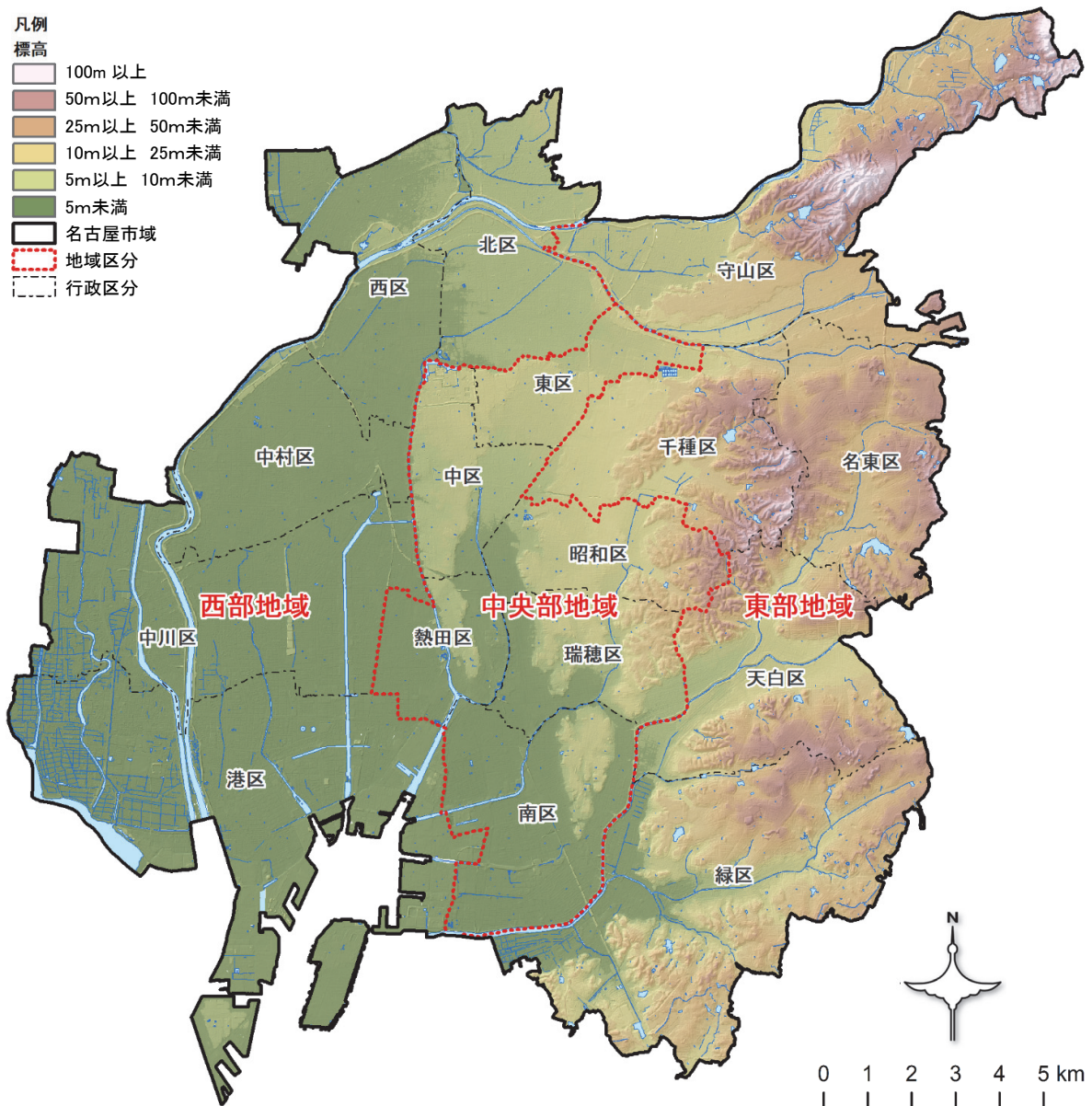
3-4-1. 地域区分別・行政区別の緑被率

(1) 地域区分と緑の特徴

地域的な緑の特性を捉えるため、行政区を表I-25、図I-47のとおり3つの地域に区分し、緑被率の現況と推移を把握した。

表I-25：地域区分と緑の特徴

地域区分	行政区	地形の特徴	緑の特徴
西部地域	北区、西区、中村区、中川区、港区	沖積平野	河川、農地の緑
中央部地域	東区、中区、昭和区、瑞穂区、熱田区、南区	洪積台地	歴史的な緑(熱田神宮、名古屋城等)
東部地域	千種区、守山区、緑区、名東区、天白区	丘陵地	丘陵地の大規模な緑(雑木林、ため池等)



図I-47：地域区分図(標高地形陰影段彩図)

(2) 地域区分別・行政区別の緑被率の変化

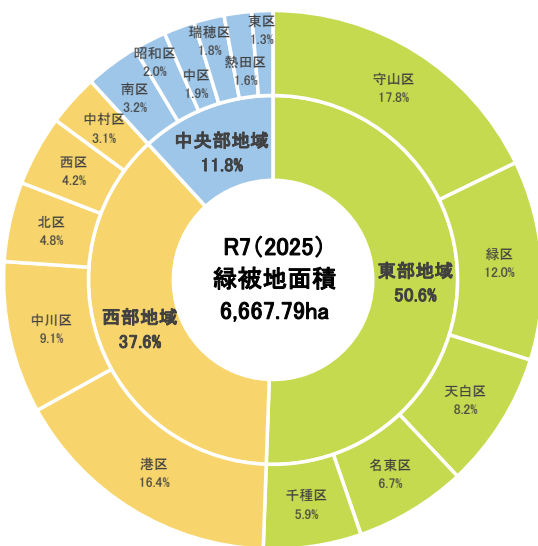
令和7(2025)年の地域別の緑被率は、東部地域が25.7%で最も高く、次いで西部地域が19.4%、中央部地域は11.9%であった。平成2(1990)年と比較すると3地域とも減少しており、特に、大きな緑被地面積を有する東部地域では1,636.02ha減少(12.5ポイント減少)した。なお、現状の緑被地面積の構成比率を見ると、東部地域の緑被地が最も高く50.6%を占めていた。

行政区別の緑被率では、守山区(35.0%)、天白区(25.3%)、港区(23.9%)が高く、東区(11.0%)や瑞穂区(10.8%)をはじめとする中央部地域の区が低い状況であった。

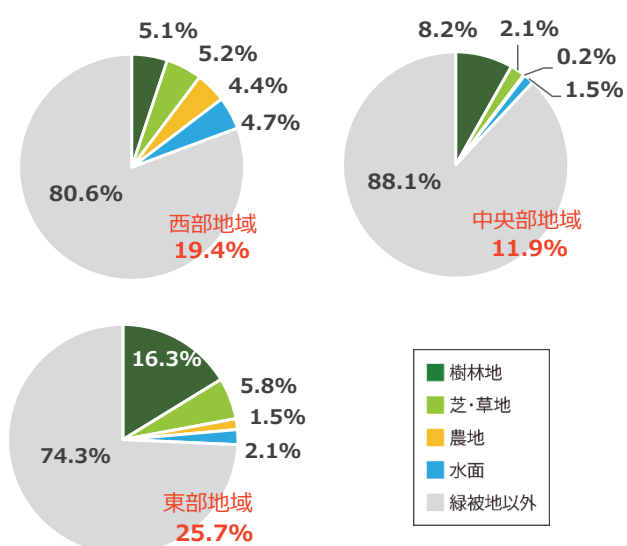
表I-26：地域区分別・行政区別の緑被地の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和7(2025)年			H2⇒R7増減	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	構成比率(%)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	445.79	25.4	318.84	4.8	18.2	▲126.95	▲7.2
	西区	363.83	20.3	281.29	4.2	15.7	▲82.54	▲4.6
	中村区	318.59	19.5	206.62	3.1	12.7	▲111.97	▲6.8
	中川区	1,043.91	32.6	609.11	9.1	19.0	▲434.80	▲13.6
	港区	1,470.66	32.3	1,091.53	16.4	23.9	▲379.13	▲8.4
	小計	3,642.78	28.2	2,507.39	37.6	19.4	▲1,135.39	▲8.8
中央部地域	東区	116.21	15.1	84.51	1.3	11.0	▲31.70	▲4.1
	中区	124.14	13.3	123.64	1.9	13.2	▲0.50	▲0.1
	昭和区	203.05	18.6	133.03	2.0	12.2	▲70.02	▲6.4
	瑞穂区	209.51	18.7	121.24	1.8	10.8	▲88.27	▲7.9
	熱田区	115.53	14.2	109.92	1.6	13.4	▲5.61	▲0.8
	南区	310.40	16.8	215.21	3.2	11.7	▲95.19	▲5.1
	小計	1,078.84	16.4	787.55	11.8	11.9	▲291.29	▲4.5
東部地域	千種区	496.28	27.2	392.01	5.9	21.6	▲104.27	▲5.6
	守山区	1,711.15	50.3	1,189.42	17.8	35.0	▲521.73	▲15.3
	緑区	1,339.21	35.4	798.04	12.0	21.1	▲541.17	▲14.3
	名東区	639.22	32.8	446.84	6.7	23.0	▲192.38	▲9.8
	天白区	823.01	38.2	546.54	8.2	25.3	▲276.47	▲12.9
	小計	5,008.87	38.2	3,372.85	50.6	25.7	▲1,636.02	▲12.5
	合計	9,730.50	29.8	6,667.79	100.0	20.4	▲3,062.71	▲9.4

注1) 本表掲載の数値は、「平成2(1990)年度緑被調査『行政区別緑被地面積及び緑被率』及び「令和7(2025)年度緑被調査『行政区別緑被地面積及び緑被率』」に基づく(参考資料編参照)。なお、地域別の値はこれらを基に集計したものである。  
 注2) 「構成比率」は、緑被地面積の合計値に対する各項目の面積の比率を示す。また、各比率は小数第2位を四捨五入して集計しているため、その合計値は必ずしも100.0にはならない。



図I-48：地域区分別・行政区別の緑被地面積の構成比率(令和7年)



図I-49：各地域区分の緑被率(令和7年)

凡例

R7行政区別緑被率(%)

- 30.0以上 35.0未満
- 25.0以上 30.0未満
- 20.0以上 25.0未満
- 15.0以上 20.0未満
- 10.0以上 15.0未満
- 名古屋市域
- - - 地域区分
- - - 行政区界

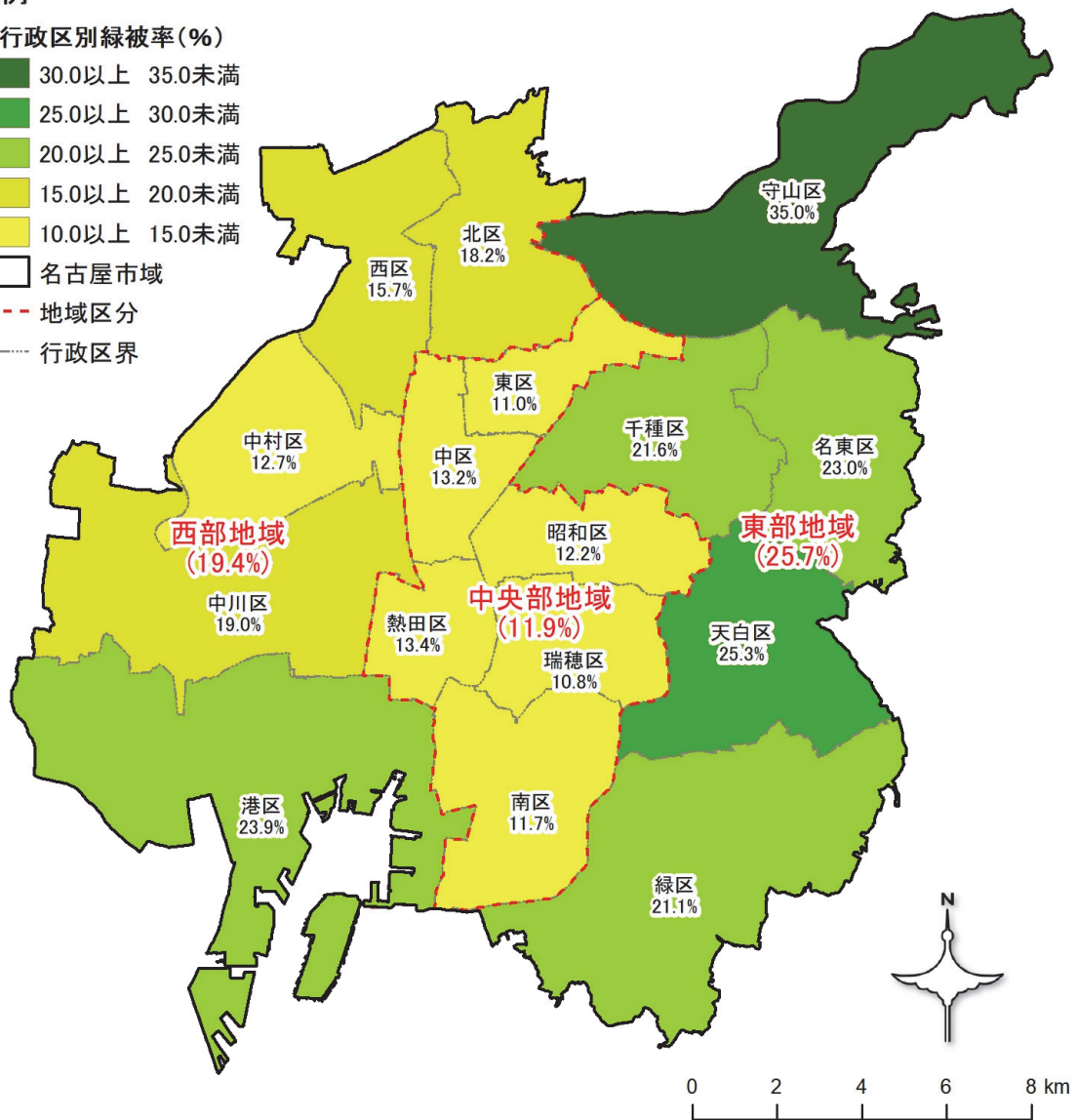


図 I-50 : 地域区分別・行政区別の緑被率 (令和7年)

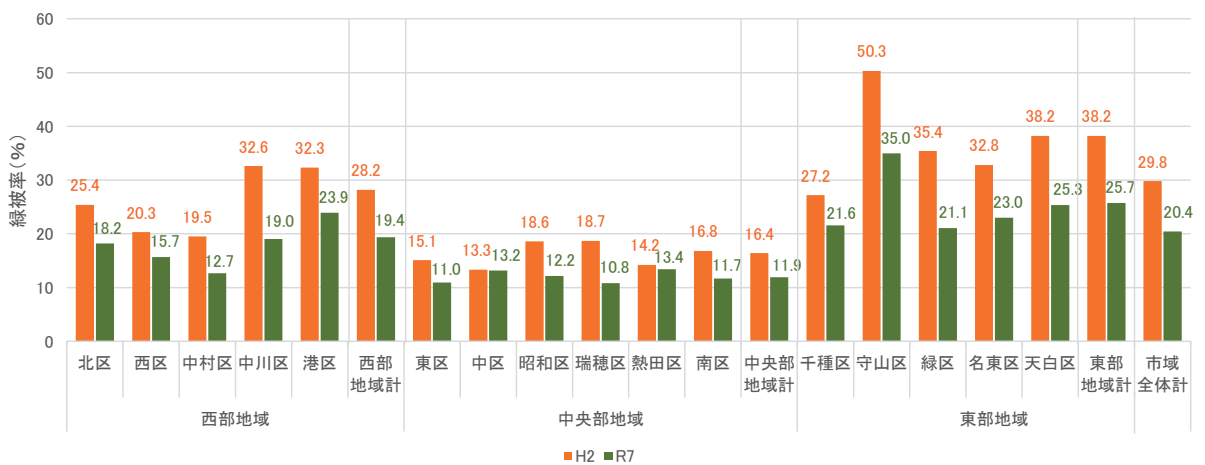


図 I-51 : 地域区分別・行政区別の緑被率の変化

(3) 地域区分別・行政区別の緑被率(4種別)の変化

① 樹林地(4種別)の変化

樹林地の緑被率について地域別に見ると、東部地域が16.3%で最も高く、次いで中央部地域が8.2%、西部地域が5.1%であり、平成2(1990)年と比較すると3地域とも減少した。

行政区別の樹林地の緑被率では、守山区(19.5%)、千種区(17.6%)、天白区(17.1%)をはじめとする東部地域の区が高い状況であったが、平成2年と比較すると、瑞穂区、昭和区、守山区で4ポイント以上減少した。

表I-27：地域区分別・行政区別の樹林地の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和7(2025)年		H2⇒R7 増減	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(ポイント)
西部地域	北区	133.15	7.6	107.39	6.1	▲25.76	▲1.5
	西区	116.86	6.5	100.14	5.6	▲16.72	▲0.9
	中村区	102.49	6.3	79.70	4.9	▲22.79	▲1.4
	中川区	189.23	5.9	153.39	4.8	▲35.84	▲1.1
	港区	254.82	5.6	222.64	4.9	▲32.18	▲0.7
	小計	796.55	6.2	663.26	5.1	▲133.29	▲1.1
中央部地域	東区	77.67	10.1	60.18	7.8	▲17.49	▲2.3
	中区	90.36	9.7	93.52	10.0	3.16	0.3
	昭和区	169.99	15.6	113.94	10.4	▲56.05	▲5.2
	瑞穂区	155.74	13.9	93.71	8.4	▲62.03	▲5.5
	熱田区	71.77	8.8	67.42	8.2	▲4.35	▲0.6
	南区	151.88	8.2	111.15	6.0	▲40.73	▲2.2
小計	717.41	10.9	539.92	8.2	▲177.49	▲2.7	
東部地域	千種区	387.69	21.3	319.60	17.6	▲68.09	▲3.7
	守山区	811.35	23.8	664.41	19.5	▲146.94	▲4.3
	緑区	574.43	15.2	463.80	12.2	▲110.63	▲3.0
	名東区	359.22	18.5	314.39	16.2	▲44.83	▲2.3
	天白区	437.75	20.3	369.11	17.1	▲68.64	▲3.2
小計	2,570.44	19.6	2,131.31	16.3	▲439.13	▲3.3	
合計	4,084.40	12.5	3,334.48	10.2	▲749.92	▲2.3	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

凡例

R7行政区別緑被率(%)\_樹林地

- 17.5以上
- 15.0以上 17.5未満
- 12.5以上 15.0未満
- 10.0以上 12.5未満
- 7.5以上 10.0未満
- 7.5未満
- 名古屋市域
- - - 地域区分
- - - 行政区界

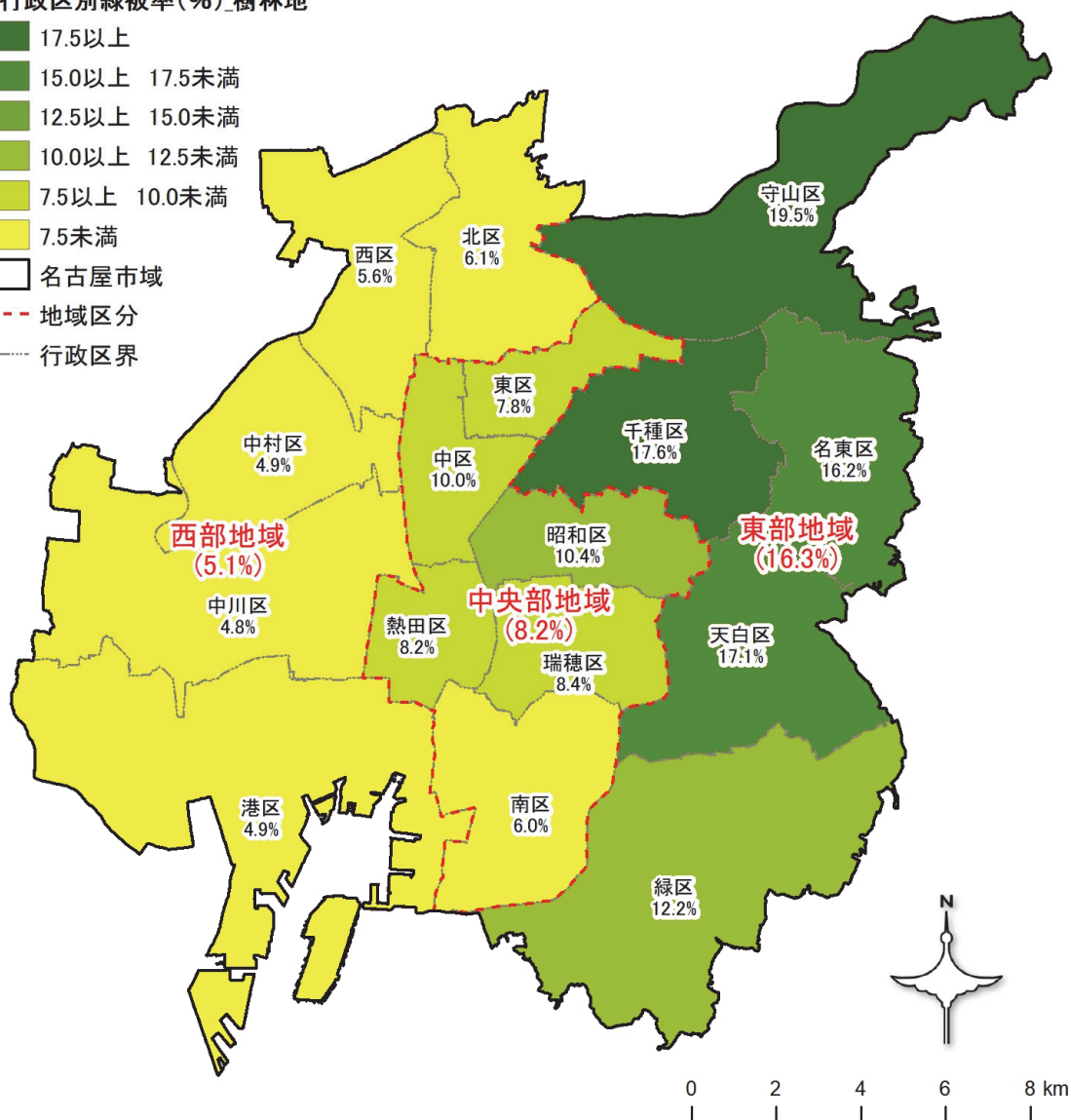


図 I-52 : 地域区別・行政区別の緑被率(樹林地) (令和7年)

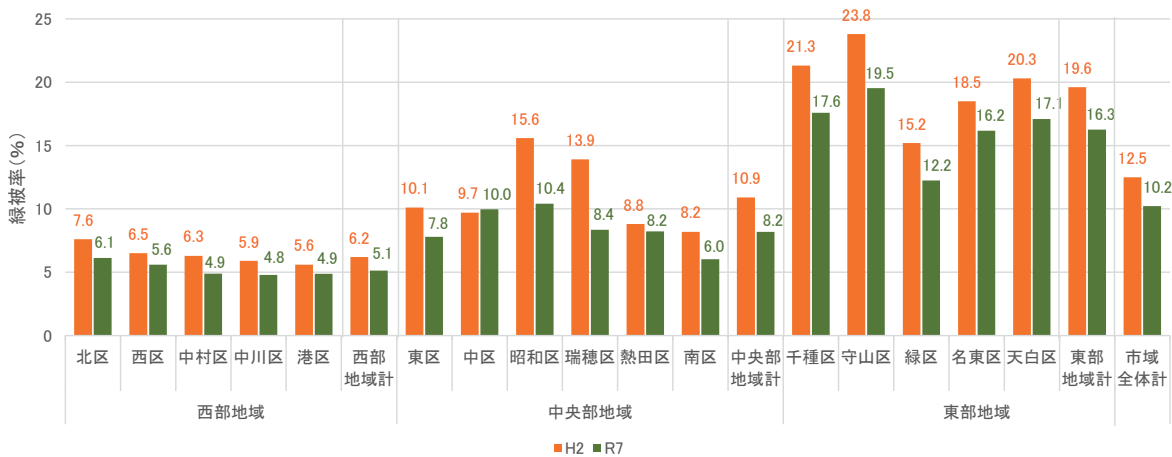


図 I-53 : 地域区別・行政区別の緑被率(樹林地)の変化

② 芝・草地(4種別)の変化

芝・草地の緑被率について地域別に見ると、東部地域が 5.8%で最も高く、次いで西部地域が 5.2%、中央部地域が 2.1%であり、平成 2(1990)年と比較すると 3 地域とも減少した。

行政区別の芝・草地の緑被率では、守山区 (10.2%)、北区 (7.8%)、西区 (6.6%) が順に高く、市の北部が比較的高い状況であった。平成 2 年と比較すると、名東区、緑区、天白区で 5 ポイント以上減少した。

表 I-28 : 地域区分別・行政区別の芝・草地の変化

地域区分	行政区	平成 2(1990)年		令和 7(2025)年		H2⇒R7 増減	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (ポ)
西部地域	北区	159.12	9.1	137.12	7.8	▲22.00	▲1.3
	西区	119.54	6.7	118.24	6.6	▲1.30	▲0.1
	中村区	85.84	5.3	61.39	3.8	▲24.45	▲1.5
	中川区	200.77	6.3	147.06	4.6	▲53.71	▲1.7
	港区	275.28	6.0	207.04	4.5	▲68.24	▲1.5
	小計	840.55	6.5	670.85	5.2	▲169.70	▲1.3
中央部地域	東区	35.30	4.6	21.09	2.7	▲14.21	▲1.9
	中区	17.24	1.8	15.05	1.6	▲2.19	▲0.2
	昭和区	25.10	2.3	15.37	1.4	▲9.73	▲0.9
	瑞穂区	36.45	3.2	19.99	1.8	▲16.46	▲1.4
	熱田区	19.79	2.4	17.40	2.1	▲2.39	▲0.3
	南区	70.81	3.8	50.12	2.7	▲20.69	▲1.1
	小計	204.69	3.1	139.01	2.1	▲65.68	▲1.0
東部地域	千種区	79.15	4.3	51.44	2.8	▲27.71	▲1.5
	守山区	472.80	13.9	348.11	10.2	▲124.69	▲3.7
	緑区	400.18	10.6	178.24	4.7	▲221.94	▲5.9
	名東区	200.72	10.3	91.59	4.7	▲109.13	▲5.6
	天白区	210.97	9.8	96.22	4.5	▲114.75	▲5.3
	小計	1,363.82	10.4	765.58	5.8	▲598.24	▲4.6
	合計	2,409.07	7.4	1,575.45	4.8	▲833.62	▲2.6

注 1) 本表は、「平成 2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和 7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注 2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

凡例

R7行政区別緑被率(%)\_芝・草地

- 10.0以上
- 8.0以上 10.0未満
- 6.0以上 8.0未満
- 4.0以上 6.0未満
- 2.0以上 4.0未満
- 2.0未満
- 名古屋市域
- - - 地域区分
- - - 行政区界

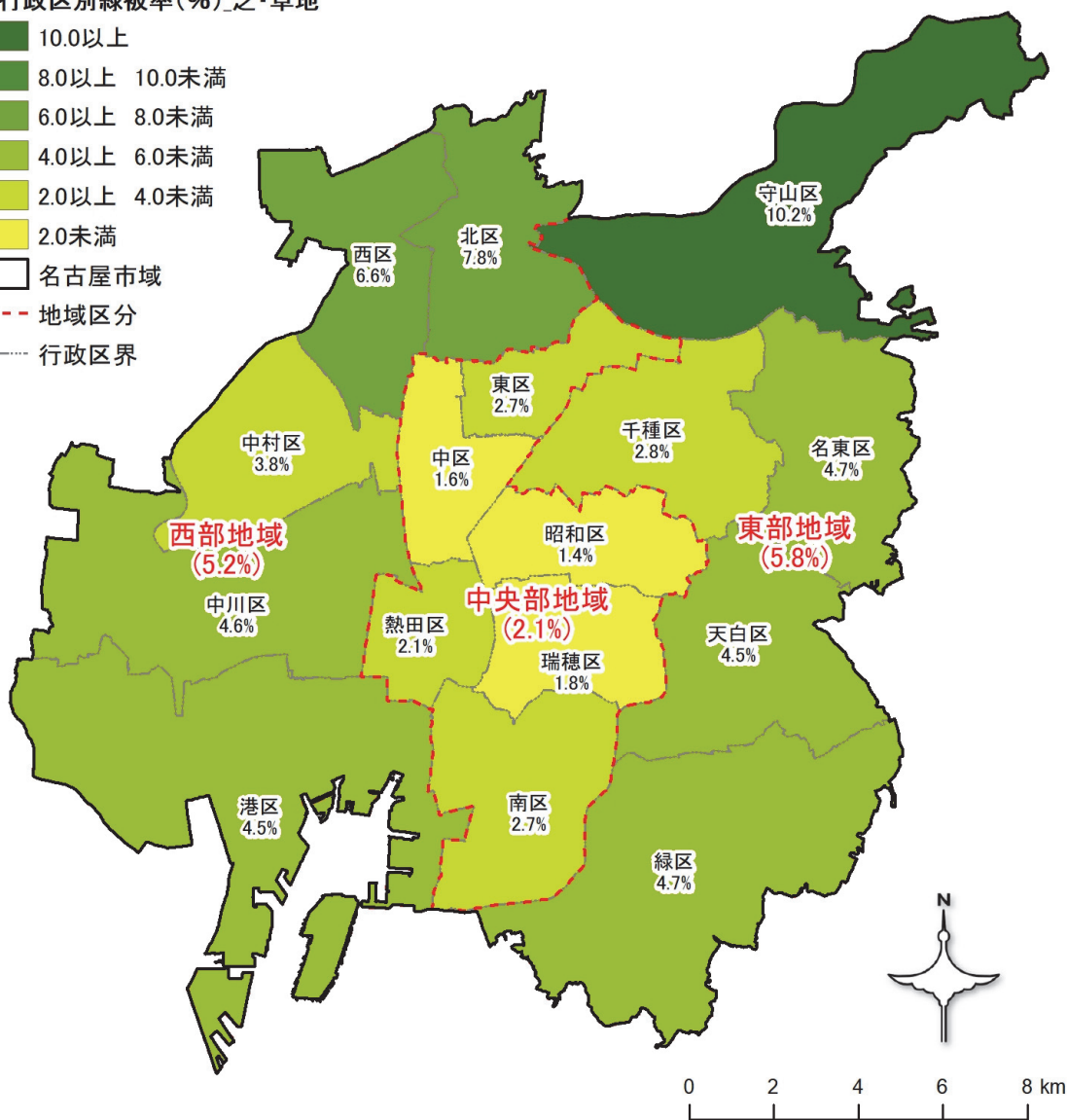


図 I-54 : 地域区分別・行政区別の緑被率(芝・草地) (令和 7年)

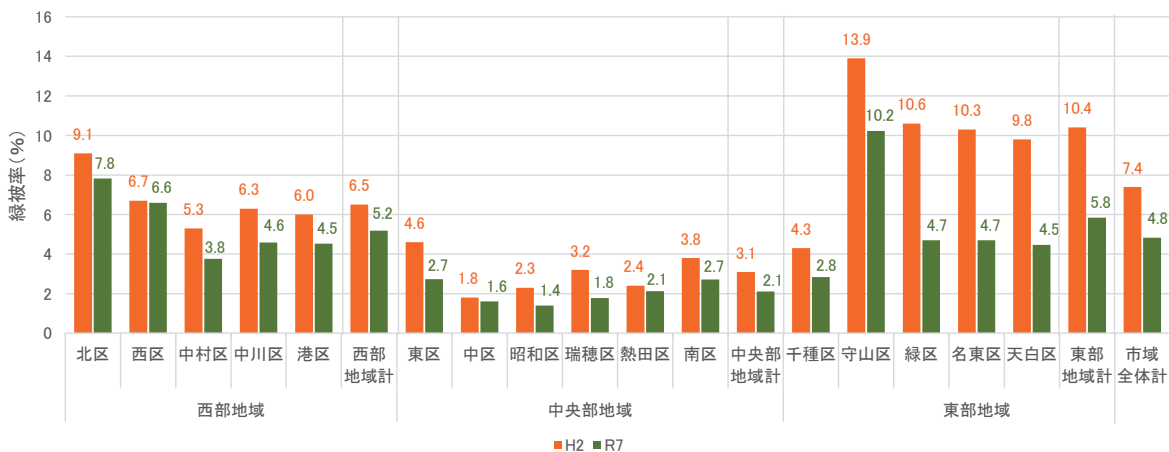


図 I-55 : 地域区分別・行政区別の緑被率(芝・草地)の変化

③ 農地(4種別)の変化

農地の緑被率について地域別に見ると、西部地域が4.4%で最も高く、次いで東部地域が1.5%、中央部地域に至っては0.2%であり、平成2(1990)年と比較すると3地域とも減少した。

行政区別の農地の緑被率では、港区(8.1%)、中川区(4.6%)、天白区(2.4%)が順に高い状況であり、平成2年と比較すると中区を除く全行政区で減少しており、特に、中川区で11.1ポイント、守山区で7.5ポイント、緑区で5.5ポイント、港区で5.3ポイント減少した。

表 I-29 : 地域区分別・行政区別の農地の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和7(2025)年		H2⇒R7 増減	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	99.63	5.7	21.93	1.3	▲77.70	▲4.4
	西区	79.82	4.5	10.66	0.6	▲69.16	▲3.9
	中村区	91.87	5.6	20.00	1.2	▲71.87	▲4.4
	中川区	502.49	15.7	146.48	4.6	▲356.01	▲11.1
	港区	610.08	13.4	367.80	8.1	▲242.28	▲5.3
	小計	1,383.89	10.7	566.87	4.4	▲817.02	▲6.3
中央部地域	東区	0.44	0.1	0.19	0.0	▲0.25	▲0.1
	中区	0.05	0.0	0.02	0.0	▲0.03	0.0
	昭和区	4.17	0.4	0.68	0.1	▲3.49	▲0.3
	瑞穂区	11.41	1.0	2.36	0.2	▲9.05	▲0.8
	熱田区	0.85	0.1	0.35	0.0	▲0.50	▲0.1
	南区	32.55	1.8	6.55	0.4	▲26.00	▲1.4
	小計	49.47	0.8	10.15	0.2	▲39.32	▲0.6
東部地域	千種区	12.30	0.7	4.62	0.3	▲7.68	▲0.4
	守山区	316.05	9.3	62.89	1.8	▲253.17	▲7.5
	緑区	274.92	7.3	67.91	1.8	▲207.01	▲5.5
	名東区	50.28	2.6	12.42	0.6	▲37.86	▲2.0
	天白区	145.08	6.7	51.65	2.4	▲93.43	▲4.3
	小計	798.63	6.1	199.48	1.5	▲599.15	▲4.6
合計	2,232.00	6.8	776.50	2.4	▲1,455.50	▲4.4	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

凡例

R7行政区別緑被率(%)\_農地

- 6.0以上
- 4.0以上 6.0未満
- 2.0以上 4.0未満
- 1.0以上 2.0未満
- 0.1以上 1.0未満
- 0.0
- 名古屋市域
- - - 地域区分
- - - 行政区界



図 I-56 : 地域区分別・行政区別の緑被率(農地) (令和 7 年)

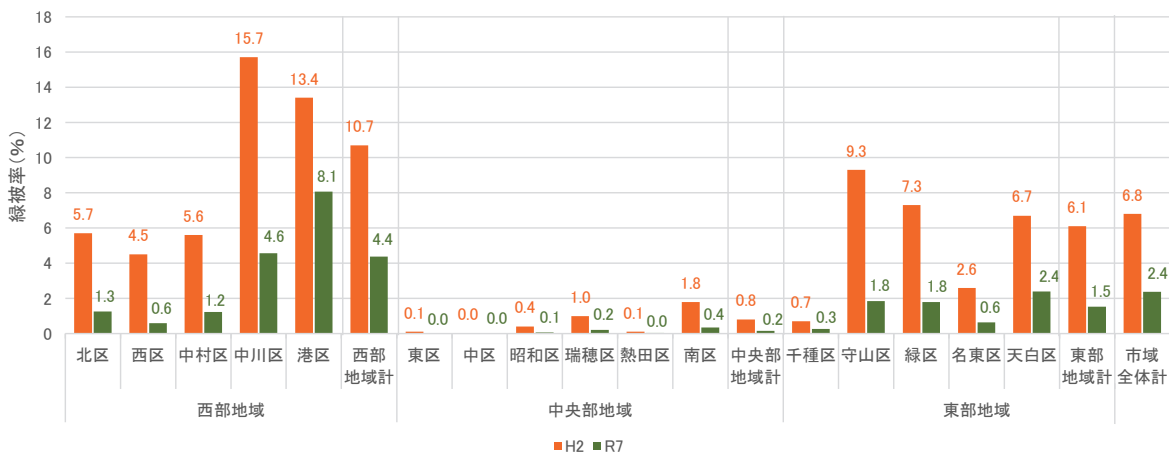


図 I-57 : 地域区分別・行政区別の緑被率(農地)の変化

④ 水面(4種別)の変化

水面の緑被率について地域別に見ると、西部地域が4.7%で最も高く、次いで東部地域が2.1%、中央部地域は1.5%であり、平成2(1990)年と比較するとほぼ変化はなかった。

行政区別の水面の緑被率では、港区(6.4%)、中川区(5.1%)、守山区(3.4%)が順に高い状況であり、平成2年と比較すると全体的に減少してはいるが、中川区と中村区で0.4ポイント、熱田区と西区で0.2ポイント、守山区で0.1ポイント僅かに増加した。

表I-30：地域区分別・行政区別の水面の変化

地域区分	行政区	平成2(1990)年		令和7(2025)年		H2⇒R7 増減	
		緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	53.90	3.1	52.40	3.0	▲1.50	▲0.1
	西区	47.62	2.7	52.25	2.9	4.63	0.2
	中村区	38.39	2.4	45.53	2.8	7.14	0.4
	中川区	151.42	4.7	162.18	5.1	10.76	0.4
	港区	330.48	7.3	294.06	6.4	▲36.42	▲0.9
	小計	621.81	4.8	606.42	4.7	▲15.40	▲0.1
中央部地域	東区	2.80	0.4	3.05	0.4	0.25	0.0
	中区	16.49	1.8	15.04	1.6	▲1.45	▲0.2
	昭和区	3.79	0.3	3.04	0.3	▲0.75	0.0
	瑞穂区	5.92	0.5	5.18	0.5	▲0.74	0.0
	熱田区	23.12	2.8	24.75	3.0	1.63	0.2
	南区	55.15	3.0	47.39	2.6	▲7.76	▲0.4
小計	107.27	1.6	98.46	1.5	▲8.81	▲0.1	
東部地域	千種区	17.14	0.9	16.35	0.9	▲0.79	0.0
	守山区	110.95	3.3	114.02	3.4	3.07	0.1
	緑区	89.68	2.4	88.09	2.3	▲1.59	▲0.1
	名東区	29.00	1.5	28.45	1.5	▲0.55	0.0
	天白区	29.21	1.4	29.57	1.4	0.36	0.0
小計	275.98	2.1	276.48	2.1	0.50	0.0	
合計	1,005.04	3.1	981.36	3.0	▲23.68	▲0.1	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率(増減)を示す。

凡例

R7行政区別緑被率(%)\_水面

- 6.0以上
- 4.0以上 6.0未満
- 2.0以上 4.0未満
- 1.0以上 2.0未満
- 0.4以上 1.0未満
- 0.4未満
- 名古屋市域
- - - 地域区分
- - - 行政区界

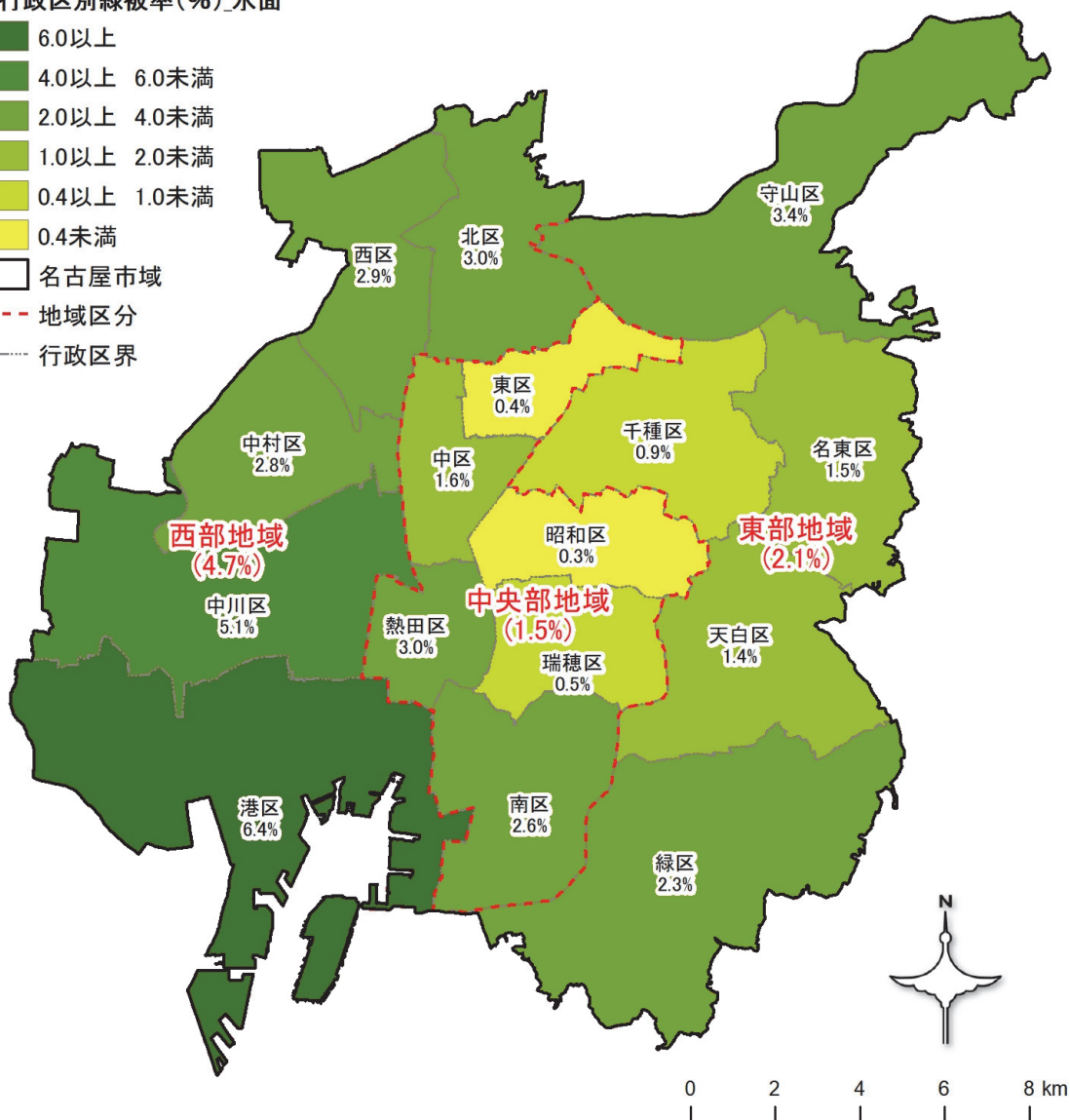


図 I-58 : 地域区分別・行政区別の緑被率(水面) (令和7年)

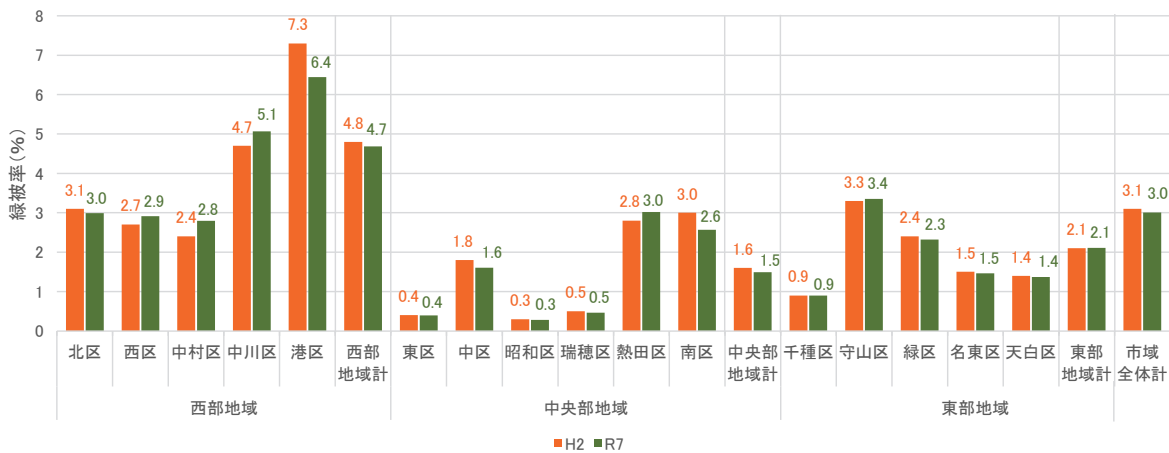


図 I-59 : 地域区分別・行政区別の緑被率(水面)の変化

(4) 地域区分別・行政区別の緑被率(細種別)の変化

① 樹林地(細種別)の変化

樹林地(細種別)の緑被率について地域別に見ると、高木は全地域とも3.1~11.9%を占めているが、そのほかの種別は、いずれも3.0%以下と低い比率であった。平成2(1990)年と比較すると3地域とも高木は減少しているが、竹林、街路樹高木、街路樹低木についてはほぼ変化がなかった。

行政区別の樹林地(細種別)の緑被率の変化を見ると、全行政区とも高木の緑被率が減少しており、特に瑞穂区が5.8ポイント、守山区が4.3ポイント、昭和区が4.2ポイント減少した。また、街路樹高木、街路樹低木については、総量としては少ないものの、西部地域と東部地域では、わずかに増加傾向を示した。

表 I-31 : 地域区分別・行政区別の樹林地細種別の変化

地域区分	行政区	樹林地(細種別)H2⇒R7 増減									
		高木		低木		竹林		街路樹高木		街路樹低木	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	▲34.76	▲1.9	7.25	0.4	▲0.52	0.0	1.54	0.0	0.74	0.0
	西区	▲25.54	▲1.5	5.21	0.3	-	-	2.14	0.1	1.61	0.0
	中村区	▲23.37	▲1.4	▲1.54	▲0.1	-	-	1.93	0.2	0.56	0.0
	中川区	▲36.42	▲1.1	0.48	0.1	▲0.47	0.0	▲0.45	▲0.1	1.02	0.0
	港区	▲33.28	▲0.8	2.31	0.0	-	-	▲1.48	0.0	0.38	0.0
	小計	▲153.38	▲1.2	13.72	0.1	▲1.62	0.0	3.68	0.1	4.31	0.0
中央部地域	東区	▲20.72	▲2.7	0.87	0.1	0.04	0.0	2.08	0.2	0.23	0.0
	中区	▲11.40	▲1.3	▲0.96	▲0.1	▲0.06	0.0	15.84	1.7	▲0.26	0.0
	昭和区	▲45.87	▲4.2	▲10.62	▲1.0	▲0.57	▲0.1	0.65	0.0	0.36	0.0
	瑞穂区	▲64.72	▲5.8	5.44	0.5	-	-	▲0.39	0.0	0.15	0.0
	熱田区	▲6.21	▲0.8	2.34	0.3	-	-	▲0.84	▲0.1	0.24	0.0
	南区	▲42.96	▲2.3	2.39	0.1	▲0.04	0.0	▲0.69	0.0	0.56	0.1
小計	▲191.87	▲3.0	▲0.54	▲0.0	▲3.02	▲0.1	16.65	0.3	1.27	0.0	
東部地域	千種区	▲49.07	▲2.6	▲22.36	▲1.2	0.06	0.0	2.37	0.2	0.89	0.0
	守山区	▲143.35	▲4.3	0.65	0.0	▲10.16	▲0.3	3.31	0.1	2.60	0.1
	緑区	▲62.13	▲1.6	▲11.61	▲0.3	▲45.75	▲1.2	6.09	0.1	2.78	0.1
	名東区	▲25.71	▲1.3	▲41.57	▲2.2	18.27	1.0	1.80	0.1	2.38	0.2
	天白区	▲57.87	▲2.7	▲6.97	▲0.3	▲7.05	▲0.3	2.13	0.1	1.13	0.0
小計	▲338.12	▲2.6	▲81.86	▲0.7	▲44.63	▲0.3	15.70	0.1	9.79	0.1	
合計	▲683.37	▲2.1	▲68.68	▲0.2	▲49.27	▲0.2	36.05	0.1	15.36	0.0	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。



図 I-60 : 地域区分別・行政区別の樹林地(細種別)緑被率の増減

表 I -32 : 地域区分別・行政区別の樹林地細種別の緑被地面積及び緑被率 (平成 2 (1990) 年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	樹林地(細種別) (H2)									
			高木		低木		竹林		街路樹高木		街路樹低木	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,755.00	100.80	5.7	24.51	1.4	0.70	0.0	6.22	0.4	0.91	0.1
	西区	1,790.00	83.44	4.7	27.58	1.5	0.13	0.0	4.74	0.3	0.96	0.1
	中村区	1,632.00	77.38	4.7	19.17	1.2	0.38	0.0	3.87	0.2	1.69	0.1
	中川区	3,201.00	121.29	3.8	59.14	1.8	0.54	0.0	4.94	0.2	3.32	0.1
	港区	4,557.00	166.91	3.7	71.82	1.6	0.12	0.0	10.62	0.2	5.36	0.1
	小計	12,935.00	549.82	4.3	202.22	1.6	1.87	0.0	30.39	0.2	12.24	0.1
中央部地域	東区	772.00	61.85	8.0	9.46	1.2	0.01	0.0	4.43	0.6	1.93	0.3
	中区	936.00	71.62	7.7	6.91	0.7	0.13	0.0	8.84	0.9	2.87	0.3
	昭和区	1,093.00	130.61	11.9	34.59	3.2	1.00	0.1	2.81	0.3	0.98	0.1
	瑞穂区	1,123.00	133.20	11.9	15.74	1.4	2.51	0.2	3.48	0.3	0.81	0.1
	熱田区	816.00	56.52	6.9	8.37	1.0	-	-	5.23	0.6	1.65	0.2
	南区	1,847.00	123.44	6.7	21.57	1.2	0.05	0.0	4.34	0.2	2.49	0.1
小計	6,587.00	577.24	8.8	96.64	1.5	3.70	0.1	29.13	0.4	10.73	0.2	
東部地域	千種区	1,824.00	308.65	16.9	71.07	3.9	0.94	0.1	6.09	0.3	0.95	0.1
	守山区	3,402.00	658.52	19.4	98.91	2.9	49.58	1.5	2.76	0.1	1.58	0.0
	緑区	3,786.00	364.34	9.6	114.59	3.0	91.38	2.4	3.22	0.1	0.89	0.0
	名東区	1,946.00	229.64	11.8	111.95	5.8	10.62	0.5	6.14	0.3	0.87	0.0
	天白区	2,157.00	335.76	15.6	58.92	2.7	36.60	1.7	4.72	0.2	1.74	0.1
	小計	13,115.00	1,896.91	14.5	455.44	3.5	189.12	1.4	22.93	0.2	6.03	0.0
合計	32,637.00	3,023.97	9.3	754.30	2.3	194.69	0.6	82.43	0.3	29.00	0.1	

注 1) 本表は、「平成 2 (1990) 年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I -33 : 地域区分別・行政区別の樹林地細種別の緑被地面積及び緑被率 (令和 7 (2025) 年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	樹林地(細種別) (R7)									
			高木		低木		竹林		街路樹高木		街路樹低木	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,753.00	66.04	3.8	31.76	1.8	0.18	0.0	7.76	0.4	1.65	0.1
	西区	1,793.00	57.90	3.2	32.79	1.8	-	-	6.88	0.4	2.57	0.1
	中村区	1,630.00	54.01	3.3	17.63	1.1	-	-	5.80	0.4	2.25	0.1
	中川区	3,202.00	84.87	2.7	59.62	1.9	0.07	0.0	4.49	0.1	4.34	0.1
	港区	4,564.00	133.63	2.9	74.13	1.6	-	-	9.14	0.2	5.74	0.1
	小計	12,942.00	396.44	3.1	215.94	1.7	0.25	0.0	34.07	0.3	16.55	0.1
中央部地域	東区	771.00	41.13	5.3	10.33	1.3	0.05	0.0	6.51	0.8	2.16	0.3
	中区	938.00	60.22	6.4	5.95	0.6	0.07	0.0	24.68	2.6	2.61	0.3
	昭和区	1,094.00	84.74	7.7	23.97	2.2	0.43	0.0	3.46	0.3	1.34	0.1
	瑞穂区	1,122.00	68.48	6.1	21.18	1.9	-	-	3.09	0.3	0.96	0.1
	熱田区	820.00	50.31	6.1	10.71	1.3	0.13	0.0	4.39	0.5	1.89	0.2
	南区	1,846.00	80.48	4.4	23.96	1.3	0.01	0.0	3.65	0.2	3.05	0.2
小計	6,591.00	385.37	5.8	96.10	1.5	0.68	0.0	45.78	0.7	12.00	0.2	
東部地域	千種区	1,818.00	259.58	14.3	48.71	2.7	1.00	0.1	8.46	0.5	1.84	0.1
	守山区	3,401.00	515.17	15.1	99.56	2.9	39.42	1.2	6.07	0.2	4.18	0.1
	緑区	3,791.00	302.21	8.0	102.98	2.7	45.63	1.2	9.31	0.2	3.67	0.1
	名東区	1,945.00	203.93	10.5	70.38	3.6	28.89	1.5	7.94	0.4	3.25	0.2
	天白区	2,158.00	277.89	12.9	51.95	2.4	29.55	1.4	6.85	0.3	2.87	0.1
	小計	13,113.00	1558.79	11.9	373.58	2.8	144.49	1.1	38.63	0.3	15.82	0.1
合計	32,646.00	2340.60	7.2	685.62	2.1	145.42	0.4	118.48	0.4	44.36	0.1	

注 1) 本表は、「令和 7 (2025) 年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

② 芝・草地(細種別)の変化

芝・草地(細種別)の緑被率について地域別に見ると、芝地、草地ともに中央部地域で1%程度と少なく、西部、東部地域で2~3%程度と比較的多い状況であった。平成2(1990)年と比較すると3地域とも芝地はほぼ同程度か微増していたが、草地は全て減少していた。

行政区別の芝・草地(細種別)の緑被率の変化を見ると、芝地の緑被率は、瑞穂区、港区を除いた区において、ほぼ同程度か微増した。これは、主に庄内川・矢田川の河川敷の芝地が増加しており、これらの河川沿いに立地する守山区、北区、西区、中村区、中川区では比較的增加傾向が見られた。また、草地の緑被率は全行政区とも減少しており、特に名東区、緑区、天白区が5ポイント以上減少していた。

表 I-34 : 地域区分別・行政区別の芝・草地細種別の変化

地域区分	行政区	芝・草地(細種別)H2⇒R7 増減			
		芝地		草地	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	35.16	2.0	▲57.16	▲3.3
	西区	21.02	1.2	▲22.32	▲1.3
	中村区	21.27	1.3	▲45.72	▲2.8
	中川区	13.46	0.5	▲67.18	▲2.1
	港区	▲6.42	▲0.2	▲61.83	▲1.4
	小計	84.50	0.7	▲254.21	▲2.0
中央部地域	東区	1.66	0.2	▲15.87	▲2.1
	中区	1.13	0.2	▲3.31	▲0.4
	昭和区	1.58	0.2	▲11.32	▲1.0
	瑞穂区	▲8.18	▲0.8	▲8.28	▲0.7
	熱田区	0.27	0.0	▲2.65	▲0.3
	南区	0.19	0.0	▲20.89	▲1.2
	小計	▲3.36	0.0	▲62.33	▲1.0
東部地域	千種区	▲1.96	▲0.1	▲25.76	▲1.4
	守山区	38.54	1.1	▲163.25	▲4.8
	緑区	5.40	0.2	▲227.34	▲6.0
	名東区	1.06	0.1	▲110.20	▲5.6
	天白区	▲0.60	0.0	▲114.15	▲5.3
	小計	42.45	0.3	▲640.69	▲4.9
合計	123.61	0.3	▲957.23	▲2.9	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。



図 I-61 : 地域区分別・行政区別の芝・草地(細種別)緑被率の増減

表 I-35 : 地域区分別・行政区別の芝・草地細種別の緑被地面積及び緑被率 (平成2(1990)年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	芝・草地(細種別)(H2)			
			芝地		草地	
			緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	1,755.00	47.19	2.7	111.93	6.4
	西区	1,790.00	32.23	1.8	87.31	4.9
	中村区	1,632.00	14.46	0.9	71.38	4.4
	中川区	3,201.00	17.56	0.5	183.22	5.7
	港区	4,557.00	62.50	1.4	212.78	4.7
	小計	12,935.00	173.94	1.3	666.62	5.2
中央部地域	東区	772.00	12.91	1.7	22.39	2.9
	中区	936.00	5.03	0.5	12.21	1.3
	昭和区	1,093.00	9.26	0.8	15.84	1.4
	瑞穂区	1,123.00	17.46	1.6	18.99	1.7
	熱田区	816.00	5.88	0.7	13.91	1.7
	南区	1,847.00	18.15	1.0	52.67	2.9
小計	6,587.00	68.69	1.0	136.01	2.1	
東部地域	千種区	1,824.00	29.77	1.6	49.38	2.7
	守山区	3,402.00	125.20	3.7	347.61	10.2
	緑区	3,786.00	53.99	1.4	346.19	9.1
	名東区	1,946.00	58.39	3.0	142.33	7.3
	天白区	2,157.00	30.03	1.4	180.94	8.4
小計	13,115.00	297.38	2.3	1,066.45	8.1	
合計	32,637.00	539.99	1.7	1,869.08	5.7	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I-36 : 地域区分別・行政区別の芝・草地細種別の緑被地面積及び緑被率 (令和7(2025)年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	芝・草地(細種別)(R7)			
			芝地		草地	
			緑被地面積(ha)	緑被率(%)	緑被地面積(ha)	緑被率(%)
西部地域	北区	1,753.00	82.35	4.7	54.77	3.1
	西区	1,793.00	53.25	3.0	64.99	3.6
	中村区	1,630.00	35.73	2.2	25.66	1.6
	中川区	3,202.00	31.02	1.0	116.04	3.6
	港区	4,564.00	56.08	1.2	150.95	3.3
	小計	12,942.00	258.44	2.0	412.41	3.2
中央部地域	東区	771.00	14.57	1.9	6.52	0.8
	中区	938.00	6.16	0.7	8.90	0.9
	昭和区	1,094.00	10.84	1.0	4.52	0.4
	瑞穂区	1,122.00	9.28	0.8	10.71	1.0
	熱田区	820.00	6.15	0.7	11.26	1.4
	南区	1,846.00	18.34	1.0	31.78	1.7
小計	6,591.00	65.33	1.0	73.68	1.1	
東部地域	千種区	1,818.00	27.81	1.5	23.62	1.3
	守山区	3,401.00	163.74	4.8	184.36	5.4
	緑区	3,791.00	59.39	1.6	118.85	3.1
	名東区	1,945.00	59.45	3.1	32.13	1.7
	天白区	2,158.00	29.43	1.4	66.79	3.1
小計	13,113.00	339.83	2.6	425.76	3.2	
合計	32,646.00	663.60	2.0	911.85	2.8	

注1) 本表は、「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

③ 農地(細種別)の変化

農地(細種別)の緑被率について地域別に見ると、西部地域の水田が3.1%と比較的多い状況であったが、ほかは全て1%程度以下と少ない状況であった。また、平成2(1990)年と比較すると3地域とも全ての種別で減少していた。

行政区別の農地(細種別)の緑被率の変化を見ると、水田の緑被率は中川区で5.4ポイント、守山区で4.0ポイント、港区で3.3ポイント減少しており、特に矢田川・庄内川の右岸側(北・西側)の農地の減少が多い状況であった。また、畑の緑被率は中川区で5.1ポイント、緑区で3.3ポイント減少しており、西部・東部地域で畑が満遍なく減少している状況であった。

表 I-37 : 地域区分別・行政区別の農地細種別の変化

地域区分	行政区	農地(細種別)H2⇒R7 増減							
		水田		畑		果樹園		その他農地	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	▲43.73	▲2.5	▲31.30	▲1.8	▲2.13	▲0.1	▲0.53	0.0
	西区	▲20.23	▲1.2	▲48.46	▲2.7	▲0.71	▲0.1	0.23	0.0
	中村区	▲19.61	▲1.2	▲49.76	▲3.0	▲2.09	▲0.1	▲0.42	0.0
	中川区	▲174.24	▲5.4	▲162.61	▲5.1	▲6.92	▲0.2	▲12.24	▲0.4
	港区	▲148.64	▲3.3	▲92.45	▲2.0	▲2.95	▲0.1	1.76	0.0
	小計	▲406.45	▲3.2	▲384.58	▲3.0	▲14.80	▲0.1	▲11.21	▲0.1
中央部地域	東区	-	-	▲0.23	0.0	▲0.01	0.0	-	-
	中区	-	-	▲0.03	0.0	-	-	-	-
	昭和区	-	-	▲3.44	▲0.3	0.01	0.0	▲0.05	0.0
	瑞穂区	-	-	▲8.27	▲0.7	▲0.68	▲0.1	-	-
	熱田区	-	-	▲0.49	▲0.1	-	-	-	-
	南区	-	-	▲23.00	▲1.3	▲1.01	▲0.1	▲0.80	0.0
小計	▲1.19	0.0	▲35.46	▲0.6	▲1.69	0.0	▲0.98	0.0	
東部地域	千種区	▲0.04	0.0	▲8.76	▲0.5	1.19	0.1	▲0.07	0.0
	守山区	▲135.55	▲4.0	▲104.13	▲3.1	▲9.82	▲0.3	▲3.66	▲0.1
	緑区	▲34.27	▲0.9	▲124.85	▲3.3	▲34.83	▲0.9	▲13.04	▲0.3
	名東区	▲5.37	▲0.3	▲30.89	▲1.6	▲1.55	▲0.1	▲0.06	0.0
	太白区	▲0.95	0.0	▲57.19	▲2.7	▲16.64	▲0.8	▲18.65	▲0.9
	小計	▲176.18	▲1.4	▲325.82	▲2.5	▲61.65	▲0.5	▲35.48	▲0.3
合計	▲583.82	▲1.8	▲745.87	▲2.3	▲78.15	▲0.3	▲47.67	▲0.1	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。

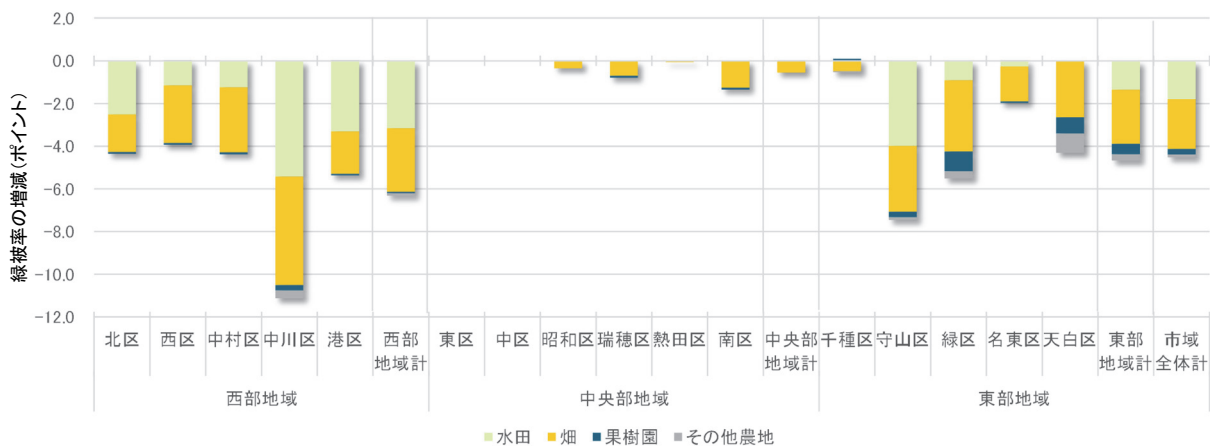


図 I-62 : 地域区分別・行政区別の農地(細種別)緑被率の増減

表 I-38 : 地域区分別・行政区別の農地細種別の緑被地面積及び緑被率 (平成2(1990)年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	農地(細種別)(H2)							
			水田		畑		果樹園		その他農地	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,755.00	52.23	3.0	44.34	2.5	2.44	0.1	0.61	0.0
	西区	1,790.00	21.12	1.2	57.39	3.2	0.94	0.1	0.38	0.0
	中村区	1,632.00	22.23	1.4	66.97	4.1	2.13	0.1	0.55	0.0
	中川区	3,201.00	263.01	8.2	214.33	6.7	8.69	0.3	16.46	0.5
	港区	4,557.00	453.73	10.0	147.82	3.2	4.41	0.1	4.12	0.1
	小計	12,935.00	812.32	6.3	530.85	4.1	18.61	0.1	22.12	0.2
中央部地域	東区	772.00	-	-	0.38	0.0	0.05	0.0	0.01	0.0
	中区	936.00	-	-	0.05	0.0	-	-	-	-
	昭和区	1,093.00	-	-	4.07	0.4	0.03	0.0	0.07	0.0
	瑞穂区	1,123.00	-	-	10.47	0.9	0.84	0.1	0.09	0.0
	熱田区	816.00	-	-	0.84	0.1	-	-	0.02	0.0
	南区	1,847.00	1.19	0.1	29.39	1.6	1.15	0.1	0.82	0.0
小計	6,587.00	1.19	0.0	45.20	0.7	2.07	0.0	1.01	0.0	
東部地域	千種区	1,824.00	0.08	0.0	10.62	0.6	0.51	0.0	1.10	0.1
	守山区	3,402.00	149.47	4.4	142.10	4.2	18.06	0.5	6.41	0.2
	緑区	3,786.00	37.68	1.0	172.69	4.6	45.24	1.2	19.30	0.5
	名東区	1,946.00	5.99	0.3	40.04	2.1	3.94	0.2	0.31	0.0
	天白区	2,157.00	1.00	0.0	88.40	4.1	34.88	1.6	20.80	1.0
	小計	13,115.00	194.22	1.5	453.85	3.5	102.63	0.8	47.92	0.4
合計	32,637.00	1,007.73	3.1	1,029.90	3.2	123.32	0.4	71.05	0.2	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I-39 : 地域区分別・行政区別の農地細種別の緑被地面積及び緑被率 (令和7(2025)年)

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	農地(細種別)(R7)							
			水田		畑		果樹園		その他農地	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,753.00	8.50	0.5	13.04	0.7	0.31	0.0	0.08	0.0
	西区	1,793.00	0.89	0.0	8.93	0.5	0.23	0.0	0.61	0.0
	中村区	1,630.00	2.62	0.2	17.21	1.1	0.04	0.0	0.13	0.0
	中川区	3,202.00	88.77	2.8	51.72	1.6	1.77	0.1	4.22	0.1
	港区	4,564.00	305.09	6.7	55.37	1.2	1.46	0.0	5.88	0.1
	小計	12,942.00	405.87	3.1	146.27	1.1	3.81	0.0	10.91	0.1
中央部地域	東区	771.00	-	-	0.15	0.0	0.04	0.0	-	-
	中区	938.00	-	-	0.02	0.0	-	-	-	-
	昭和区	1,094.00	-	-	0.63	0.1	0.04	0.0	0.02	0.0
	瑞穂区	1,122.00	-	-	2.20	0.2	0.16	0.0	-	-
	熱田区	820.00	-	-	0.35	0.0	-	-	-	-
	南区	1,846.00	-	-	6.39	0.3	0.14	0.0	0.02	0.0
小計	6,591.00	0.00	0.0	9.74	0.1	0.38	0.0	0.03	0.0	
東部地域	千種区	1,818.00	0.04	0.0	1.86	0.1	1.70	0.1	1.03	0.1
	守山区	3,401.00	13.92	0.4	37.97	1.1	8.24	0.2	2.75	0.1
	緑区	3,791.00	3.41	0.1	47.84	1.3	10.41	0.3	6.26	0.2
	名東区	1,945.00	0.62	0.0	9.15	0.5	2.39	0.1	0.25	0.0
	天白区	2,158.00	0.05	0.0	31.21	1.4	18.24	0.8	2.15	0.1
	小計	13,113.00	18.04	0.1	128.03	1.0	40.98	0.3	12.44	0.1
合計	32,646.00	423.91	1.3	284.03	0.9	45.17	0.1	23.38	0.1	

注1) 本表は、「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

④ 水面(細種別)の変化

水面(細種別)の緑被率について地域別に見ると、西部地域の河川が4.6%と比較的多い状況であったが、ほかの地域の各細種別は全て1%程度以下と少ない状況であった。また、平成2(1990)年と比較すると3地域とも全ての細種別で大きな変化はなかったと考えられる。

行政区別の水面(細種別)の緑被率の変化を見ると、河川の緑被率が港区で0.3ポイント減少しているが、これは河川の埋立てや土地区画整理事業に伴う水路の減少等に起因すると考えられた。また、ため池の緑被率は港区で0.6ポイント減少しているが、これは、主に湾岸エリアの貯木場(8号地)の埋立てによるものと考えられた。

表 I-40 : 地域区分別・行政区別の水面細種別の変化

地域区分	行政区	水面(細種別)増減 H2⇒R7 増減			
		河川		ため池	
		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	▲0.46	0.0	▲1.04	▲0.1
	西区	4.47	0.3	0.16	0.0
	中村区	7.51	0.5	▲0.36	▲0.1
	中川区	10.46	0.3	0.30	0.0
	港区	▲11.96	▲0.3	▲24.47	▲0.6
	小計	10.03	0.0	▲25.41	▲0.2
中央部地域	東区	▲0.12	▲0.1	0.37	0.1
	中区	▲0.95	▲0.1	▲0.49	▲0.1
	昭和区	▲0.74	▲0.1	▲0.02	0.0
	瑞穂区	▲0.71	0.0	▲0.03	0.0
	熱田区	0.40	0.1	1.23	0.2
	南区	▲7.60	▲0.4	▲0.16	0.0
	小計	▲9.71	▲0.2	0.90	0.0
東部地域	千種区	▲0.78	0.0	▲0.01	0.0
	守山区	1.48	0.0	1.60	0.1
	緑区	3.15	0.1	▲4.74	▲0.2
	名東区	▲2.77	▲0.2	2.21	0.1
	天白区	1.36	0.0	▲0.99	▲0.1
	小計	2.44	0.0	▲1.93	0.0
合計	2.74	0.0	▲26.42	▲0.1	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」及び「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

注2) 各地域の小計について、緑被地面積は各区の合計値の増減を、緑被率は各区の合計面積に対する緑被率の増減を示す。

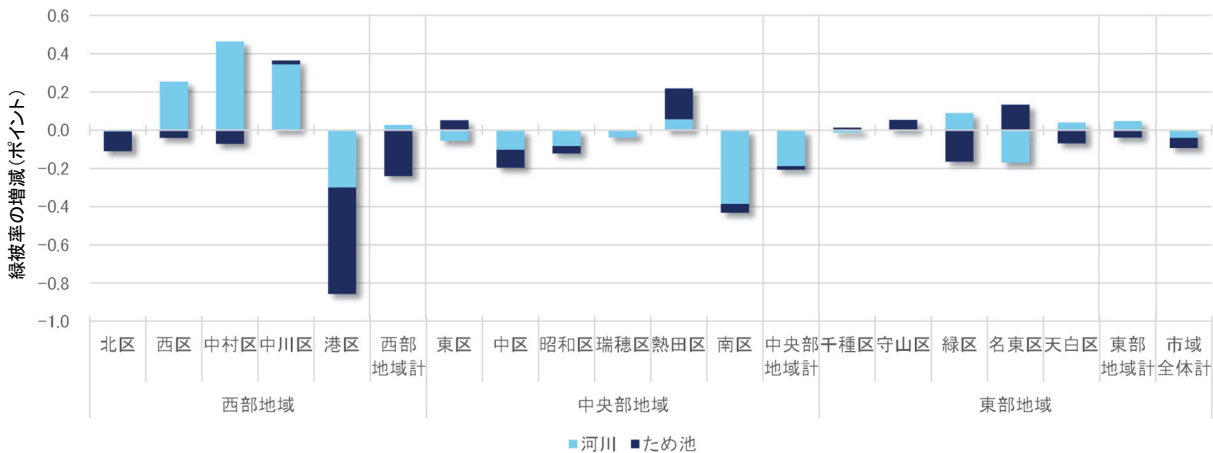


図 I-63 : 地域区分別・行政区別の水面(細種別)緑被率の増減

表 I-41：地域区分別・行政区別の水面細種別の緑被地面積及び緑被率（平成2(1990)年）

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	水面(細種別) (H2)			
			河川		ため池	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,755.00	51.17	2.9	2.73	0.2
	西区	1,790.00	44.92	2.5	2.70	0.2
	中村区	1,632.00	37.56	2.3	0.82	0.1
	中川区	3,201.00	151.03	4.7	0.39	0.0
	港区	4,557.00	304.03	6.7	26.45	0.6
	小計	12,935.00	588.71	4.6	33.09	0.3
中央部地域	東区	772.00	2.77	0.4	0.03	0.0
	中区	936.00	8.43	0.9	8.05	0.9
	昭和区	1,093.00	2.02	0.2	1.78	0.2
	瑞穂区	1,123.00	5.88	0.5	0.04	0.0
	熱田区	816.00	23.02	2.8	0.10	0.0
	南区	1,847.00	54.01	2.9	1.14	0.1
小計	6,587.00	96.13	1.5	11.14	0.2	
東部地域	千種区	1,824.00	5.99	0.3	11.15	0.6
	守山区	3,402.00	66.57	2.0	44.38	1.3
	緑区	3,786.00	49.51	1.3	40.17	1.1
	名東区	1,946.00	9.17	0.5	19.83	1.0
	天白区	2,157.00	16.76	0.8	12.44	0.6
	小計	13,115.00	148.00	1.1	127.97	1.0
合計	32,637.00	832.85	2.6	172.19	0.5	

注1) 本表は、「平成2(1990)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

表 I-42：地域区分別・行政区別の水面細種別の緑被地面積及び緑被率（令和7(2025)年）

地域区分	行政区	公表面積 (ha)	水面(細種別) (R7)			
			河川		ため池	
			緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
西部地域	北区	1,753.00	50.71	2.9	1.69	0.1
	西区	1,793.00	49.39	2.8	2.86	0.2
	中村区	1,630.00	45.07	2.8	0.46	0.0
	中川区	3,202.00	161.49	5.0	0.69	0.0
	港区	4,564.00	292.07	6.4	1.98	0.0
	小計	12,942.00	598.74	4.6	7.68	0.1
中央部地域	東区	771.00	2.65	0.3	0.40	0.1
	中区	938.00	7.48	0.8	7.56	0.8
	昭和区	1,094.00	1.28	0.1	1.76	0.2
	瑞穂区	1,122.00	5.17	0.5	0.01	0.0
	熱田区	820.00	23.42	2.9	1.33	0.2
	南区	1,846.00	46.41	2.5	0.98	0.1
小計	6,591.00	86.42	1.3	12.04	0.2	
東部地域	千種区	1,818.00	5.21	0.3	11.14	0.6
	守山区	3,401.00	68.05	2.0	45.98	1.4
	緑区	3,791.00	52.66	1.4	35.43	0.9
	名東区	1,945.00	6.40	0.3	22.04	1.1
	天白区	2,158.00	18.12	0.8	11.45	0.5
	小計	13,113.00	150.44	1.1	126.04	1.0
合計	32,646.00	835.59	2.6	145.77	0.4	

注1) 本表は、「令和7(2025)年度緑被調査(行政区別緑被地面積及び緑被率)」を基に集計している。(参考資料編 参照)

### 3-4-2. 行政区別カルテ

行政区ごとの緑被の状況を把握するため、行政区別にカルテを作成し、各行政区における緑被率の推移の特徴を整理した。行政区別カルテの構成は以下のとおりである。

(No.) 行政区名	
<b>■ 所見</b> ・ 緑被の概況 ・ 緑被の経年変化	
令和7(2025)年の緑被率	4種別緑被率の推移
[ R7 緑被率の 円グラフ ]	[ 4種別緑被率の 積み上げ横棒グラフ ]
令和7(2025)年の緑被地現況図	
[ R7 緑被地現況図 ]	

## (1) 千種区

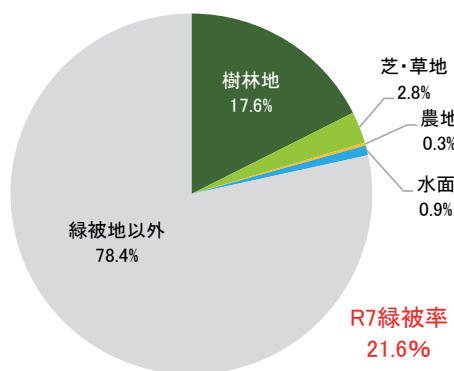
### ■緑被の概況

- 千種区の緑被率は21.6%であり、全16区中で第5位であった。
- 緑被地の多くを高木が占めている。
- 区内には東山公園や平和公園、茶屋ヶ坂公園、鹿子公園、吹上公園をはじめとする都市公園・墓地のほか、城山八幡宮、日泰寺等の社寺や、名古屋大学東山キャンパスなどによる樹林地等がまとまって存在している。

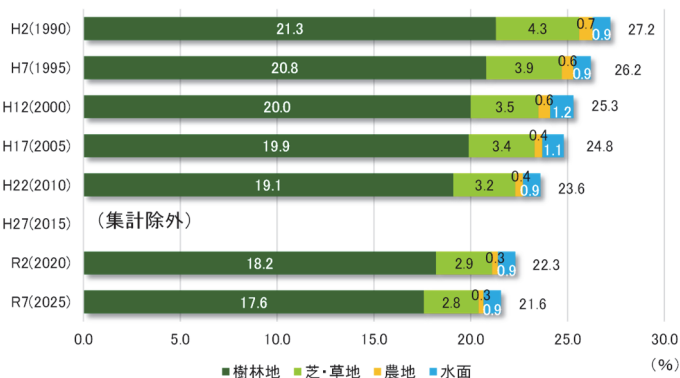
### ■緑被の経年変化

- H2からR7の35年間で、緑被率は5.6ポイント減少、緑被地面積は104.27ha減少した。
- その中でも特に樹林地の減少幅が大きく、樹林地の緑被率は3.7ポイント減少、面積は68.09ha減少した。

### 令和7(2025)年の緑被率

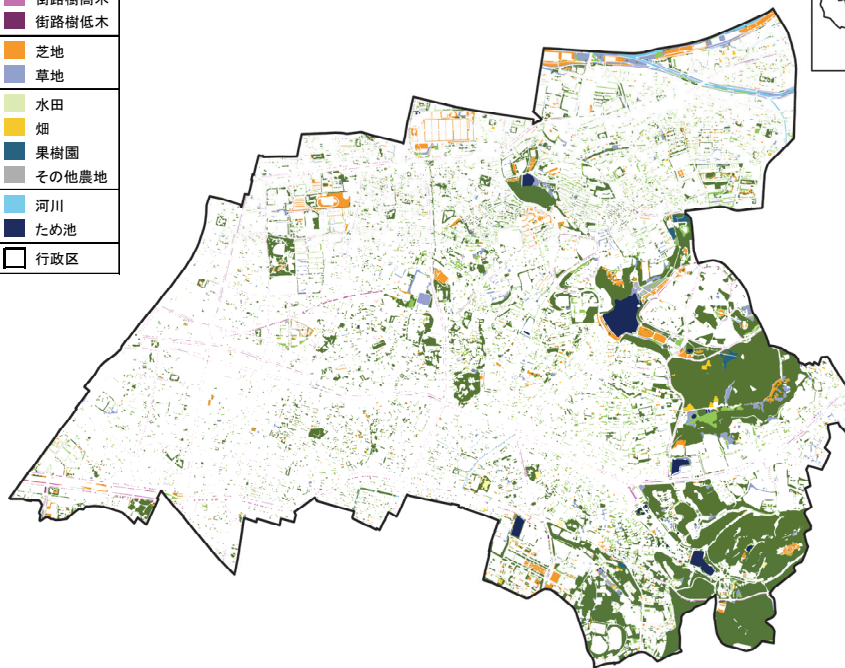


### 4種別緑被率の推移



### 令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木
	街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



0 1 2 km

(2) 東区

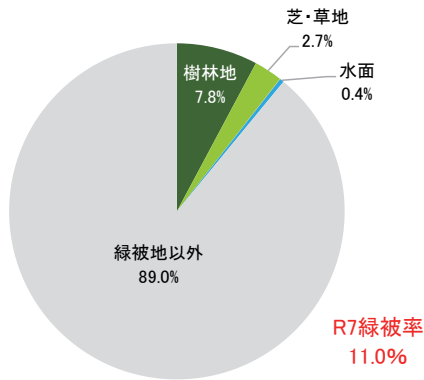
■ 緑被の概況

- ・ 東区の緑被率は11.0%であり、全16区中で第15位であった。
- ・ 全体の緑被率が低いのは、東区が街道筋の商業・住宅地区を中心に工業地として発展してきた経緯があり、市街化が著しく進行していることによるものと考えられる。
- ・ なお、矢田川の河川敷や木ヶ崎公園、大幸公園をはじめとした都市公園のほか、徳川園や長母寺、徳源寺、建中寺、片山神社等の社寺林など、まとまった緑も存在している。

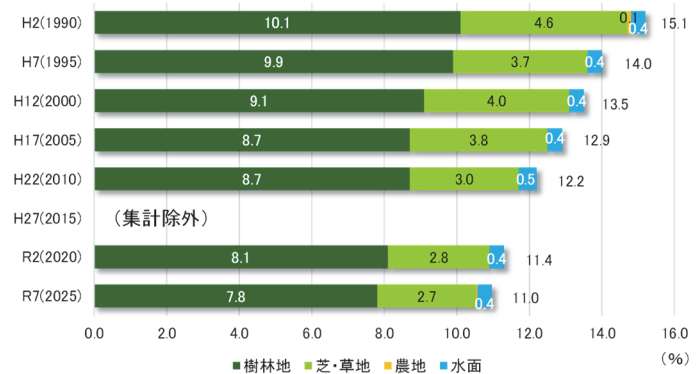
■ 緑被の経年変化

- ・ H2からR7の35年間で、緑被率は4.1ポイント減少、緑被地面積は31.70ha減少した。
- ・ 緑被率の減少幅の少なさは、全16区中で第3位であった。

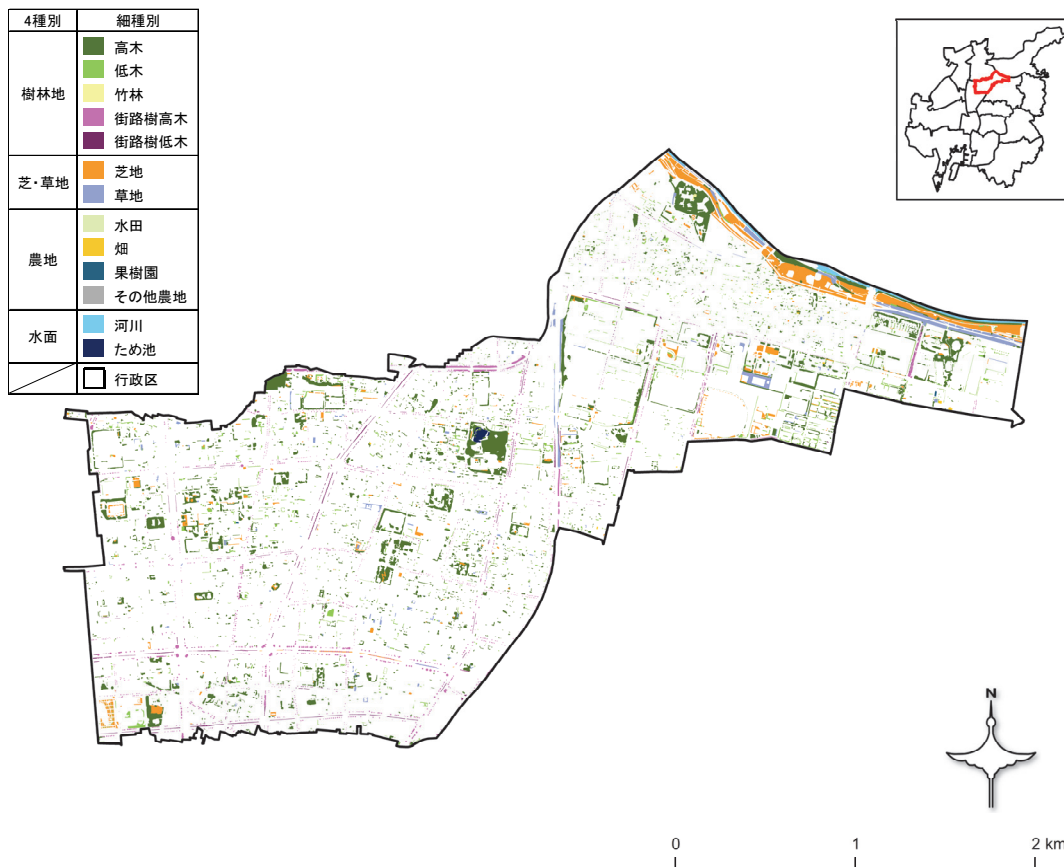
令和7(2025)年の緑被率



4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図



### (3) 北区

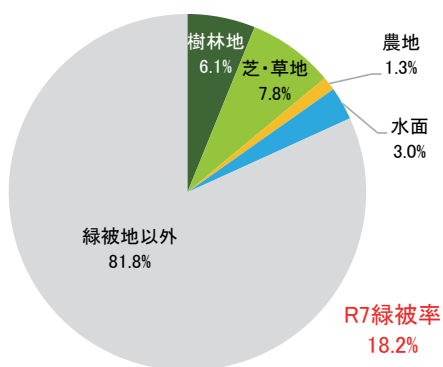
#### ■緑被の概況

- ・ 北区の緑被率は18.2%であり、全16区中で第8位であった。
- ・ 区内の中央部には庄内川、矢田川が流れ、その河川敷には芝・草地がまとまって存在している。
- ・ また、区内には新地蔵川や堀川も流れ、連続した緑被地を形成しているほか、名城公園（北園）や志賀公園、楠公園等の都市公園の緑被地もまとまって存在している。

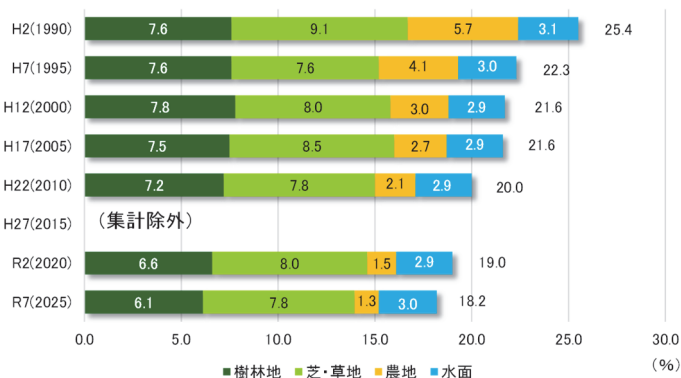
#### ■緑被の経年変化

- ・ H2 から R7 の35年間で、緑被率は7.2ポイント減少、緑被地面積は126.95ha減少した。
- ・ その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は4.4ポイント減少、面積は77.70ha減少した。

令和7(2025)年の緑被率

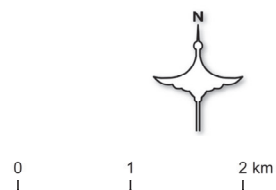
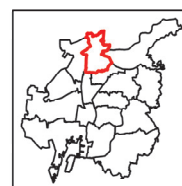
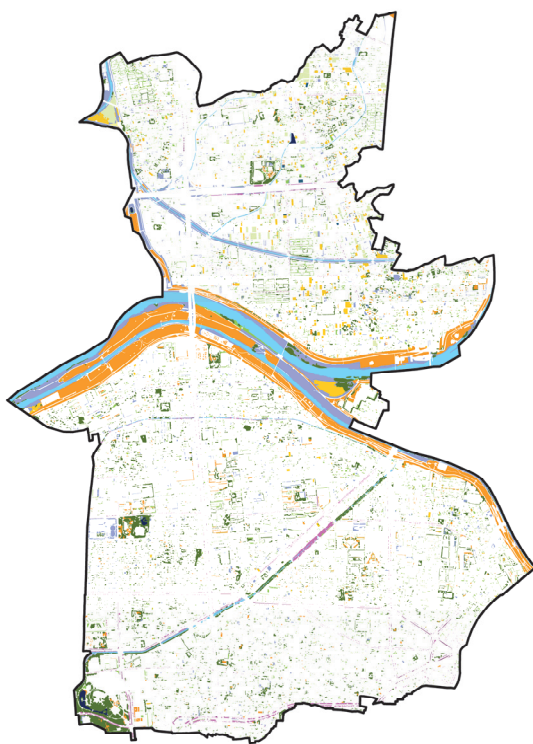


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



(4) 西区

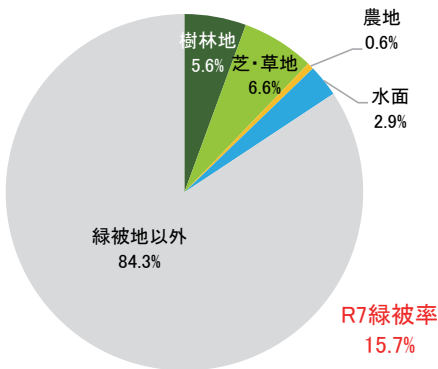
■ 緑被の概況

- ・西区の緑被率は15.7%であり、全16区中で第9位であった。
- ・区内の中央部には庄内川が流れ、その河川敷の芝・草地と庄内緑地、洗堰緑地、蛇池公園等が特にまとまった緑被地となっている。
- ・また、区内には新川や水場川、庄内用水も流れ、連続した緑被地を形成している。

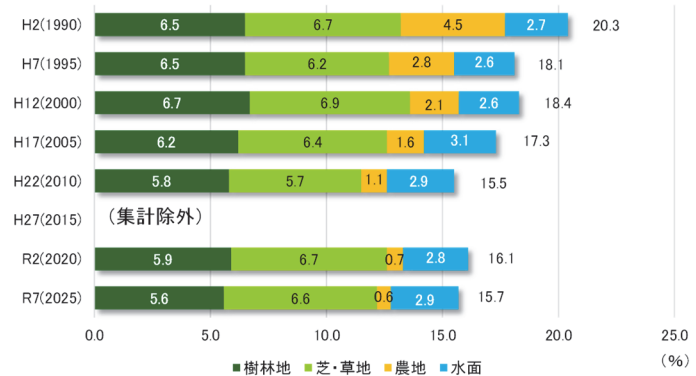
■ 緑被の経年変化

- ・H2からR7の305年間で、緑被率は4.6ポイント減少、緑被地面積は82.54ha減少した。
- ・緑被率の減少幅の少なさは、全16区中で第4位であった。
- ・経年変化を見ると、全体的には減少傾向を示しているが、調査年度によって増加していることもある。これは、遷移と攪乱の影響を受けやすい芝・草地の比率が高いことによるものと考えられた。

令和7(2025)年の緑被率

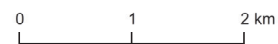
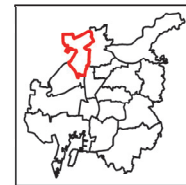
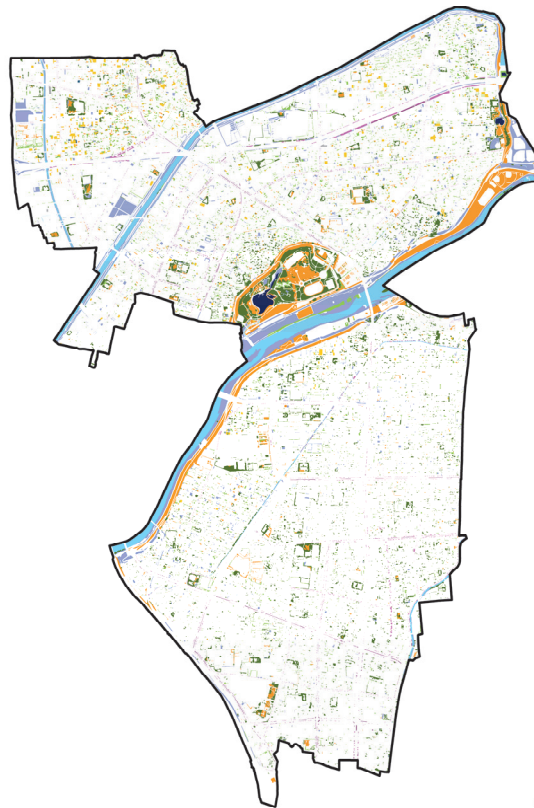


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	■ 高木
	■ 低木
	■ 竹林
	■ 街路樹高木 ■ 街路樹低木
芝・草地	■ 芝地
	■ 草地
農地	■ 水田
	■ 畑
	■ 果樹園
	■ その他農地
水面	■ 河川
	■ ため池
	□ 行政区



## (5) 中村区

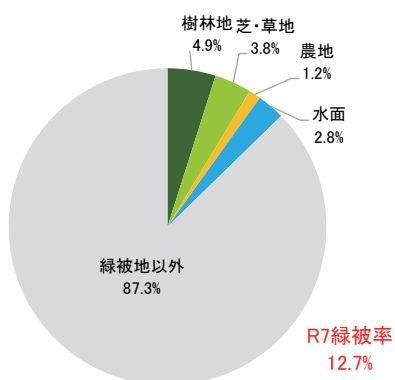
### ■緑被の概況

- ・中村区の緑被率は12.7%であり、全16区中で第12位であった。
- ・区の北西部には庄内川が流れ、その河川敷周辺には枇杷島橋緑地や大正橋緑地、横井山緑地といった都市計画緑地をはじめ、農地も点在しているほか、区の西部には中村公園（豊国神社）や稲葉地公園等のまとまった緑被地も存在している。
- ・区の東部には、名古屋駅やささしまライブ等が立地し、まとまった緑被地は少ないが、街路樹や民間施設等の緑化（芝地）が散見される。

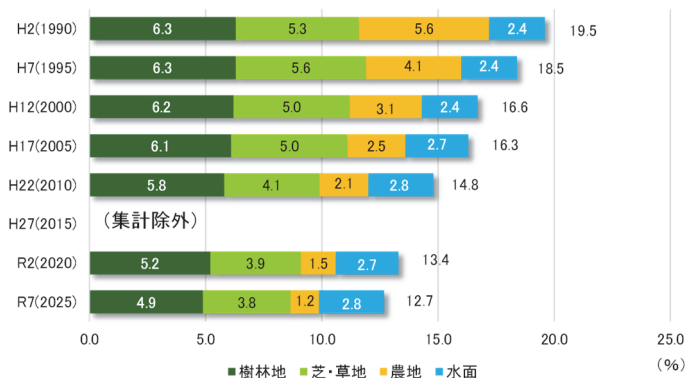
### ■緑被の経年変化

- ・H2からR7の35年間で、緑被率は6.8ポイント減少、緑被地面積は111.97ha減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は4.4ポイント減少、面積は71.87ha減少した。

#### 令和7(2025)年の緑被率

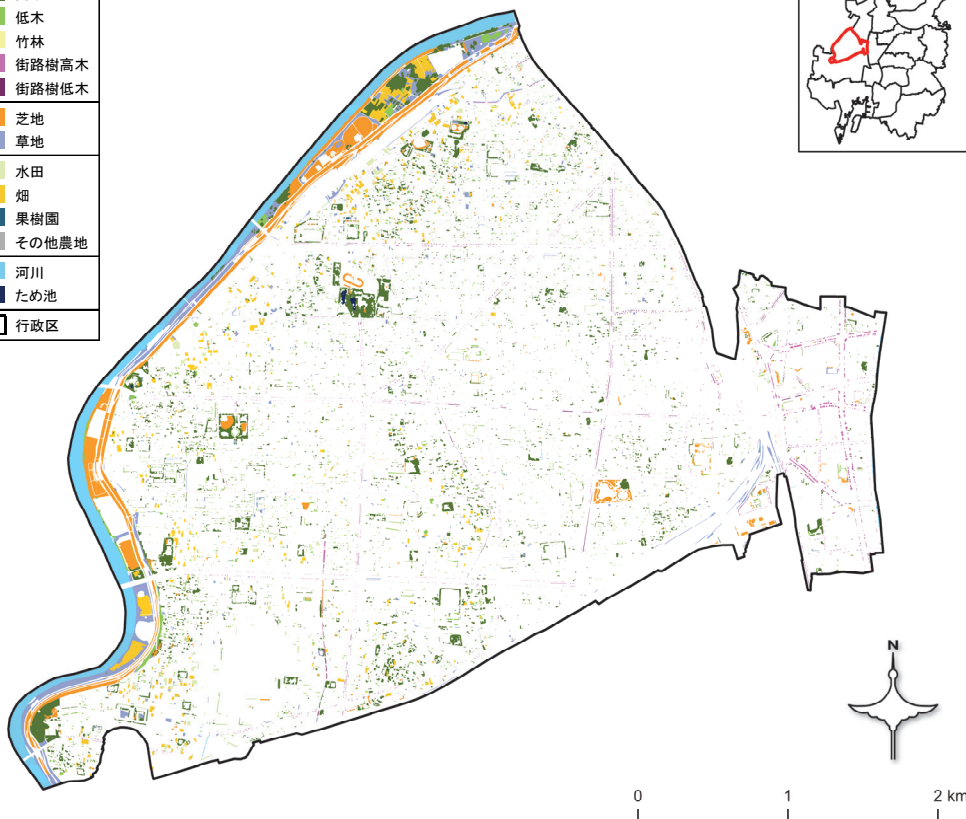


#### 4種別緑被率の推移



#### 令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



(6) 中区

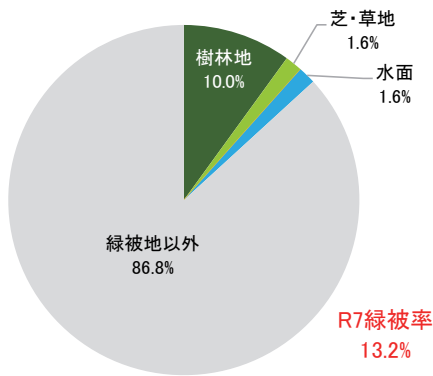
■ 緑被の概況

- ・ 中区の緑被率は13.2%であり、全16区中で第11位であった。
- ・ 本市の中心市街地にありながら、名城公園（外堀も含む）や久屋大通公園、白川公園といった比較的規模の大きい都市公園の緑被地が立地するとともに、桜通、錦通、広小路通、若宮大通、伏見通り、大津通等の主要幹線道路には街路樹が植栽されている。

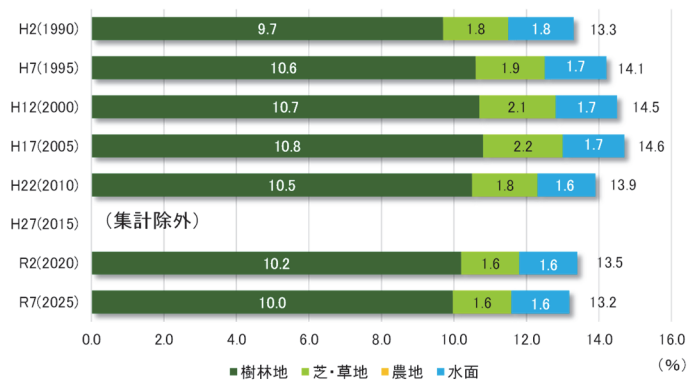
■ 緑被の経年変化

- ・ H2からR7の35年間で、緑被率は0.1ポイント減少、緑被地面積は0.50ha減少しているが、R2まではH2を上回った。ただし、H17をピークに緩やかに減少している。
- ・ なお、その中でも樹林地については、経年的に増減はあるものの30年間で見ると増加しており、緑被率は0.3ポイント増加、面積は3.16ha増加した。
- ・ 緑被率の減少幅の少なさは、全16区中で第1位であった。

令和7(2025)年の緑被率

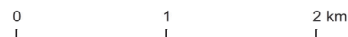
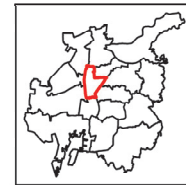


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木
	街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



## (7) 昭和区

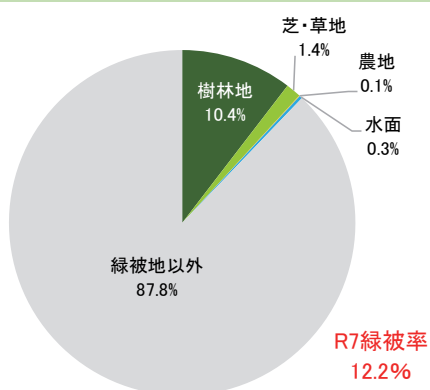
### ■緑被の概況

- ・昭和区の緑被率は12.2%であり、全16区中で第13位であった。
- ・区の西部には鶴舞公園がまとまった緑被地として存在している。
- ・区の中中部には南北に山崎川が流れ、平成31(2019)年3月に完成した川名公園の緑被地も存在している。
- ・区の東部は緩やかな丘陵地で、一部、風致地区にも指定されており、興正寺の社寺林のほか、南山大学(南山学園)や中京大学名古屋キャンパス、住宅地等の緑が比較的まとまって存在している。

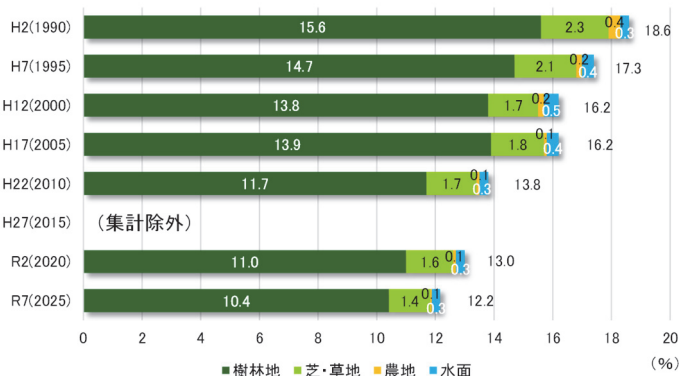
### ■緑被の経年変化

- ・H2からR7の35年間で、緑被率は6.4ポイント減少、緑被地面積は70.02ha減少した。
- ・その中でも特に樹林地の減少幅が大きく、緑被率は5.2ポイント減少、面積は56.05ha減少した。

### 令和7(2025)年の緑被率

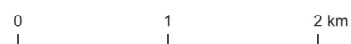
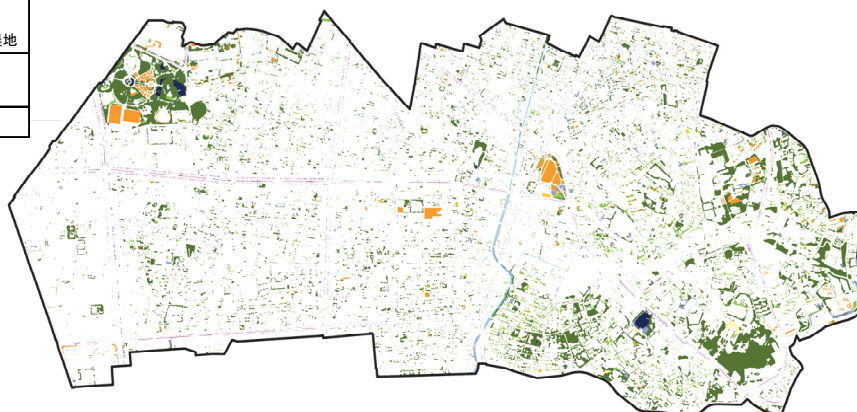


### 4種別緑被率の推移



### 令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木
	街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



(8) 瑞穂区

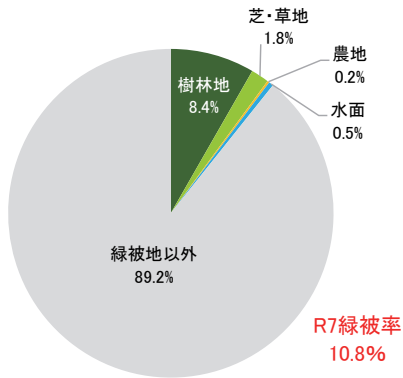
■ 緑被の概況

- ・ 瑞穂区の緑被率は10.8%であり、全16区中で第16位であった。
- ・ 区の中央部には山崎川が流れ、連続した緑被地となっており、これと一体となって瑞穂公園、東山荘等の緑被地が存在している。
- ・ 区の東部は丘陵地となっており、風致地区にも指定された住宅地等によって豊かな緑が形成されている。

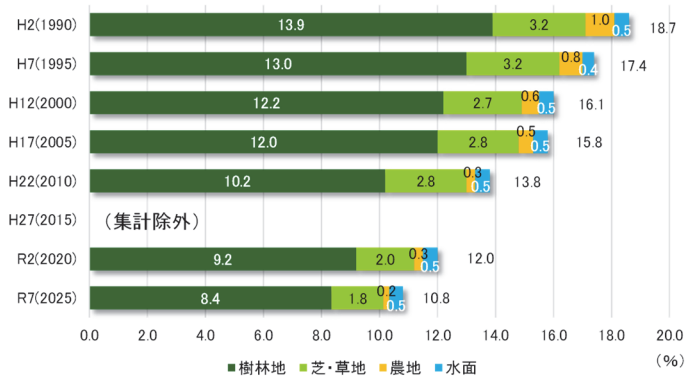
■ 緑被の経年変化

- ・ H2からR7の35年間で、緑被率は7.9ポイント減少、緑被地面積は88.27ha減少した。
- ・ その中でも特に樹林地の減少幅が大きく、緑被率は5.5ポイント減少、面積は62.03ha減少した。

令和7(2025)年の緑被率

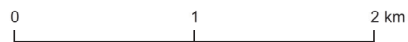
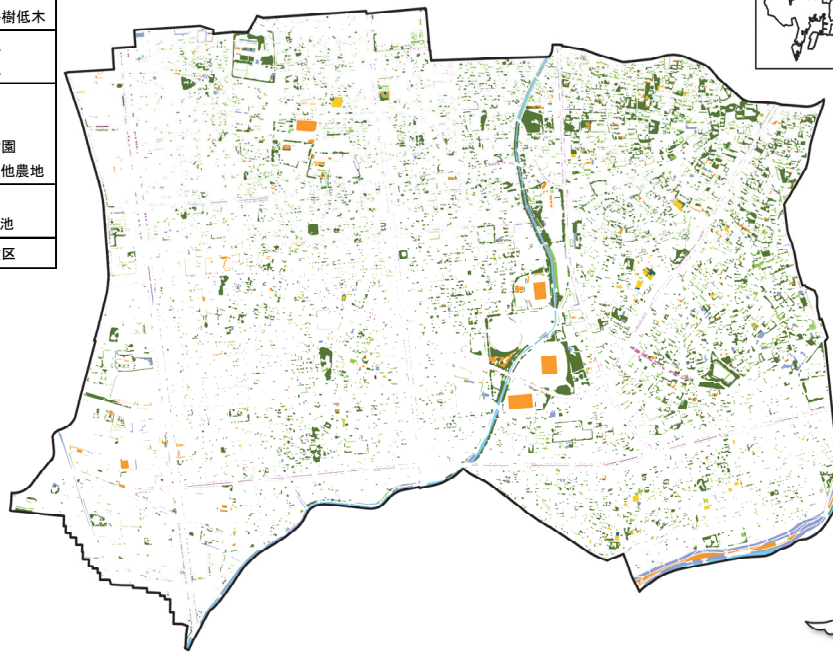


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	■ 高木
	■ 低木
	■ 竹林
	■ 街路樹高木
	■ 街路樹低木
芝・草地	■ 芝地
	■ 草地
農地	■ 水田
	■ 畑
	■ 果樹園
	■ その他農地
水面	■ 河川
	■ ため池
	□ 行政区



(9) 熱田区

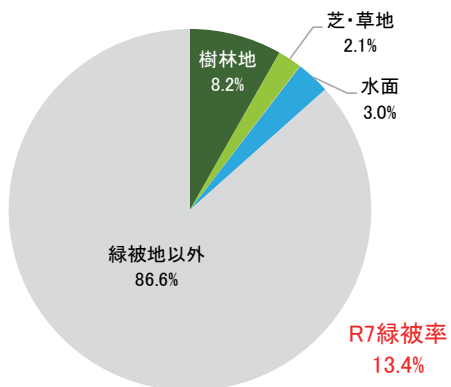
■緑被の概況

- ・熱田区の緑被率は13.4%であり、全16区中で第10位であった。
- ・区の中東部には、熱田区の象徴でもある熱田神宮が立地し、その周辺にも神宮東公園、高蔵公園、熱田神宮公園、白鳥公園、白鳥庭園など、まとまった緑被地が存在している。
- ・また、区の中央部には堀川が、東部には新堀川が流れ、連続した緑被地を形成している。

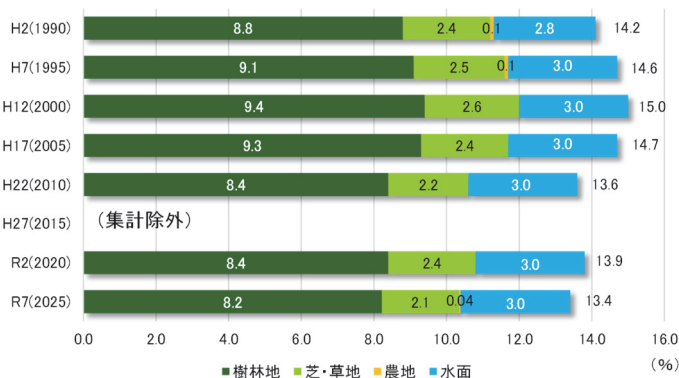
■緑被の経年変化

- ・H2からR7の35年間で、緑被率は0.8ポイント減少、緑被地面積は5.61ha減少した。
- ・緑被率の減少幅の少なさは、全16区中で第2位であった。

令和7(2025)年の緑被率

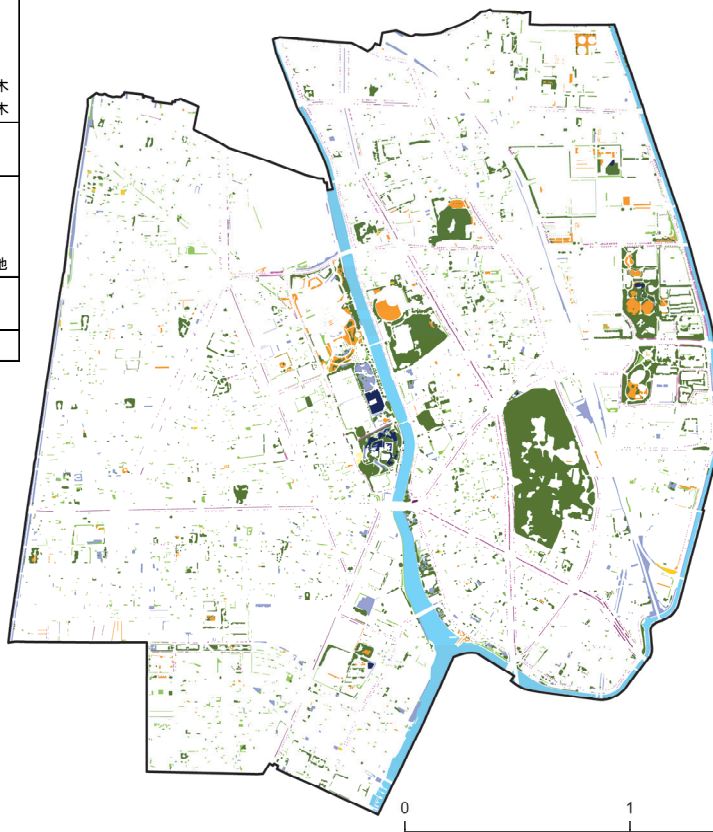


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



(10) 中川区

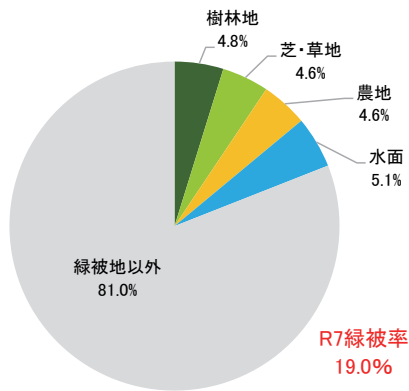
■ 緑被の概況

- ・ 中川区の緑被率は19.0%であり、全16区中で第7位であった。
- ・ 緑被率は4種別がほぼ均等となっていることが特徴的であったが、まとまり度の観点から見ると、芝・草地、農地、水面は比較的まとまって存在しているが、樹林地は比較的分散して存在していた。
- ・ 庄内川、新川をはじめとする複数の河川、水路が南北に流れ、連続した緑被地を形成している。
- ・ 庄内川以西にまとまった農地が存在しているが、千音寺周辺は区画整理により草地となっている。

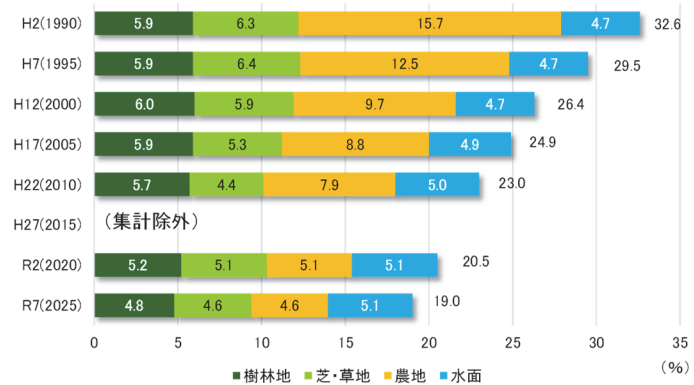
■ 緑被の経年変化

- ・ H2からR7の35年間で、緑被率は13.6ポイント減少、緑被地面積は434.80ha減少した。
- ・ その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は11.1ポイント減少、面積は356.01ha減少した。

令和7(2025)年の緑被率

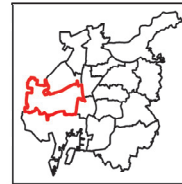
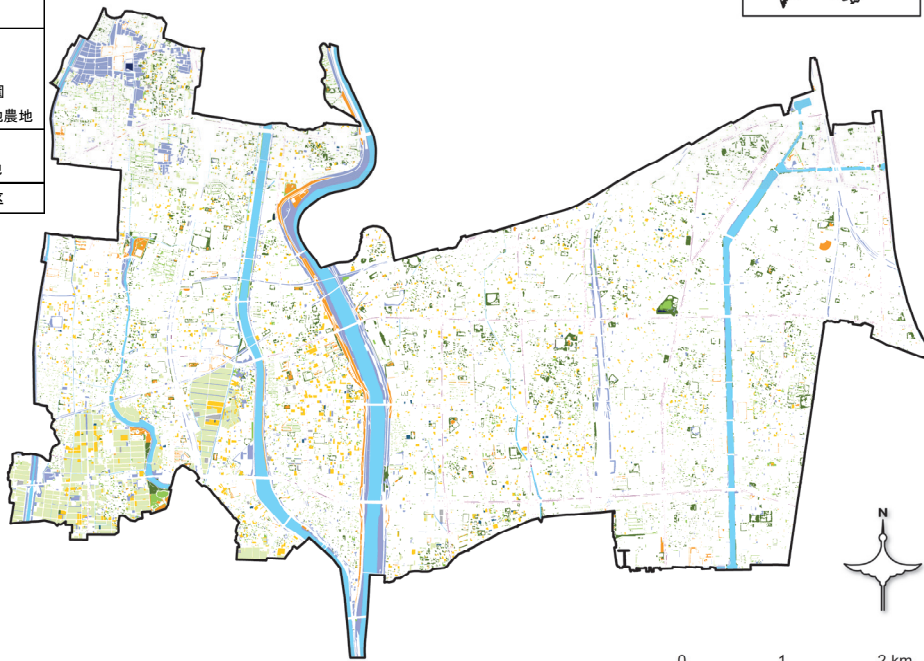


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



## (11) 港区

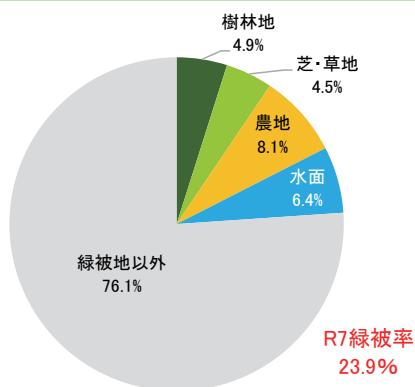
### ■緑被の概況

- ・港区の緑被率は23.9%であり、全16区中で第3位であった。
- ・港区は市内全ての主要河川の河口部に位置し、河川によるまとまった水面と、庄内川以西のまとまりのある農地が緑被地としての特徴であった。
- ・また、戸田川緑地や稲永公園、稲永東公園、荒子川緑地等の公園緑地のほか、臨海部の工場敷地内にもまとまった緑被地が分布している。

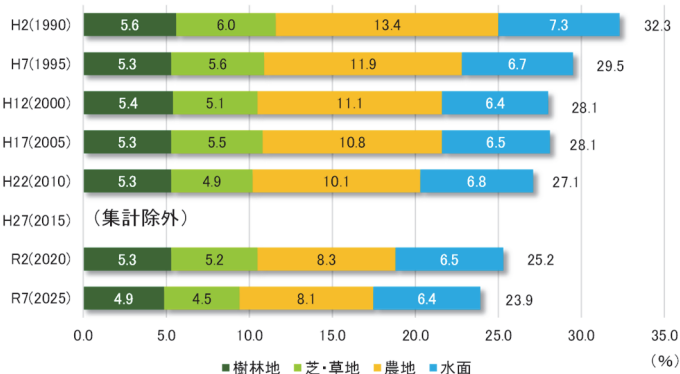
### ■緑被の経年変化

- ・H2からR7の35年間で、緑被率は8.4ポイント減少、緑被地面積は379.13ha減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は5.3ポイント減少、面積は242.28ha減少した。

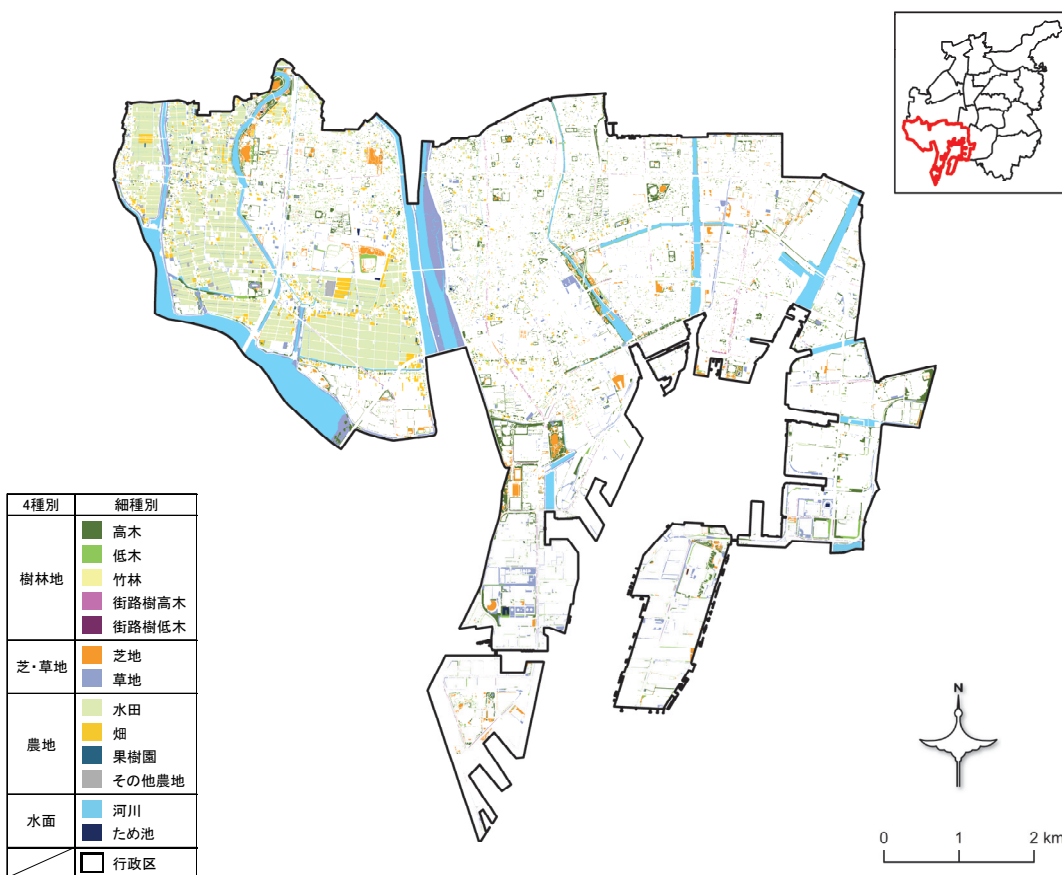
#### 令和7(2025)年の緑被率



#### 4種別緑被率の推移



#### 令和7(2025)年の緑被地現況図



(12) 南区

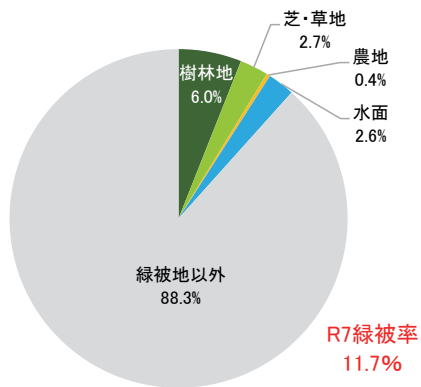
■ 緑被の概況

- ・ 南区の緑被率は11.7%であり、全16区中で第14位であった。
- ・ 区内には、堀川、山崎川、天白川に加えて、大江川緑地が水面、芝・草地、樹林地の連続した緑被地を形成している。
- ・ また、道徳公園、呼続公園、笠寺公園等の都市公園のまとまった緑被地が存在している。

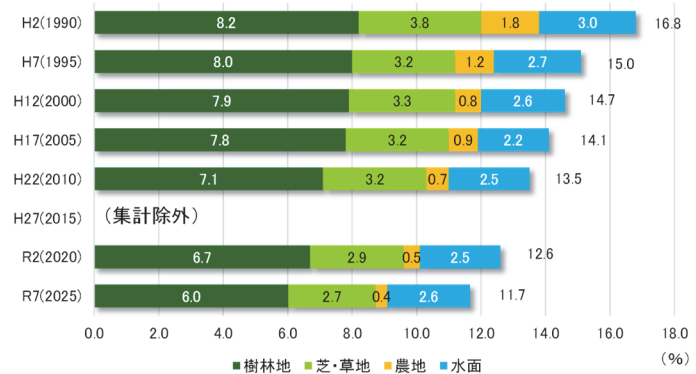
■ 緑被の経年変化

- ・ H2からR7の35年間で、緑被率は5.1ポイント減少、緑被地面積は95.19ha減少した。
- ・ 緑被率の減少幅の少なさは、全16区中で第5位であった。

令和7(2025)年の緑被率

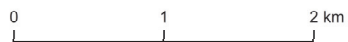
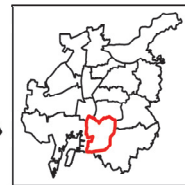
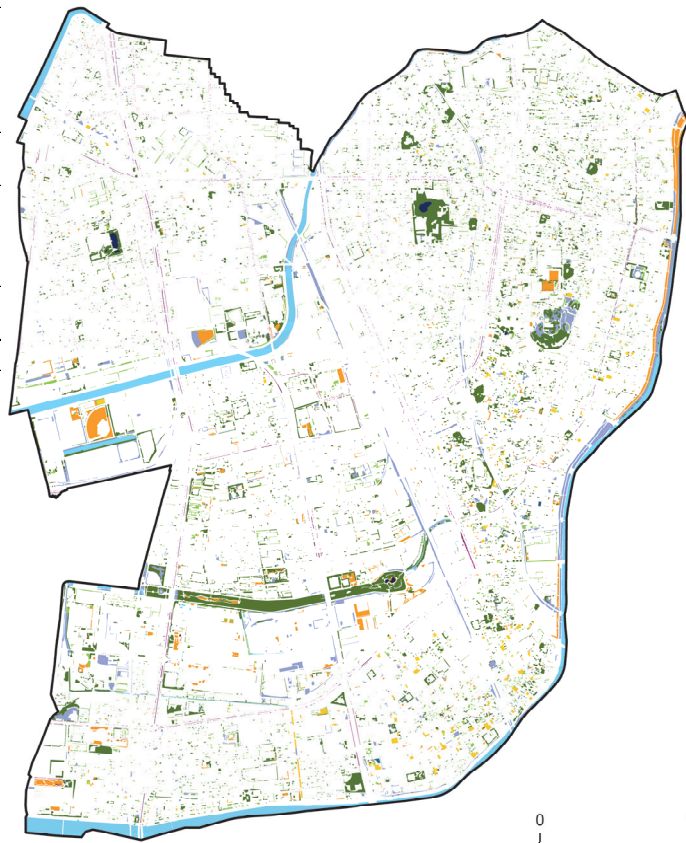


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	■ 高木
	■ 低木
	■ 竹林
	■ 街路樹高木
	■ 街路樹低木
芝・草地	■ 芝地
	■ 草地
農地	■ 水田
	■ 畑
	■ 果樹園
	■ その他農地
水面	■ 河川
	■ ため池
	□ 行政区



### (13) 守山区

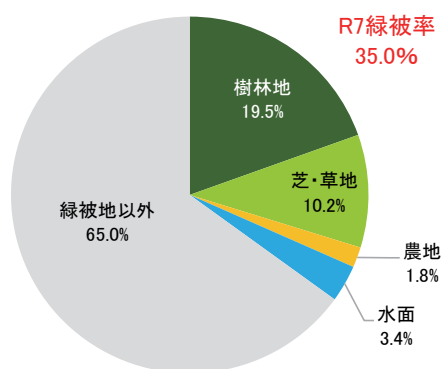
#### ■緑被の概況

- ・守山区の緑被率は35.0%であり、全16区中で第1位であった。
- ・区内の北側を流れる庄内川、南側を流れる矢田川が連続した緑被地を形成するとともに、小幡緑地周辺から東谷山周辺にかけて一部風致地区にも指定されており、小幡緑地や東谷山、竜泉寺、ゴルフ場、住宅地等の緑などによりまとまった緑被地を形成している。

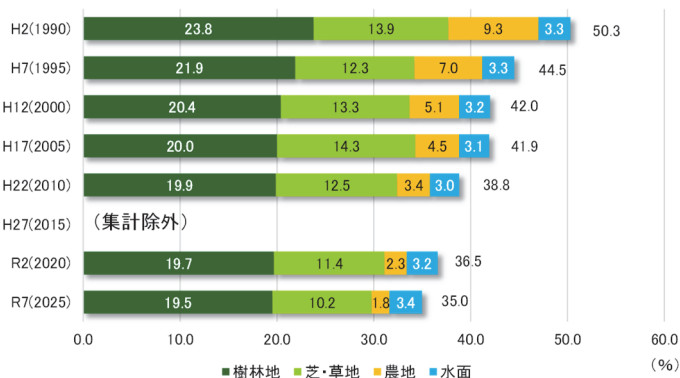
#### ■緑被の経年変化

- ・H2からR7の35年間で、緑被率は15.3ポイント減少、緑被地面積は521.73ha減少した。
- ・その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は7.5ポイント減少、面積は253.17ha減少し、また、樹林地も緑被率が4.3ポイント減少、面積が146.94ha減少した。

#### 令和7(2025)年の緑被率

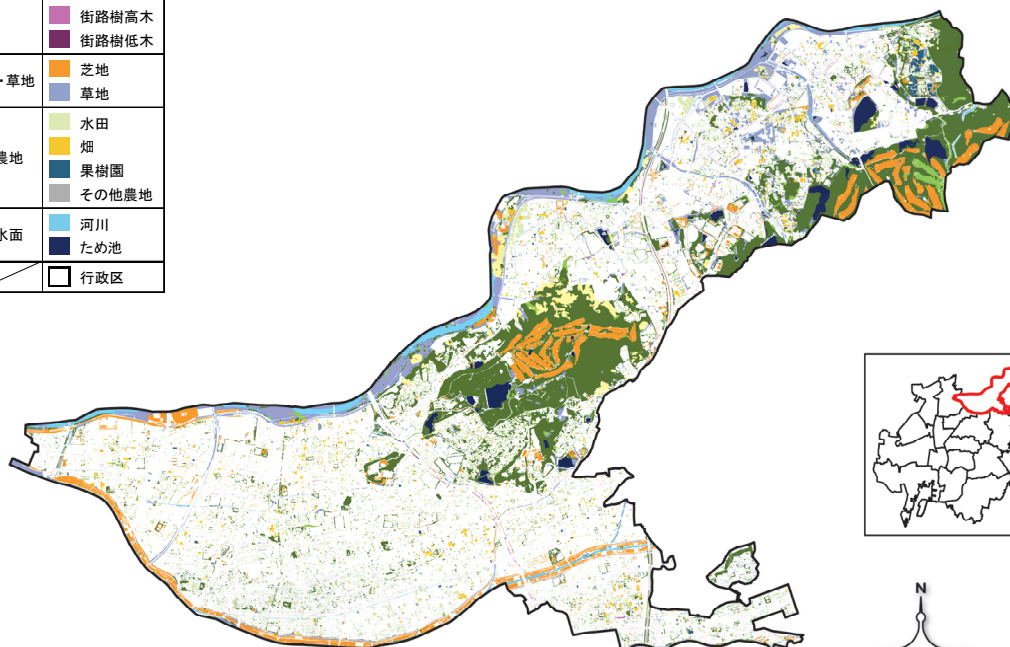


#### 4種別緑被率の推移



#### 令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木
	街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



0 1 2 km

(14) 緑区

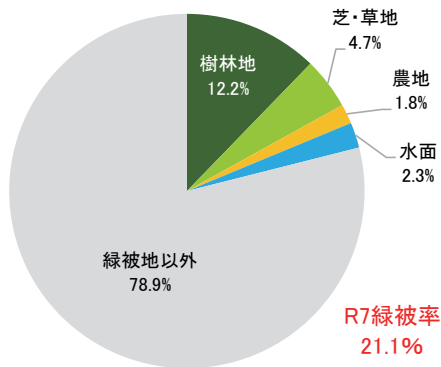
■ 緑被の概況

- ・ 緑区の緑被率は21.1%であり、全16区中で第6位であった。
- ・ 区の中央部には扇川が流れ、西部で天白川に合流し、連続した緑被地を形成している。
- ・ 区の西部から南部、東部にかけての丘陵地一帯に、氷上姉子神社や、大高城跡、鷺津砦公園、大高緑地、細根山、水広公園、ゴルフ場、勅使ヶ池墓園、徳重熊野社、乗鞍公園、滝ノ水緑地、滝の水公園、新海池公園など、多様な緑地がまとまった緑被地として点在している。

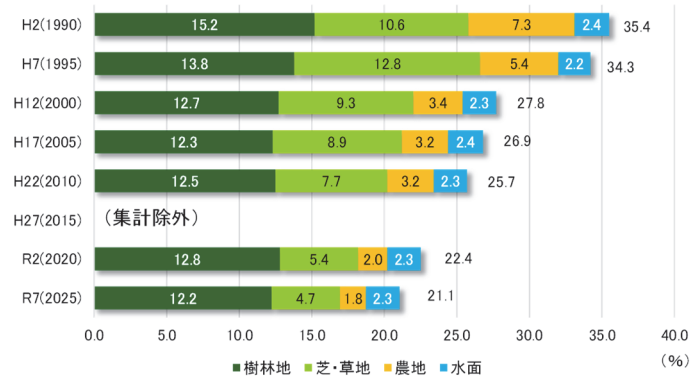
■ 緑被の経年変化

- ・ H2からR7の35年間で、緑被率は14.3ポイント減少、緑被地面積は541.17ha減少した。
- ・ その中でも特に農地の減少幅が大きく、緑被率は5.5ポイント減少、面積は207.01ha減少し、また、芝・草地も緑被率が5.9ポイント減少、面積が221.94ha減少した。

令和7(2025)年の緑被率

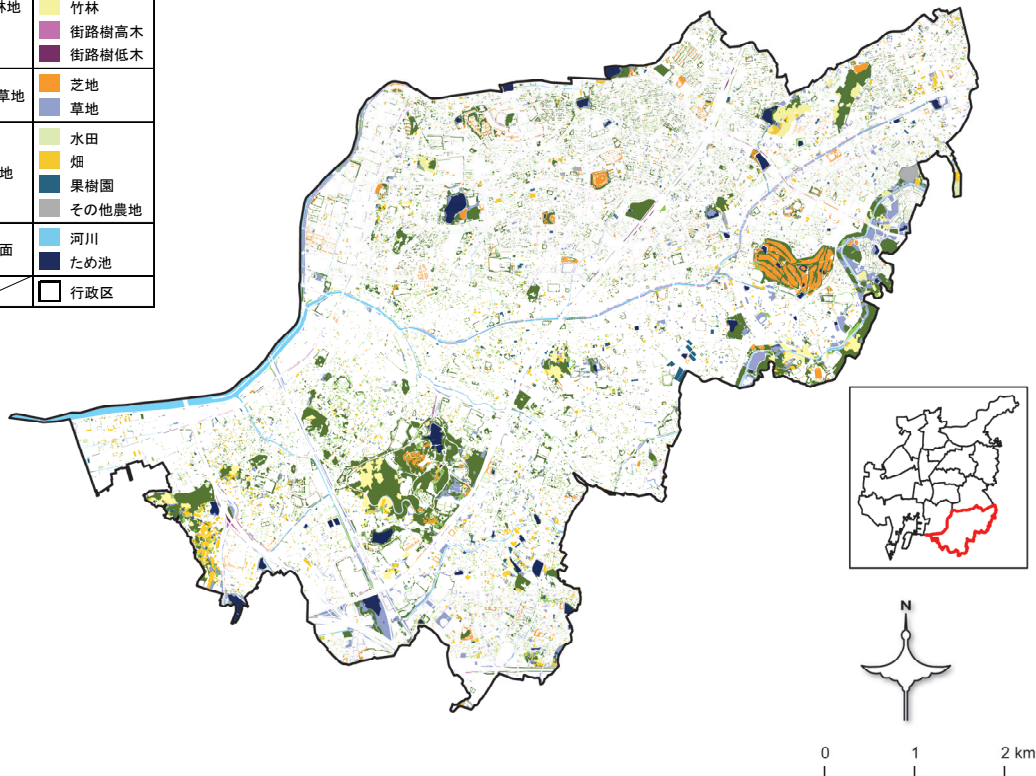


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地 草地
	水田 畑 果樹園 その他農地
農地	河川 ため池
	水面
	行政区



## (15) 名東区

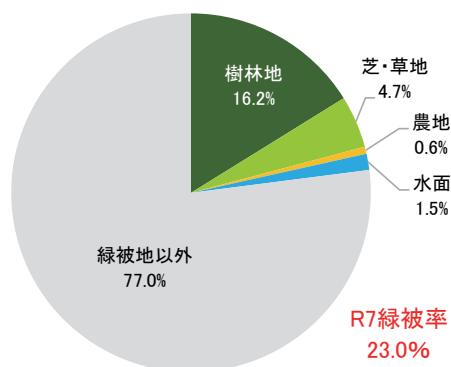
### ■緑被の概況

- ・名東区の緑被率は23.0%であり、全16区中で第4位であった。
- ・区の北部には矢田川とその支流である香流川のほか、中央部には植田川が流れ、また、東名高速沿いの藤森緑地や名二環沿いの街路樹等の緑被地が連続して存在している。
- ・区内には明德公園、平和公園、猪高緑地、東山公園、牧野ヶ池緑地など、大規模な公園緑地がまとまって存在している。

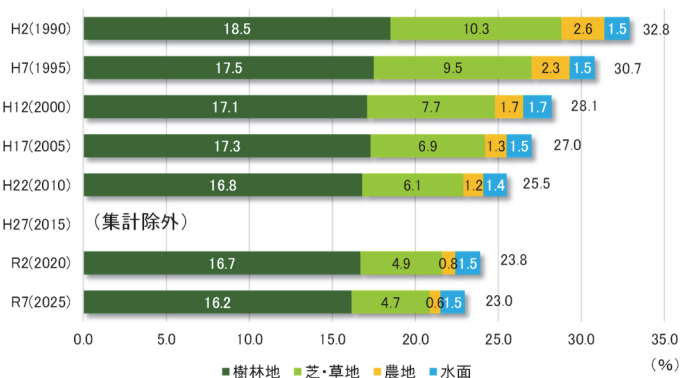
### ■緑被の経年変化

- ・H2からR7の35年間で、緑被率は9.8ポイント減少、緑被地面積は192.38ha減少した。
- ・その中でも特に芝・草地の減少幅が大きく、緑被率は5.6ポイント減少、面積は109.13ha減少した。

### 令和7(2025)年の緑被率

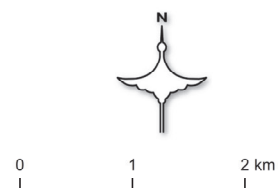
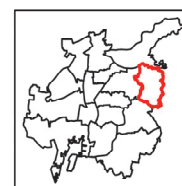
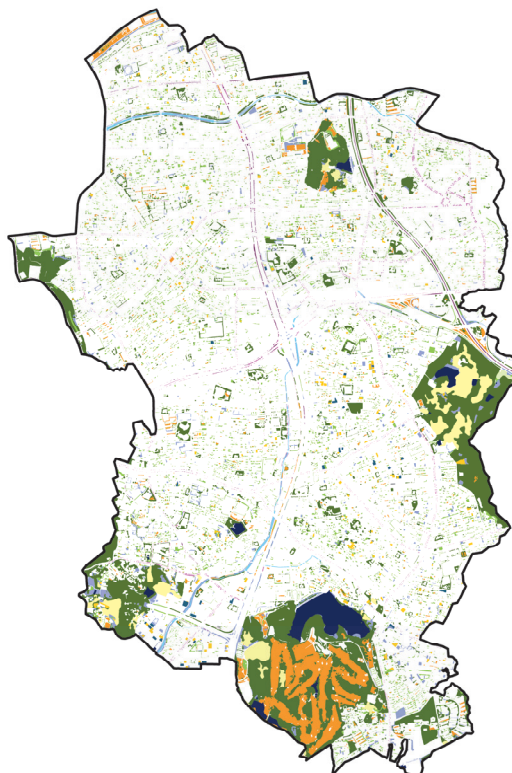


### 4種別緑被率の推移



### 令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園 その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



(16) 天白区

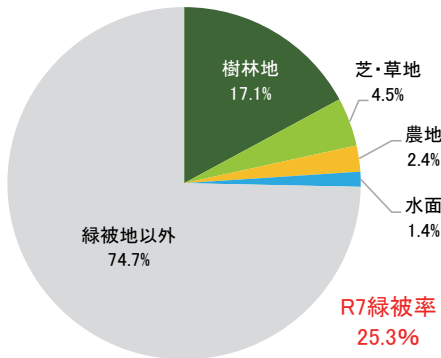
■ 緑被の概況

- ・天白区の緑被率は25.3%であり、全16区中で第2位であった。
- ・区の中央部には天白川とその支流の植田川が流れ、連続した緑被地を形成している。
- ・また、東山公園（裏山）、相生山緑地、天白公園、荒池緑地等の比較的規模の大きい公園緑地がまわって存在している。

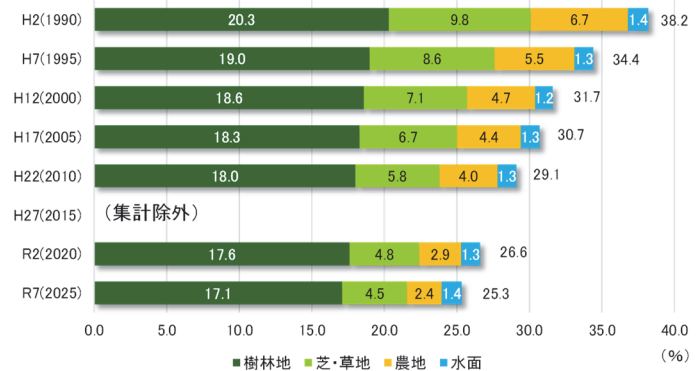
■ 緑被の経年変化

- ・H2からR7の35年間で、緑被率は12.9ポイント減少、緑被地面積は276.47ha減少した。
- ・その中でも特に芝・草地の減少幅が大きく、緑被率は5.3ポイント減少、面積は114.75ha減少し、また、農地も緑被率が4.3ポイント減少、面積が93.43ha減少した。

令和7(2025)年の緑被率

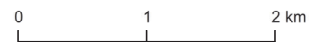
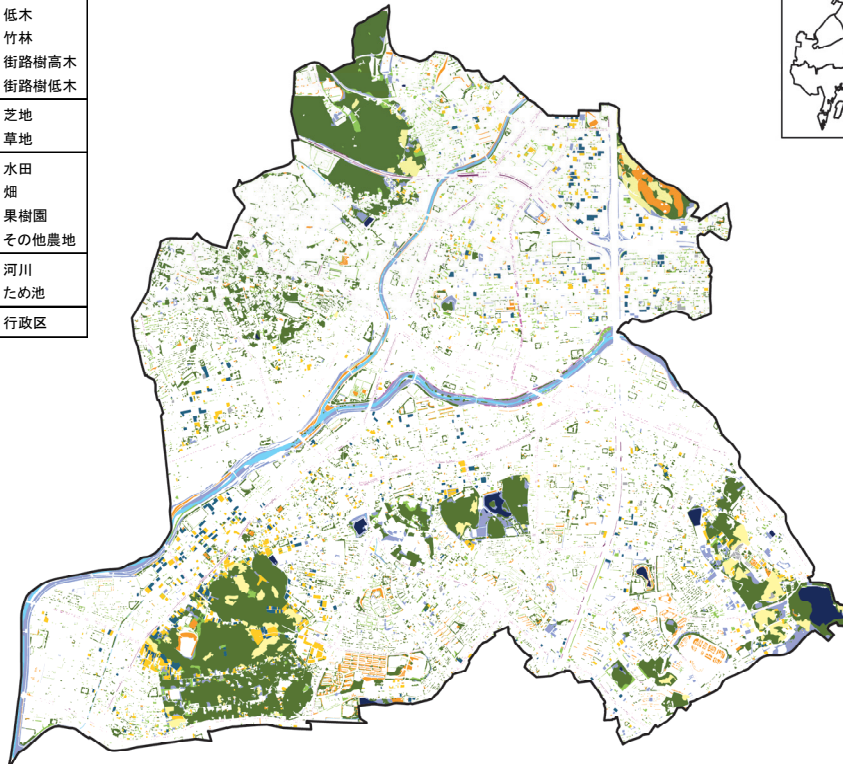


4種別緑被率の推移



令和7(2025)年の緑被地現況図

4種別	細種別
樹林地	高木
	低木
	竹林
	街路樹高木 街路樹低木
芝・草地	芝地
	草地
農地	水田
	畑
	果樹園
	その他農地
水面	河川
	ため池
	行政区



### 3-4-3. 都心部区域の緑被率

本項においては、「都市再生緊急整備地域（名古屋駅周辺・伏見・栄地域）」を「都心部区域」と設定し、緑被の状況を把握した。

その結果、都心部区域の緑被率は7.8%（緑被地面積：31.03ha）であった。

緑被種別に見ると、街路樹高木の緑被率が2.6%と最も高く、街路樹による道路緑化が緑被率の向上に貢献していた。

また、次いで高木の緑被率が2.0%あり、久屋大通公園、栄公園、下園公園、若宮大通公園をはじめとした公園緑地のほか、椿神明社（中村区則武2丁目）、牧野神明社（中村区太閤1丁目）、神明社（中村区名駅5丁目）、泥江縣神社（中区錦1丁目）、朝日神社（中区錦3丁目）等の社寺の社叢林、ノリタケの森（市民緑地、西区則武新町3丁目）、民間企業の公開空地（中区錦2丁目）等の企業による緑地も緑被率の向上に貢献していた。

なお、芝地の緑被率も1.0%あり、ノリタケの森（同上）やオアシス21（東区東桜1丁目）をはじめ、名古屋駅前やささしまライブ周辺の企業による緑地（公開空地、屋上緑化等）が緑被率の向上に貢献していた。

平成2(1990)年の緑被地データベースを基に、同一区域での緑被状況を整理し、その変化を見たところ、樹林地の緑被率が最も変化しており、1.2ポイント増加した。さらに、その詳細を見ると、高木は0.6ポイント減少しているものの、特に街路樹高木が1.7ポイント増加しており、街路樹の生長等により増加したものと考えられた。

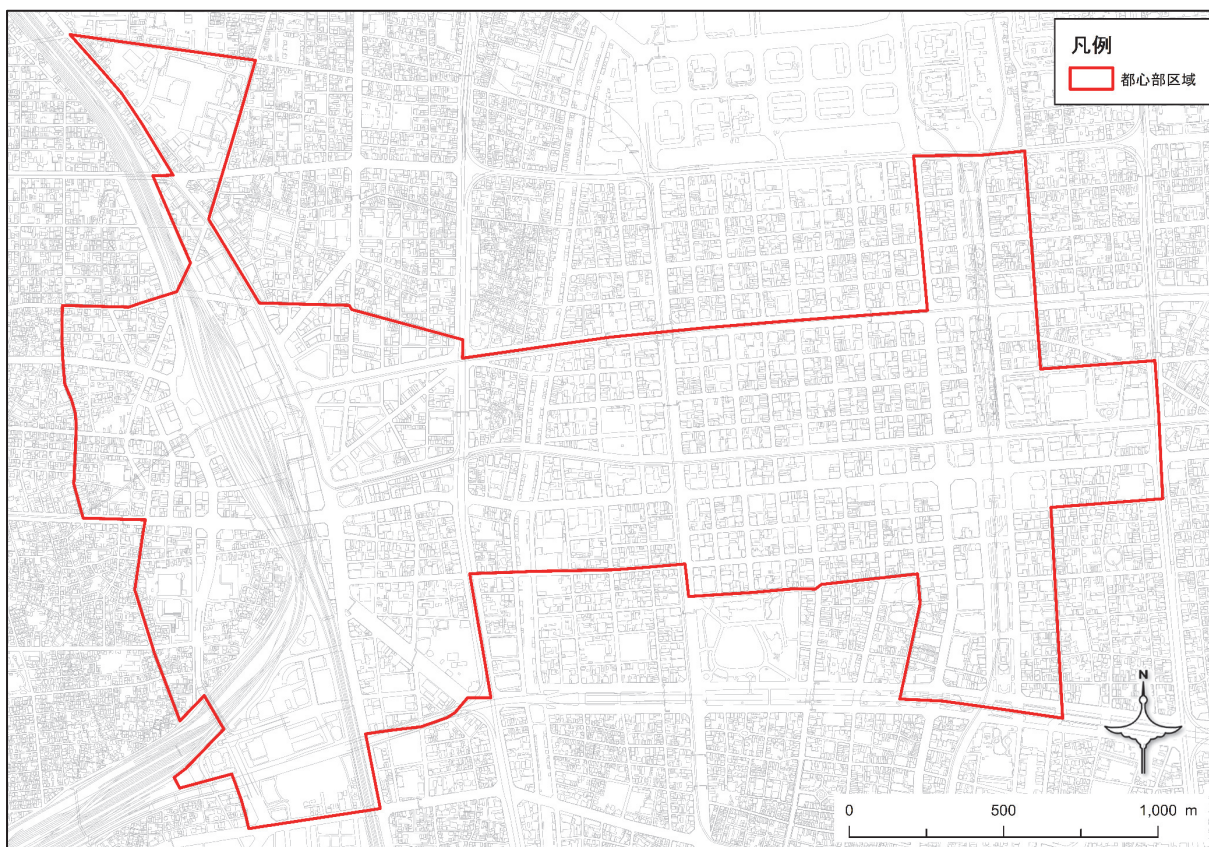


図 I-64：都心部区域の区域設定

表 I-43：都心部区域の緑被地面積及び緑被率の変化

緑被種別		平成 2 (1990) 年		令和 7 (2025) 年		H2⇒R7 増減	
4 種別	細種別	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)
樹林地	高木	10.57	2.6	8.16	2.0	▲2.41	▲0.6
	低木	1.94	0.5	2.24	0.6	0.30	0.1
	竹林	-	-	-	-	-	-
	街路樹高木	3.59	0.9	10.43	2.6	6.84	1.7
	街路樹低木	1.65	0.4	1.62	0.4	▲0.03	0.0
	小計	17.75	4.4	22.44	5.6	4.69	1.2
芝・草地	芝地	1.30	0.3	4.11	1.0	2.81	0.7
	草地	2.54	0.6	1.83	0.5	▲0.71	▲0.1
	小計	3.84	1.0	5.94	1.5	2.10	0.5
農地	水田	-	-	-	-	-	-
	畑	0.01	0.0	0.01	0.0	0.00	0.0
	果樹園	-	-	-	-	-	-
	その他農地	-	-	-	-	-	-
	小計	0.01	0.0	0.01	0.0	0.00	0.0
水面	河川	4.15	1.0	2.58	0.6	▲1.57	▲0.4
	ため池	0.27	0.1	0.06	0.0	▲0.21	▲0.1
	小計	4.42	1.1	2.64	0.7	▲1.78	▲0.4
	合計	26.02	6.5	31.03	7.8	5.01	1.3

注1) 緑被率は、各年とも都心部区域の公表面積 (401ha) を基に算出している。

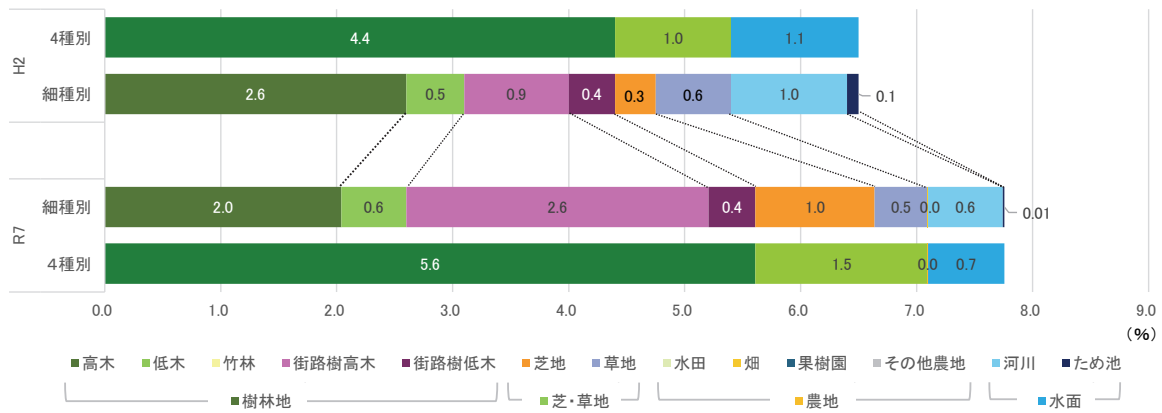


図 I-65：都心部区域の緑被率の変化

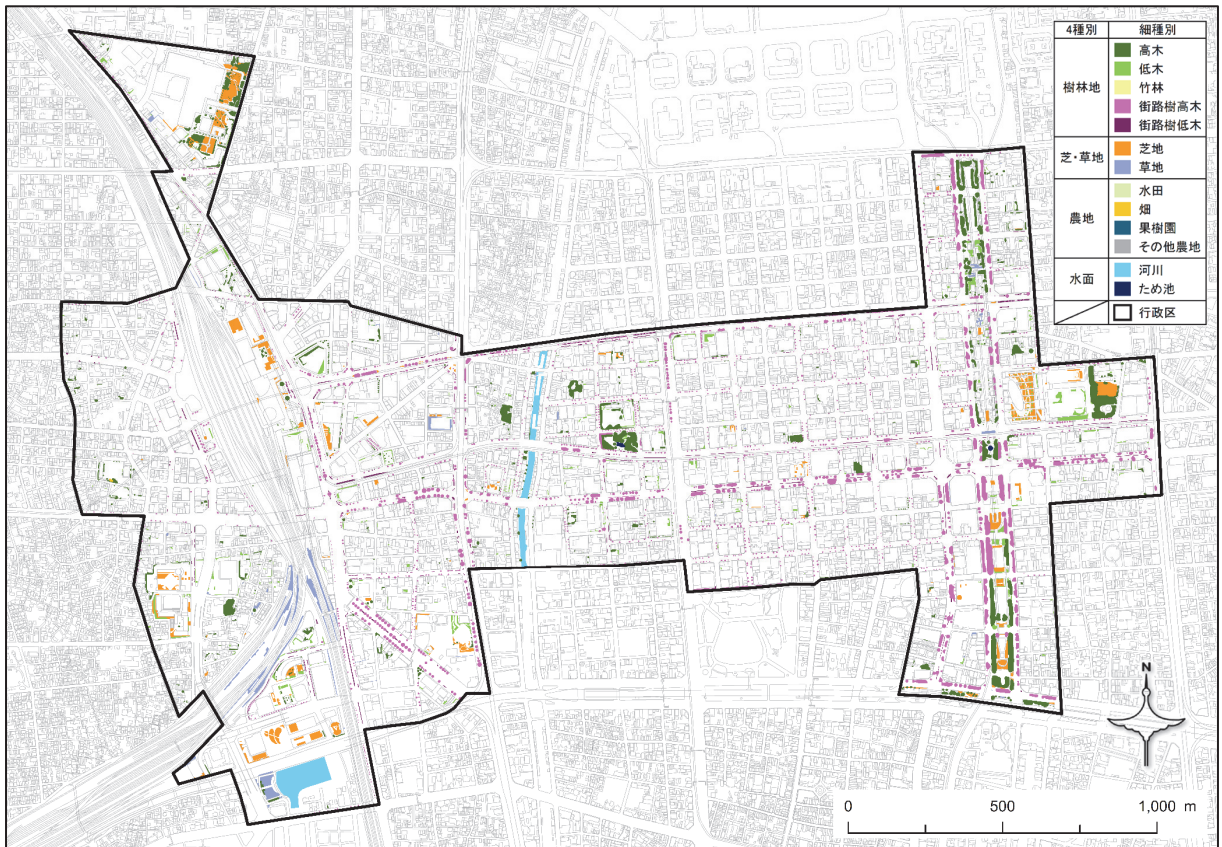


図 I -66 : 都心部区域 現況緑被地図【細種別】(令和 7 年)

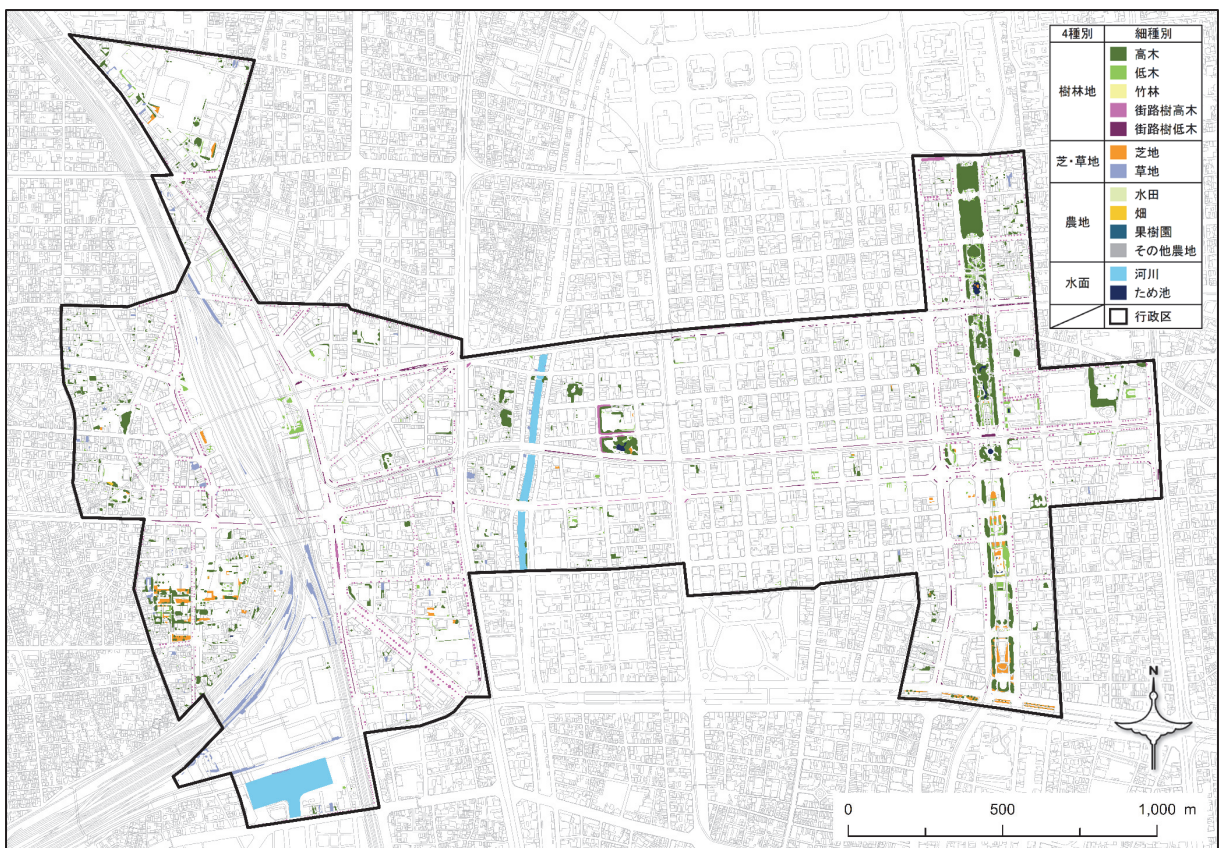


図 I -67 : 都心部区域 現況緑被地図【細種別】(平成 2 年)

### 3-5. まとめ

本調査の結果を踏まえ、緑被率の変化の状況について以下のとおり考察した。

#### ■ 本市の緑の概況

- ・ 令和7(2025)年の市域全体の緑被率は、20.4%であった。
- ・ 平成2(1990)年からの経年変化を見ると、緑被率は一貫して減少傾向にあるものの、近年はその減少の割合も緩やかになってきている。

#### ■ 緑のまとまり度の状況

- ・ 1ha以上のまとまりのある緑被地の多くは、西部地域に農地として、東部地域に樹林地や芝・草地として、また、市内を流れる河川として存在している。
- ・ 特に、こうした規模の大きい緑被地は減少傾向にある一方、小規模な緑被地はその数が増えていることから、緑被地の細分化が進行していると考えられた。
- ・ 1ha以上のまとまりのある樹林地は、樹林地全体の4割弱を占めるが、宅地化等により減少傾向にあることから、その保全是重要な課題と考えられる。
- ・ 農地は比較的まとまりのあるものが多いが、規模の大きなものも小さなものも全ての階級で減少傾向にあった。

#### ■ 土地利用と緑の状況

- ・ 公有地の都市公園における緑被地面積は増加傾向にあり、緑化の進展が考えられた。
- ・ 民有地の緑地被面積及び緑被率は減少傾向にあり、特に住居系では土地利用面積が増加している一方、緑被率は減少傾向にあることから、より一層の緑化の推進が必要と考えられた。

#### ■ 用途地域と緑の状況

- ・ 市街化区域の緑被率は16.9%、市街化調整区域の緑被率は55.4%で大きな差があった。
- ・ 住居系用途地域での緑被率は比較的高く、商業系用途地域での緑被率は低い状況にあることから、商業系用途地域でのより一層の緑化の推進が必要と考えられた。

#### ■ 地域別の緑の状況

- ・ 緑被率を地域別に見ると、東部地域が25.7%と最も高く、次いで、西部地域が19.4%であり、中央部地域は11.9%と市域全体の緑被率を大きく下回った。なお、地域別の緑被種別の特徴を見ると、東部地域及び中央部地域は樹林地が占める割合が比較的高い状況であるが、西部地域は樹林地、芝・草地、農地、水面が同程度ずつ分布している状況であった。
- ・ 緑被率を行政区別に見ると、守山区が35.0%と突出して高い状況であり、次いで、天白区が25.3%、港区が23.9%であった。また、各行政区別に特徴的な緑被種別と考えられるのは、

以下のとおりであった。

- 樹林地の緑被率については、東部地域の丘陵地に位置する守山区（19.5%）、千種区（17.6%）、天白区（17.1%）、名東区（16.2%）が高い。
- 芝・草地の緑被率については、庄内川や矢田川等の河川が流れる守山区（10.2%）、北区（7.8%）、西区（6.6%）が高い。
- 全行政区の中でも特に農地の緑被率が高い港区（8.1%）では、1 ha 以上のまとまりのある農地が、庄内川以西を中心に存在している。
- 緑被率の経年変化を見るとすべての区で減少しているが、その中でも中区の減少率が0.1%と最も低い。その主な要因は街路樹高木の緑被率が向上していることによる。